

大館市立総合病院年報

第 14 号

R6.4～R7.3



大館市立総合病院
ODATE MUNICIPAL GENERAL HOSPITAL

大館市立総合病院の理念と基本方針

理念

私たちは、患者さんが安心と満足を得られる医療を展開します。

基本方針

1. 患者さん中心の「医療」

患者さんとの信頼関係を大切にし、病める人への配慮を常に忘れず、心のこもった患者さん中心の医療を提供します。

2. 地域の中核病院としての「医療」

地域中核病院としての役割を担い、二次医療を中心に業務を遂行します。常に医療の安全と医療水準の向上をめざし、診療機能の充実を図ります。地域の医療、保健、福祉との連携を緊密にし、地域住民の健康を守ります。

3. 全職員参加の「医療」

全職員は、自己の業務を充分に理解し、他の医療職種との連携を図ってチーム医療を推進し、自己に課せられた業務に意欲的に取組み、病院機能の一層の充実を図ります。全職員は、病院運営に参加しているという自覚を持ちます。

4. 地域医療を担う「人材の育成」

臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設・臨床実習病院として、教育・研修体制の充実強化を図り、次世代の地域医療を担う人材を育成します。

患者さんの権利

患者さんには次のような権利があります。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1.公平かつ平等な医療を受ける権利 | 5.情報を知る権利 |
| 2.尊厳を尊重される権利 | 6.他の医師の意見を聞く権利 |
| 3.十分な説明を受ける権利 | 7.個人情報が守られる権利 |
| 4.自己決定の権利 | |

子ども患者さんの権利とお願い

あなたは、いつでもひとりの人間として大切にされ、あなたらしく生きる権利をもっています。病気を治すために、あなたとあなたのご家族や病院の医師、看護師たちが、おたがいに力を合わせていきます。

大館市立総合病院は、このような考え方でつくった「子ども患者さんの権利とお願い」を守って、あなたを助けていきます。

- 1.あなたは、どのような病気にかかったときでも、ほかの人と同じようによい医療を受けることができます。
- 2.あなたは、どのようなときでも、ひとりの人間として大切にされ、病院の人たちやご家族と力を合わせながら医療を受けることができます。
- 3.あなたは、病気のことや病気を治していく方法を、あなたがわかることばや絵などを使って、病院の人に教えてもらうことができます。
- 4.あなたは、病気のことや病気を治す方法について、十分な説明を受けたうえで、自分の考えや気持ちを病院の人やご家族に伝えることができます。
- 5.あなたは、わからないことや不安なことがあるときはいつでも、ご家族や病院の人たちに聞いたり、話したりすることができます。
- 6.あなたは、入院しているときでも、できるかぎりご家族と一緒に過ごすことができます。
- 7.あなたは、入院していても、勉強したり、遊んだりすることができます。
- 8.あなたは、自分が大切にしたいこと、知られたくないことが守られる権利があります。他の人に伝える必要があるときは、その理由とともに伝えてよいかをあなたに確認します。
- 9.あなたの病気がよくなるように、あなたのからだや気持ちのことをできるだけくわしく病院の人たちに伝えるようにしてください。
- 10.あなたとみんなが気持ちよく過ごすために、病院のやくそくをまもってください。

目 次

大館市立総合病院の理念と基本方針

目次

卷頭言	大館市病院事業管理者 吉原 秀一 大館市立総合病院 院長 成田 知	1 2
沿革・施設概要		3
建物配置図		5
組織図		6
役職員名簿		7
職員数		8
医師在職者数調		9
認定施設一覧		10
病院見学受入実績		11
I. 各診療科別の臨床統計		12
1. 呼吸器内科		13
2. 循環器内科		17
3. 消化器・血液・腫瘍内科		20
4. 内分泌・代謝・神経内科		23
5. 外科		29
6. 呼吸器外科		32
7. 整形外科		35
8. 脳神経外科		39
9. 小児科		41
10. 産婦人科		45
11. 泌尿器科		49
12. 耳鼻咽喉科		52
13. 神経精神科		55
14. 麻酔科		58
15. 歯科口腔外科・矯正歯科		61
II. 部門別の臨床統計・研究実績		65
1. 看護部		66
2. 臨床検査科		71
3. 神経精神科リハビリテーション室		73
4. 薬剤科		76
5. 栄養科		83
6. 放射線科		85
7. リハビリテーション科		88
8. 臨床工学科		91

9. 医療安全推進室	94
10. 感染制御室	96
11. 訪問看護ステーション	98
III. 各委員会等報告	99
院内委員会等機構図	100
1. 医療安全対策委員会	101
2. リスクマネジメント委員会	103
3. 医療機器安全管理委員会	105
4. 院内感染対策委員会	106
5. ICT委員会	108
6. 臨床研修管理委員会	110
7. 卒前卒後研修委員会	112
8. 医の倫理委員会	113
9. 災害対策委員会	115
10. 衛生委員会	116
11. 放射線安全管理委員会	118
12. 医療廃棄物管理委員会	119
13. 医療ガス安全管理委員会	120
14. 輸血療法委員会	121
15. 診療記録管理委員会	122
16. 褥瘡対策委員会	123
17. 臨床検査適正化委員会	125
18. 栄養管理委員会	127
19. 勤務医負担軽減対策委員会	128
20. 透析機器安全管理委員会	129
21. がん拠点病院運用会議	131
22. 化学療法放射線治療委員会	132
23. がん登録委員会	133
24. 緩和ケア委員会	135
25. NST委員会	138
26. クリニカルパス委員会	140
27. 情報システム運用委員会	141
28. 薬事委員会	142
29. 患者サービス委員会	143
30. 地域医療連携推進委員会	144
31. 医療器材管理委員会	145
32. 保険診療委員会	146
33. 広報委員会	148
34. 救命救急センター運営委員会	149
35. 図書室運営委員会	150
36. 手術室運営委員会	151
37. 臨床工学科運営委員会	152
38. 教育委員会	153
39. 機能評価委員会	154
40. 排泄ケア委員会	155
41. 呼吸ケアサポートチーム委員会	156
42. 骨折リエゾンサービスチーム委員会	...	157
43. 糖尿病対策委員会	159
44. 訪問看護ステーション運営委員会	161
IV. 臨床統計	162
1. 年度別患者数	163
2. 科別外来患者数(新患・再来)	..	164
3. 科別外来患者数(新患)	165
4. 科別外来患者数(再来)	166
5. 科別時間外・休日受付入院患者数	167
6. 科別時間外・休日受付外来患者数	168
7. 科別入院患者取扱状況	169
8. 科別入院患者取扱状況	169
9. 科別1日平均入院患者数	170
10. 科別1日平均外来患者数	170
11. 年度別外来紹介患者数・紹介率	171
12. 紹介率・逆紹介率	172
13. 病棟稼働状況及び病床利用率	..	173
14. 年度別科別平均在院日数	174
15. 年齢別入院患者分析表	175
16. 年齢別外来患者分析表	176
17. 診療科別・病棟別平均在院日数	..	177
18. 分娩件数	178
19. 外来化学療法件数	179
20. 年度別麻酔件数	179
21. 月別麻酔件数	180
22. 診療科別麻酔件数	180
23. 救急患者来院数	181
24. 救急車搬入件数及び転送件数	...	182
25. 来院方法別救急患者数	183
26. 人間ドック受診者数	183
27. 診療情報開示請求件数	184
28. 診療科別疾病統計	185
29. 原死因統計	186
30. 看護必要度状況	186
V. 臨床指標	187
大館市立総合病院年報第14号編集にあたって	191

卷頭言



令和6年度 第14号大館市立総合病院年報発刊に寄せて

大館市病院事業管理者 吉原秀一

令和6年度病院年報の発刊にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

令和6年度は新型コロナ対策が一段落し、本来であれば通常診療に復帰できる年でありました。しかし実態は新型コロナ感染以前の状態には戻らず、患者の減少は継続し特に分娩数を始めとする小児科疾患の減少は加速しております。また、当院地域は、全国的にも過疎化が進行する典型的な地域であり、少子高齢化、人口流出、医療資源の偏在といった課題が年々深刻さを増しております。特に医療分野においては、医師・看護師の確保が困難であることに加え、交通手段の制限や高齢者の単身世帯や老老世帯の増加により、医療アクセスの格差が顕著となっております。また、周辺地域の医療機関では診療縮小や廃止が相次ぎ、それらを補完する当院への負担はますます増加しております。

こうした状況の中で、我々の病院は地域唯一の中核病院として「地域に根ざした医療の提供」を理念に掲げ、限られた資源の中でも質の高い医療を維持すべく、職員一同が日々努力を重ねてまいりました。これらを実現するために地域包括ケアの推進を柱とし、本院を中心とした地域医療連携推進法人「北鹿ヘルスケアネット」が設立されました。本法人は急性期病院である本院と地域回復期・慢性病院そして介護施設などを網羅的に連携する目的のために設立されており、将来的には高齢者に対する生活支援にまで発展できればと考えております。この法人により急性期・回復期・慢性期医療そして介護と切れ目のない支援を地域住民に提供できることを目標としております。また、その必要性が年々増加している在宅医療の充実のための訪問看護ステーションが本年度当院に設立され、地域が抱える医療課題を、多職種連携の強化の上、対応してまいりたいと思っております。

一方で、医療従事者の働き方改革やメンタルヘルス支援も喫緊の課題です。当年度より出退勤管理システムを導入し、長時間労働の解消と健康管理に注力していくことを考えております。過疎地における医療は、都市部以上に多岐にわたる業務を少人数で担う必要があります、職員の負担は大きくなりがちです。私たちは、職場環境の改善と人材育成に力を注ぎ、若手職員が安心して働き続けられる病院づくりを目指しています。

本年報では、令和6年度の診療実績、地域連携の成果、職員の取り組みなどを詳細に記録しております。これらは、地域医療の未来を見据えた貴重な足跡であり、今後の医療政策や病院運営の参考となることを願ってやみません。

最後に、地域住民の皆様、関係機関の皆様、そして日々献身的に医療を支えてくださる職員の皆様に心より感謝申し上げます。我々はこれからも、地域に必要とされる病院として、誠実に、そして柔軟に医療の在り方を模索し続けてまいります。

卷頭言



令和6年度 第14号大館市立総合病院年報発刊に寄せて

院長 成田 知

令和7年4月に院長を拝命した成田知です。私は平成8年4月から当院に勤務しており、これまで自科の業績を作成しておりましたが、今回からは巻頭言を作成する立場となりました。

院長となり、初めて当院で初期研修を目指す医学生の面接を行いました。ほとんどの医学生が、当院を初期研修の場として選んだ理由として挙げたのが、当院の雰囲気が良いということでした。実習で当院を訪れた際に、職員の皆さんに声を掛けてもらったことや、優しくしてもらったことが印象に残っていたようです。秋田県は、医師の偏在率が47都道府県で41番目です。ただでさえ医師不足な状況ですが、今回の医師研修マッチングで秋田県の医療機関で初期研修を希望した医学生は62人で、全国で7番目に少ない数でした。その中で、当院での研修を希望した医学生は9人で、秋田県内では2番目に多い数でした。研修内容はもちろん重要ですが、2年間過ごす職場環境が最も重要であり、当院の職場環境が評価された賜物です。

現在大館市の人口は約64,000人ですが、2040年には5万人を割り込むと予測されています。65歳以上の人口は徐々に減少していくますが14歳から64歳の人口は急激に減少し、2040年には65歳以上の人口を下回ると予測されています。日本でもトップクラスの高齢化率です。

今年4月に地域医療連携推進法人である「北鹿ヘルスケアネット」を立ち上げました。これは、少子高齢化が急速に進行する中で、区域内の限られた医療資源等を効果的、効率的に活用するとともに、相互の機能分担や業務連携を進め、住民が住み慣れた地域で将来にわたって必要な医療・介護サービスを受けられる地域包括ケアシステムを構築するためです。現在参加している病院・施設は、大館市立総合病院、大館市立扇田病院、大館記念病院、大湯リハビリ温泉病院、大湯リハビリ温泉病院介護医療院、ケアハウス温泉保養館おおゆ、大館市特別養護老人ホームつくし苑、大館市ケアハウスほうとう、大館市養護老人成章園です。連携する内容は、①医療従事者など職員の相互派遣②患者の病状に応じた医療・介護の提供③災害時の協力体制の構築④職員研修等の共同実施による人材養成⑤ICTに関する情報共有と連携推進による業務の効率化⑥物品購入、委託業務など共同交渉などによる費用削減です。これまでに、看護師、作業療法士の相互派遣や研修会への共同参加を行っています。今後さらに参加病院・施設を増やしていく、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援等のサービスを包括的に提供できる地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいきます。

仕事をする上で何らかの目標を持って勤務することは、意欲向上のために必要です。病院年報は、職員皆さんの普段からの努力により作成された宝物です。1年間ご苦労様でした。医療を取り巻く環境が更に厳しくなる中、「人に優しく、職場は楽しく、仕事は厳しく」の精神を持ち続けていただくよう、よろしくお願いします。

沿革・施設概要

明治12年に、木村謙斎、川瀬玄探ら8氏の主唱により字馬喰町地内に私立大館病院として創設され、その後、明治15年に50か町村連合による公立大館病院が成立。明治32年には字長倉地内に新築移転、更に、昭和2年字三ノ丸地内に新築移転した。昭和28年4月の大火により全施設を消失し、昭和30年2月までに現在地(豊町)に新築移転した。昭和39年からは公立大館総合病院となったが、財政事情の悪化により昭和41年2月12日に病院を運営する一部事務組合 公立大館総合病院事務組合(大館市、田代町、花矢町で組織)を解散し、翌13日に大館市が一切を継承した大館市立総合病院として発足した。

財政再建を進めながら、昭和45年5月には本館棟、昭和55年3月には放射線棟、昭和56年10月には神経精神科棟、昭和59年10月には新館棟、平成9年11月には新館棟屋上に教育実習棟が完成した。平成12年から平成21年にかけては、高層棟などの大規模な増改築事業を行った。

また、地域の中核病院としての役割を果たすため、平成24年度にDPC病院への移行と病院機能評価の認定、平成25年度に臨床研修評価の認定、そして平成26年度には地域連携室の開設や電子カルテの導入などに取り組んできた。さらに、平成28年度の地域包括ケア病棟導入と認知症疾患医療センター設置。平成30年度には鹿角地域の産科機能の集約化から患者の受け入れ体制を強化した。令和3年度より、地域の中核医療機関として救急医療機能の体制整備を行い、24時間体制での緊急PCI受入れを開始、令和6年度には地域救命救急センターを整備し、重症患者の受け入れ拡大を図るなど一層の診療機能の充実に努めている。

年表

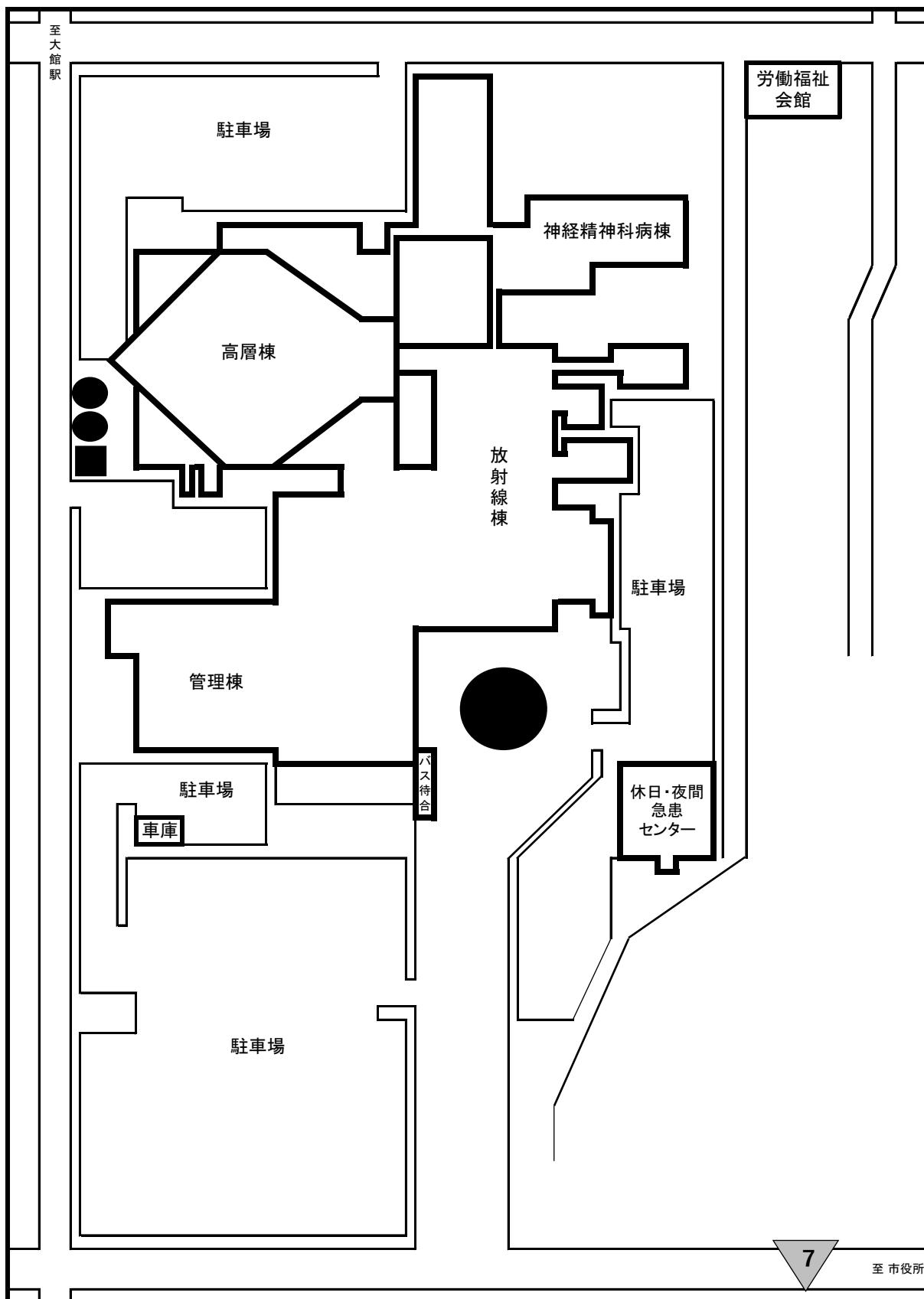
明治12年	「私立大館病院」として創設
15年	東大館町などの50か町村連合による「公立大館病院」が発足
32年	字長倉地内へ新築移転
昭和 2年	字三ノ丸地内へ新築移転
28年 4月	風呂屋町から発生した大火によって全施設を消失
30年 2月	現在地(豊町)に新築移転 許可病床数 一般147床、結核268床の計415床
4月	伝染病棟及び精神病棟完成 許可病床数 一般207床、結核268床、伝染36床、精神50床の
～12月	計561床
39年 4月	「公立大館総合病院」へ名称変更 許可病床数 一般219床、結核303床、精神180床、伝染28床
	計730床
41年 2月	極度の財政事情悪化により「公立大館総合病院」を運営する一部事務組合は12日に解散。 翌13日には大館市が一切を継承し「大館市立総合病院」として発足。許可病床数は、一般213床、結核207床、精神180床、伝染30床の計630床
	一部事務組合より継承した不良債務は3億7,400万円に上り、その解消を図るため、向後9か年の財政再建計画を策定し、自治省より再建団体の指定を受ける
45年 5月	本館棟を改築。(地下1階、地上6階、総事業費6億9,400万円)許可病床数は、一般290床、結核150床、精神180床、伝染30床の計650床(昭和46年3月時点)
46年～ 47年	病床数の変更 昭和46年7月 646床、昭和47年1月 481床、昭和47年6月 一般325床、結核70床、精神80床、伝染26床の計501床
49年	再建団体の指定解除
55年 3月	放射線棟を増築(事業費10億500万円)
10月	病床数の変更 一般325床、結核70床、精神110床、伝染26床の計531床
56年10月	神経精神科棟を全面改築(事業費5億3,735万円)
58年 7月	病床数の変更 一般375床、結核10床、精神110床、伝染10床の計505床
59年10月	新館棟を増築(総事業費13億3,797万円)
63年11月	豊町に医師住宅を建築(総事業費4億867万円)
平成 6年 3月	放射線棟MRI室の増築(総事業費2億1,423万円)
7年11月	昭和63年度頃から経営が悪化し、国の第四次病院事業経営健全化措置による病院健全化団体に指定される
9年 7月	積極的な経営健全化に努めた結果、病院健全化団体の指定解除
11月	新館棟屋上に教育実習棟を増築(総事業費2億2,926万円)
11年 4月	病床数の変更 一般375床、結核10床、精神110床、感染2床の計497床
12年～ 21年	地上11階建屋上ヘリポート設置の高層棟の増築(本館棟の解体)、管理棟(旧新館棟)及び放射線棟の一部改築などの増改築事業を実施(総事業費108億400万円) 許可病床数 一般375床、結核6床、精神110床、感染2床 計493床
20年 4月	地方公営企業法の全部適用により病院事業管理者を設置
12月	平成19年12月に国が示した公立病院改革ガイドラインに基づき病院事業経営改革プランを策定
21年 5月	7対1入院基本料施設基準の取得(一般・結核)
11月	弘前大学との間で「専門医養成ネットワークに関する協定」を締結
22年 6月	病院ロゴマークの制定
8月	病院広報誌「おおだて病院だより」を発行

平成23年 1月	院内保育所を開設(事業費1,942万円)
12月	人工透析室を拡張(事業費9,520万円)
24年 2月	「病院事業経営改革プラン」の見直し
4月	DPC対象病院となる 病床数の変更 一般375床、結核6床、精神60床、感染2床 計443床 診療科名の見直し(新設、廃止、名称変更により22科から24科へ)
10月	外来駐車場を50台分拡張(1,380m ² 事業費1,282万円)
11月	売店をコンビニエンスストアとして新規開店
12月	看護師奨学金貸与条例を制定
25年 1月	病院機能評価(ver6.0)の認定を受ける 「総合病院年報」第1号を発行
25年11月	高校生病院見学会開催
12月	弘前大学寄附講座によるフューチャードクターセミナー開催
26年 2月	臨床研修評価の認定を受ける
5月	地域連携室を開設
7月	あきたハートフルネットの利用開始。県内参加医療機関との情報共有化が可能となる
11月	電子カルテを含む新医療情報システムが稼働。患者一人1カルテ体制となる
27年 4月	呼吸器外科を新設。地域がん診療連携拠点病院として常勤医師2名の診療体制となる
28年 2月	臨床研修評価更新のため受審し、認定を受ける 地域がん診療連携拠点病院として平成32年3月まで4年間の指定更新を受ける
4月	地域包括ケア病棟を導入(59床)
10月	認知症疾患医療センターを設置
29年 3月	平成27年3月に国が示した新公立病院改革ガイドラインに基づき病院事業経営改革プランを策定 新たに「地域医療を担う人材の育成」を追加するなど、病院の理念・基本方針の見直しを行う
5月	病院機能評価(精神科病院を含む3rdG:Ver1.1)の認定を受ける
30年 1月	臨床研修評価更新の認定を受ける
3月	鹿角地域の産科機能の集約化
10月	院内保育所で病児保育を開始
31年 4月	地域がん診療連携拠点病院として令和5年3月まで4年間の指定を受ける
令和元年10月	県より秋田DPAT病院の指定を受ける
2年	新型コロナウイルス対応重点医療機関としての体制整備を図る
3年 5月	心臓カテーテル治療(PCI)の受入れを開始
10月	24時間体制での緊急PCI受入れを開始
11月	電子カルテ等の医療情報システムを更新
4年 4月	院内で初の診療看護師を配置
5月	「患者さんの権利」の見直しを行う
5年 3月	地域がん診療病院として令和9年3月まで4年間の指定を受ける
6年 4月	既存救急室等を増改築し地域救命救急センターを開設 訪問看護ステーションを開設
10月	「こども患者さんの権利」を制定する
7年 3月	病院機能評価更新(精神科病院を含む3rdG:ver1.1)の認定(更新)を受ける

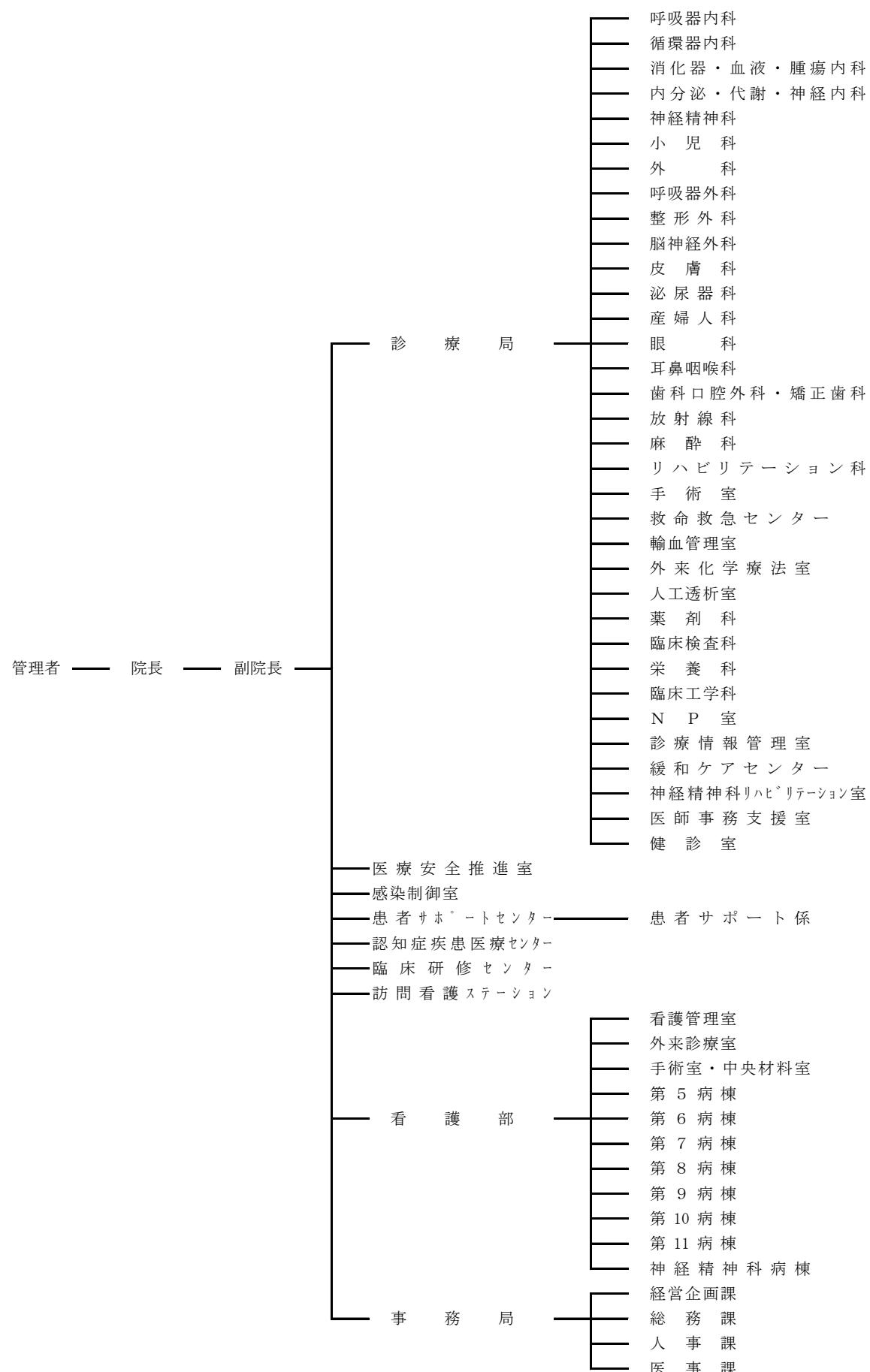
施設の概要

① 所 在 地	大館市豊町3-1 (TEL42-5370)		
② 敷 地	病院敷地 36,608m ²	公舎敷地 3,124m ²	
③ 建 物	病院(RC造11階建 他)		43,862.63m ²
	職員宿舎(RC造3階建)	4戸建1棟	431.81m ² (赤館)
	〃 (RC造4階建)	16戸建1棟	2,491.95m ² (豊町)
	〃 (木造モルタル造)	2戸	187.15m ² (桜町)
	計		46,973.54m ²
診 療 科 名	循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・内分泌内科・代謝内科・神経内科 精神科・小児科・外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科 眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・歯科・歯科口腔外科・矯正歯科 計25科		
病 院 の 性 格	救急告示病院・災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・DPC対象病院 地域がん診療病院・第二種感染症指定医療機関・エイズ治療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院・卒後臨床研修評価機構認定病院 秋田県地域療育医療拠点施設(歯科診療部門)・精神科救急地域拠点病院 精神科救急身体合併症対応病院・秋田県地域周産期母子医療センター 弘前大学専門医養成ネットワークに関する協定病院・認知症疾患医療センター 地域救命救急センター(県)・日本脳卒中学会一次脳卒中センター		

建物配置図



組織図(令和6年度)



役職員名簿

(令和7年3月31日)

管 理 者	吉 原 秀 一
院 長	吉 原 秀 一
副 院 長	橋 本 浩
副 院 長	大 石 晋
副 院 長 兼 診 療 局 長	成 田 知
副 診 療 局 長	小 笠 原 仁
副 診 療 局 長	横 山 徹
副 診 療 局 長	篠 原 敦

外来化学療法室	室 長	小 笠 原 仁
神経精神科リハビリテーション室	室 長	橋 本 浩二郎
リハビリテーション室	部 長	横 山 徹
人工透析室	室 長	成 田 知
放射線科	部 長	篠 原 敦
手術室	部 長	橋 本 浩
救命救急センター	センター長	丹 代 諭
輸血管理室	室 長	小 笠 原 仁
臨床工学科	室 長	成 田 知
医療安全推進室	室 長	成 田 知
感染制御室	室 長	池 島 進
診療情報管理室	室 長	大 石 晋
薬剤科	部 長	中 居 肇
患者サポートセンター	センター長	池 島 進
緩和ケアセンター	センター長	大 石 晋
認知症疾患医療センター	センター長	橋 本 浩二郎
医師事務支援室	室 長	成 田 知
卒後臨床研修センター	センター長	丹 代 諭
健診室	室 長	吉 原 紗子
栄養科	部 長	池 島 進
臨床検査科	部 長	大 石 祐 子
看護部	看護部長	畠 山 美 嘉 子
訪問看護ステーション	事業所長	日 景 美 佳 子
事務局	事務局長	田 畑 素 保

職 員 数

(令和7年3月31日)

所属	区分	職員数(人)	
	管理者	1	
診療局	医師	52	
	研修医	18	
	薬剤科	薬剤師	18
	放射線科	放射線技師	14
	臨床検査科	臨床検査技師	20
	栄養科	栄養士	7
		理学療法士	13
	リハビリテーション科	作業療法士	6
		言語聴覚士	2
		精神保健福祉士	2
	神経精神科	臨床心理士	2
		作業療法士	0
		精神保健福祉士	1
	認知症疾患医療センター		
	臨床工学科	臨床工学技士	6
	眼科	視能訓練士	2
医療安全推進室	副室長	1	
看護部	看護師	331	
	診療看護師	3	
	准看護師	0	
	助手・技能員	1	
訪問看護ステーション	看護師	3	
事務局	事務職員	35	
合計		538	

医師・研修医在職者数

(単位:人)

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
呼吸器内科	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	32	2.7
循環器内科	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0
消化器・血液・腫瘍内科	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
内分泌・代謝・神経内科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
神経精神科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
小児科	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0
外科	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
呼吸器外科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
整形外科	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0
脳神経外科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
泌尿器科	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
産婦人科	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5.0
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
耳鼻咽喉科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
歯科口腔外科・矯正歯科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
放射線科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
麻酔科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
臨床検査科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
臨床研修医	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18.0
合計	71	71	71	71	71	71	71	71	70	70	70	70	848	70.7

認定施設一覧

(令和7年3月31日)

番号	学会名等	認定施設名等
1	日本泌尿器科学会	日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医教育施設 抛点教育施設
2	日本産科産婦人科学会	日本産科産婦人科学会 専門医制度専攻医指導施設(連携型)
3	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会 専門医修練施設
4	日本整形外科学会	日本整形外科学会 専門医制度研修施設
5	日本脳神経外科学会	日本脳神経外科学会 専門研修プログラム連携施設
6	日本麻酔科学会	日本麻酔科学会 麻酔科認定病院(研修施設)
7	日本糖尿病学会	日本糖尿病学会 認定教育施設
8	日本外科学会	日本外科学会 外科専門医制度修練施設
9	日本がん治療認定医機構	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
10	日本消化器内視鏡学会	日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設
11	日本乳癌学会	日本乳癌学会 専門医制度関連施設
12	日本臨床腫瘍学会	日本臨床腫瘍学会 認定研修施設(特別連携施設)
13	秋田県医師会	秋田県医師会母体保護法指定医師研修機関
14	日本循環器学会	日本循環器学会 循環器専門医研修関連施設
15	日本周産期・新生児医学会	日本周産期・新生児医学会 周産期母体胎児専門医補完研修施設
16		日本周産期・新生児医学会 周産期新生児専門医補完研修施設
17	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診 施設画像認定証
18	日本病理学会	日本病理学会 研修登録施設 (連携する認定施設名=弘前大学)
19	厚生労働省	地域がん診療病院
20	日本産科婦人科内視鏡学会	日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
21	日本消化器病学会	日本消化器病学会 専門医制度認定施設
22	日本感染症学会	日本感染症学会 専門医制度認定研修施設
23	日本医学放射線学会	日本医学放射線学会 放射線科専門医修練機関
24	日本理学療法士協会	日本理学療法士協会 新人教育プログラム臨床指導施設
25	呼吸器外科専門医合同委員会	呼吸器外科専門医制度関連施設
26	日本消化管学会	日本消化管学会 胃腸科指導施設
27	薬学教育協議会	薬学生実務実習受入施設
28	日本輸血・細胞治療学会	日本・輸血・細胞治療学会 輸血機能評価認定制度(I&A制度)認定施設
29	日本医療薬学会	日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設(基幹施設)
30		日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定制度 がん専門薬剤師研修施設
31		日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師制度 薬物療法専門薬剤師研修施設
32	日本病院薬剤師会	日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業暫定教育施設
33	肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定機構 肺がんCT検診認定施設
34	日本口腔外科学会	日本口腔外科学会 准研修施設
35	日本肝臓学会	日本肝臓学会 肝臓専門医制度に基づく認定施設の特別連携施設
36	日本臨床腫瘍薬学会	日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修病院
37	日本呼吸器内視鏡学会	日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医制度 関連認定施設
38	日本脳卒中学会	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(PSC)

病院見学等受入実績

・職場見学や職場訪問として、次のとおり受け入れた。

回	見学日	学校名（学年・人数）	対象職種
1	令和6年5月22日	大館市立東中学校 (2年生・4名)	看護部
2	令和6年5月23日	大館市立第一中学校 (2年生・12名)	臨床検査科・薬剤科・リハビリテーション科
3	令和6年5月 29日～30日	大館市立北陽中学校 (2年生・4名)	看護部・臨床検査科・放射線科・薬剤科・栄養科・リハビリテーション科
4	令和6年7月 9日～10日	秋田県立北鷹高等学校 (2年生・7名)	看護部・臨床検査科・放射線科・薬剤科・リハビリテーション科
5	令和6年7月19日	秋田県立鹿角高等学校 (2年生・3名)	看護部
6	令和6年9月4日	秋田県立大館桂桜高等学校 (2年生・6名)	看護部・リハビリテーション科
7	令和7年2月8日	大館市内の高等学校 (1、2年生・97名)	弘前大学大学院医学研究科、大館市立総合病院主催による「高校生医療体験セミナー」の実施 ・弘前大学大学院医学研究科や大館市立総合病院の役割等についての模擬講義、ショートレクチャー ・各部署の施設見学や医療職員との交流体験(看護部・臨床検査科・放射線科・薬剤科・栄養科・リハビリテーション科・臨床工学科・患者サポートセンター)

I . 各診療科別の臨床統計

1. 呼吸器内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
27.5	28,292

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	370 人	外来(再来)患者延数	6,305 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 3 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	9 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	肺癌	6	胸膜炎
2	間質性肺炎	7	非結核性抗酸菌症
3	慢性閉塞性肺疾患	8	肺結核
4	気管支喘息	9	気管支拡張症
5	肺炎	10	COVID-19関連肺炎

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

呼吸器内科学会 呼吸器指導医	1 人
呼吸器学会 呼吸器専門医	1 人
呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医	1 人
内科学会 総合内科専門医	2 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
22.8	15.3	49,217

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

肺癌	187 人
誤嚥性肺炎	53 人
肺炎	41 人
間質性肺炎	32 人
COVID-19	31 人
転移性肺癌	16 人
喘息発作重積状態	13 人
慢性閉塞性肺疾患	13 人
非結核性抗酸菌症	10 人
肺膿瘍	8 人
心不全	8 人
膿胸	7 人
尿路感染症	6 人
細菌性肺炎	5 人
サルコイドーシス	5 人
脱水症	5 人
呼吸不全	4 人
気胸	4 人
胸腺癌	4 人
喘息	3 人
他	
総 数	502 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 気管支鏡検査	140
② 心臓超音波検査	165
③ 胸腔造影検査	1

(2) 治療例

項目	例 数
① 抗腫瘍薬治療	42
② 胸腔ドレナージ	18
③ 胸膜瘻着術	7
④ 高流量酸素療法	28
⑤ 人工呼吸療法	15

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当院では、一時期呼吸器内科常勤医が不在でしたが、2023年4月より、弘前大学医学部附属病院呼吸器内科からの支援を頂き、常勤医による診療を再開しました。高流量酸素療法や人工呼吸療法も実施可能となり、これまで対応が困難であった、肺疾患に伴う重症呼吸不全に対しても診療を行えるようになりました。また、近年増加傾向にあり、重要な疾患である肺癌に対しては、呼吸器外科・放射線科と協力して診療が行えるようになりました。秋田県内では数の少ない、呼吸器学会呼吸器指導医が在籍しており、若手医師の指導にも力を入れています。

実際の診療においては、看護師・リハビリテーション療法士・臨床工学士・放射線技師・医療ソーシャルワーカー・薬剤師など多職種と連携し、医療を受ける方の状況を多方面から確認して、安全かつ十分な医療を提供できるよう努めています。

当科では、より重症な方への対応が必要となっており、安定期の方に関しては、かかりつけ医との連携を図り、診療の継続をお願いしています。

地域の皆様が安心して診療を受けられるよう、今後も努力してまいります。

(2) 今後の課題

現在当院呼吸器内科は、常勤医3名の体制で診療を行っています。呼吸器指導医も在籍しており、総合病院における一般的な呼吸器内科診療の実施は問題なく可能ですが、特殊な機器を使用した検査や内視鏡手術などは、人手の問題で施行できない状況です。超高齢社会となった日本においては、当地域も例外ではなく、遠方までの受診が困難となっており、地域で完結する医療の構築が必要です。今後当科では、人員の確保、若手医師を教育する機関としての責務を果たすことに尽力し、より高度な診療の実現を目指したいと考えております。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月21日
② 学会名	第233回東北地方会プログラム
③ 開催地	仙台市
④ 演 題	TAZ/CTLZ投与中に同薬に対する耐性を獲得した綠膿菌による肺化膿症の1例
⑤ 発表者	福島奈緒

(2) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月15日
② 講演会名	間質性肺疾患SEMINAR
③ 演 題	間質性肺炎の診断と治療
④ 発表者	奥村文彦

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月23日
② 講演会名	「肺癌薬物療法におけるマネジメントのコツ」～治療選択と副作用管理～
③ 演 題	仮想症例から読み解く治療選択と副作用管理
④ 発表者	奥村文彦

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月13日
② 講演会名	日常診療に役立つ呼吸器感染症セミナー
③ 演 題	誤嚥性肺炎Up to date
④ 発表者	奥村文彦

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月26日
② 講演会名	秋田県北Respiratory Workshop
③ 演 題	当院におけるテゼス・ペイア導入の一例について
④ 発表者	福島高志

項目	内 容
① 年月日	令和7年3月14日
② 講演会名	鷹巣医談会
③ 演 題	成人肺炎診療ガイドライン2024 改定のポイント
④ 発表者	越智 淳一

7. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月29日、6月5日、6月12日、6月19日
② 活動内容	秋田看護福祉大学講義「病態治療学Ⅰ」
③ 実施者	奥村文彦

2. 循環器内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
62.9	13,146

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	680 人	外来(再来)患者延数	14,619 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 4 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	9 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 心不全	6 徐脈性不整脈
2 急性心筋梗塞	7 誤嚥性肺炎
3 狹心症	8 慢性閉塞性肺疾患
4 高血圧症	9 糖尿病
5 頻脈性不整脈	10 心房細動

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

腎臓外来(大学病院)	毎週水曜日午前
------------	---------

(2) 専門医の名称と人数

日本循環器学会循環器専門医	2 人
日本内科学会 総合内科専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
22.8	15.3	59,309

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

心不全	167 人
狭心症	89 人
急性心筋梗塞	63 人
陳旧性心筋梗塞	27 人
ペースメーカー電池消耗	26 人
大動脈瘤解離	25 人
房室ブロック	25 人
COVID-19	23 人
肺炎	18 人
下肢閉塞性動脈硬化症	14 人
心房細動	13 人
誤嚥性肺炎	11 人
非リウマチ性大動脈弁障害	10 人
尿路感染症	9 人
心室頻拍	8 人
その他の不整脈	8 人
細菌性肺炎	7 人
肺塞栓症	7 人
肥大型心筋症	6 人
心アミロイドーシス	6 人
他	
総 数	659 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 心臓カテーテル検査	134
② 運動負荷試験	32
③ 心エコー検査	2,657
④ 心筋血流シンチ	90
⑤ 冠動脈CT	203

(2) 治療例・手術例

項目	例 数
① 経皮的冠動脈形成術	102
② ペースメーカー移植術	37
③ ペースメーカージェネレータ交換術	24

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

2023年度から呼吸器内科の常勤医が2人勤務され、呼吸器・循環器内科から循環器内科として独立し、より専門化された質の高い診療を目指しております。2021年10月から、狭心症や心筋梗塞に対する経皮的冠動脈形成術(PCI)を行うことができるようになりました。大館市内のみならず北秋田地区、鹿角地区の医療圏をカバーして、急性心筋梗塞患者に対する緊急PCI治療を24時間365日提供できる体制を整えています。徐々に症例も増えており、年間100～120件と地域のニーズに応えることができるようになってきました。

(2) 今後の課題

2024年度から開始した心臓リハビリテーションは、心不全の再入院予防や、特にご高齢のかたにおけるフレイル、サルコペニアといった全身の機能低下を予防する目的で有効性が高いとされています。超高齢化社会の大館市では大きな需要があると予想され、院内の体制を整えて参ります。

6. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月6日
② 講演会名	第21回北鹿循環器カンファレンス
③ 演 題	高血圧×心不全
④ 発表者	斎藤 数正

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月21日
② 講演会名	かかりつけ医による高血圧診療を考える会
③ 演 題	高血圧×心不全
④ 発表者	成田 真人

3. 消化器・血液・腫瘍内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
121.2	37,858

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,339 人	外来(再来)患者延数	28,106 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 6 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	15 人
-----------	------

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 逆流性食道炎 胃十二指腸潰瘍	6 慢性関節リウマチ 膠原病
2 消化管出血	7 潰瘍性大腸炎 クローン病
3 肝硬変 肝癌	8 悪性リンパ腫
4 胆道結石 胆管炎 胆道癌	9 急性白血病 多発性骨髄腫
5 大腸ポリープ 虚血性腸炎	10 胃癌 大腸癌

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

膠原病外来 (予約制)	毎週金曜日 木曜日
血液内科外来	毎週火曜日 水曜日

(2) 専門医の名称と人数

総合内科専門医	4 人
消化器病専門医	4 人
消化器内視鏡専門医	3 人
がん治療認定医	2 人
プライマリケア指導医	1 人
肝臓専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
51.4	13.4	56,438

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腸良性腫瘍	404 人
胆石症	118 人
胃癌	113 人
大腸癌	73 人
膵癌	68 人
胆道癌	65 人
食道癌	51 人
肝癌	43 人
大腸憩室疾患	38 人
直腸癌	34 人
肺炎	34 人
胆道疾患	32 人
悪性リンパ腫	28 人
急性肺炎	28 人
胃潰瘍	24 人
アルコール性肝疾患	24 人
尿路感染	24 人
COVID-19感染	22 人
骨髓性白血病	21 人
他	
総 数	1,634 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 上部消化管内視鏡	2,652
② 大腸内視鏡	1,236
③ カプセル内視鏡	17
④ 腹部エコー(生理検査部以外)	435
⑤ 骨髄穿刺&生検	136

(2) 治療例

項目	例 数
① 外来化学療法	1,725
② 胆管ドレナージ	172
③ 外来輸血	251
④ 腹腔穿刺	98
⑤ 生物学的製剤自己注射指導	51

(3) 手術例

項目	例 数
① 上部消化管ESD(胃＆食道)	46
② 大腸ポリープ切除	306
③ 大腸ESD	15
④ 内視鏡的乳頭切開術併碎石術	161
⑤ 内視鏡的結石除去	62

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

通常診療を行いながら当地域のCOVID-19感染患者の入退院に忙殺された印象が強いが、令和6年からこれまでに人材養成の成果が出て常勤医師が1名増員となり6名体制で入院対応できたことは心強かった。今後も現在のマンパワーを最低限維持し、通常の外来診療においても弘前大学と秋田大学からの全面的な応援のもと充実していきたい。

(2) 今後の課題

院内全体の問題でもあるが病理解剖が少なく年1～2件の状態が続いている、今後研修医の臨床病理カンファレンス(CPC)の開催に支障をきたしかねない綱渡りの状態である。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月15日
② 学会名	日本血液学会東北支部例会
③ 開催地	仙台市
④ 演 題	皮膚T細胞リンパ腫との鑑別に苦慮した急性骨髄単球性白血病の皮膚浸潤
⑤ 発表者	佐藤 紗里加

4. 内分泌・代謝・神経内科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
98.0	10,226

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	366 人	外来(再来)患者延数	23,451 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 3 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	5 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	2型糖尿病	6	脂質異常症
2	糖尿病性腎症	7	甲状腺機能異常
3	慢性心不全	8	甲状腺腫瘍
4	1型糖尿病	9	COVID-19
5	高血圧	10	脱水症

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

内分泌外来	毎週月・水曜日:午前
神経内科外来 (予約制)	毎週水・木曜日:午後
フットケア外来 (予約制)	毎週火曜日

(2) 専門医の名称と人数

総合内科専門医	2 人
糖尿病専門医・研修指導医	2 人
感染症専門医・指導医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
8.2	19.2	40,561

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

2型糖尿病	51 人
肺炎	31 人
低ナトリウム血症	8 人
1型糖尿病	5 人
急性腎不全	3 人
脱水症	3 人
パーキンソン病	3 人
急性尿路感染症	3 人
低血糖	2 人
ACTH単独欠損症	1 人
蜂窩織炎	1 人
ADH不適合分泌症候群	1 人
急性胃腸炎	1 人
横紋筋融解症	1 人
一過性脳虚血発作	1 人
甲状腺癌	1 人
その他の糖尿病	1 人
他	
総 数	144 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 甲状腺超音波	400

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科に糖尿病専門医・指導医1名が常勤している。県北地区の糖尿病診療の中核病院である。

入院糖尿病教室を午前、午後毎日開催している。日本糖尿病協会糖尿病療法指導士(CDE-J)あるいは秋田糖尿病療法指導士(CDE-A)の資格を取得している栄養士、薬剤師、看護師と医師が、糖尿病教育を実践している。

大館地区の糖尿病医療連携パス構築し、診療所と連携をとりながら、診療を行っている。平成26年2月から始めた連携パスは、令和2020年3月現在、累計約400名以上の糖尿病患者が連携パスを利用している。

糖尿病腎症からの人工透析を予防するため、チーム医療に取り組んでいる。院内ならび健診データから透析ハイリスク患者を抽出し、そこに行行政とも連携をとりながら、チーム医療で総合的に介入して透析を予防していく事業を開始している。今後も、行政、保険者、診療所(医師会)により連携をとりながら、地域ぐるみでの透析予防を展開していきたいと考えている。

また、糖尿病壊疽などの足病変予防にもチーム医療で取り組んでいる。

2025年4月からはオンライン診療も開始予定である。

(2) 今後の課題

医療の進歩により糖尿病患者を含め寿命が伸びているが、健康寿命を同時に延ばしていくことがより重要である。そのためには、糖尿病を含めた生活習慣病を改善していくことが重要であり、高齢化社会へ向けてのフレイル対策が重要である。現在、通院中患者のフレイル状況を調査し、その対策を検討中である。

高齢化社会、生活習慣の変化から、糖尿病患者は増加の一途をたどっている。糖尿病合併症は、失明に至る網膜症、透析に至る腎症、QOLを著しく低下させる神経症、心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈循環不全などをおこす動脈硬化疾患、易感染性による肺炎など多疾患にわたる。糖尿病患者はこれらの合併症を早期から予防する事が重要であり、今後当科の役割はますます重要になってくると思われる。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月17日
② 学会名	第67回日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	東京国際フォーラム
④ 演 題	循環型糖尿病医療連携パス10年目の検討
⑤ 発表者	池島進 水尻諭 一戸慧和

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月17日
② 学会名	第67回日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	東京国際フォーラム
④ 演 題	糖尿病教育入院後の患者における歯周病に対する実態調査
⑤ 発表者	伊藤真弓 池島進 水尻諭 一戸慧和 他

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月17日
② 学会名	第67回日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	東京国際フォーラム
④ 演 題	当院での経口セマグリチド投与症例の検討
⑤ 発表者	福島奈緒 池島進 水尻諭 一戸慧和 藤田征弘

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月18日
② 学会名	第67回日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	東京国際フォーラム
④ 演 題	当院でのチルゼパチド投与症例の検討
⑤ 発表者	楠美晶子 池島進 水尻諭 一戸慧和 藤田征弘

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月18日
② 学会名	第67回日本糖尿病学会年次学術集会
③ 開催地	東京国際フォーラム
④ 演 題	当院でのインスリンデグロデク/リラグルチド配合注射薬投与症例の検討
⑤ 発表者	一戸慧和 池島進 水尻諭 藤田征弘

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月2日
② 学会名	第62回日本糖尿病学会 東北地方会
③ 開催地	仙台国際センター
④ 演 題	糖尿病合併高血圧患者に対するサクビトリルバルサルタンの使用経験
⑤ 発表者	池島進 一戸慧和 水尻諭

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月17日
② 学会名	第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会
③ 開催地	東京ドームホテル
④ 演 題	飼い猫からの感染と思われた <i>Pasteurella multocida</i> による市中肺炎の1例
⑤ 発表者	丸山花音 池島進

(2) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年4月24日
② 講演会	栗原市医師会学術講演会
③ 演 題	地域で取り組む糖尿病重症化予防 歯科との連携を含めて
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月6日
② 講演会	気仙沼市および南三陸町地域医療連携を考える会2024
③ 演 題	地域の総力戦！大館市糖尿病重症化予防への取り組み
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月19日
② 講演会	岩手県西医師会学術集会
③ 演 題	当地区で取り組む糖尿病重症化予防への取り組み
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月24日
② 講演会	経口GLP-1Web講演会
③ 演 題	合併症管理における経口GLP-1製剤の役割
④ 発表者	水尻諭

項目	内 容
① 年月日	令和6年8月18日
② 講演会	第27回青森県糖尿病患者の看護を考える会
③ 演 題	総力戦で取り組む糖尿病重症化予防～地域の生き残りをかけて～
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月12日
② 講演会	Diabetes Update Web Seminar In Asahikawa
③ 演 題	地域の総力戦！大館市糖尿病重症化予防への取り組み
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月8日
② 講演会	一関内科会学術講演会
③ 演 題	大館市の糖尿病重症化予防への取り組み
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月24日
② 講演会	Cardio Renal Care Conference in 函館
③ 演 題	地域の総力戦！大館市糖尿病重症化予防への取り組み
④ 発表者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月14日
② 講演会	令和6年度糖尿病重症化予防かかりつけ医研修会・産業医研修会
③ 演 題	糖尿病重症化予防を見据えた治療戦略
④ 発表者	池島進

7. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月20日
② 活動内容	第3次健康おおだて21 市民公開講座
③ 実施者	池島進

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月19日
② 活動内容	糖尿病サポーター勉強会
③ 実施者	池島進

5. 外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
53.5	25,131

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	487 人	外来(再来)患者延数	12,518 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 6 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	6 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 胃癌	6 胆囊結石症
2 大腸癌	7 痔核、痔瘻
3 直腸癌	8 乳腺症
4 乳癌	9 ヘルニア
5 甲状腺癌	10 腸閉塞症

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

ストーマ外来 (予約制)	毎週水曜日
心臓血管外科 (予約制)	毎週火・金曜日:午後
乳腺エコー (予約制)	毎月第1・3水曜日:午後

(2) 専門医の名称と人数

外科専門医	4 人
消化器外科専門医	3 人
消化器病専門医	1 人
消化器内視鏡専門医	1 人
がん治療認定医	3 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
29.0	13.0	65,192

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

乳癌	83 人
大腸癌	79 人
腸閉塞症	75 人
丂径ヘルニア	60 人
胃癌	53 人
直腸癌	51 人
急性虫垂炎	50 人
胆石症	46 人
転移性消化器腫瘍	43 人
大腸憩室疾患	15 人
腹膜炎	9 人
急性胃腸炎	9 人
痔核	8 人
胆のう炎	8 人
虚血性大腸炎	7 人
他	
総 数	797 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 手術例(令和6年1月～12月)

項目	例 数
① 胃癌	31
② 結腸癌	62
③ 直腸癌	42
④ 乳癌	52
⑤ 胆囊癌・胆管癌	2
⑥ 肝癌(原発・転移)	9
⑦ 膵癌	5
⑧ 胆石症	50
⑨ 甲状腺疾患	3
⑩ ヘルニア	80
全身麻酔	390
脊椎麻酔	36
局所麻酔	195

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

ご高齢者の手術症例が増えており他職種(リハビリ、栄養指導、薬剤管理指導など)との周術期の連携をさらに密に行っていきたいと思います。乳腺疾患はこれまで通り市立秋田総合病院と弘前大学の専門医の協力の下標準治療を行うことを目標としておりますが乳癌症例が増加しており検診から治療までを当院で完結できる様体制を維持していきたいと考えています。

(2) 今後の課題

高齢者患者の増加とともに術後ADLの低下により退院が円滑に進まないケースが増えてきています。療養先の確保や在宅療養支援のための介護事業所や訪問看護ステーションとの更なる連携を構築していきたいと考えております。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月21日
② 学会名	東北ヘルニア研究会
③ 開催地	盛岡
④ 演 題	腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後に骨盤内ヘルニアによる腸閉塞を来たした1例
⑤ 発表者	石澤歩実

6. 呼吸器外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
12.3	32,872

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	192 人	外来(再来)患者延数	2,808 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人數	平均 2 人/日
--------	----------

(4) 看護師数

看護師人數	9 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	肺癌	5	転移性肺腫瘍
2	胸部異常陰影	6	膿胸・胸膜炎
3	気胸	7	外傷性血気胸
4	縦隔腫瘍	8	肺膿瘍

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

外科専門医	2 人
呼吸器外科専門医	1 人
がん治療認定医	1 人
肺がんCT検診認定医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
7.7	7.1	93,193

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

肺癌(化学療法や放射線治療)	164 人
肺癌(手術)	47 人
肺癌(緩和ケア)	40 人
気胸	23 人
外傷性血気胸	18 人
転移性肺腫瘍	11 人
膿胸	8 人
縦隔腫瘍	6 人
肺炎・肺膿瘍など	29 人
総 数	346 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 気管支鏡検査	6

(2) 治療例

項目	例 数
① 胸腔ドレナージ	55

(3) 手術例

項目	例 数
① 肺癌	47
② 気胸	14
③ 転移性肺腫瘍	7
④ 縦隔腫瘍	5
⑤ 膿胸など	5

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科は肺癌を中心に転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、さらに外傷性血気胸といった呼吸器疾患の治療を行っている。肺癌は手術療法を中心に化学療法・放射線治療など集学的な治療を実践している。化学療法は分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤など新しい薬剤も積極的に取り入れ、遺伝子変異検索などを行い個別化治療を実践している。

手術件数の半分以上は肺癌の根治手術であり、低侵襲な胸腔鏡手術を積極的に取り入れ、秋田大学胸部外科と連携し専門的医療を実践している。大館市を中心に北秋田地区や鹿角地区から患者を受け入れている。

(2)今後の課題

高齢化社会を反映し高齢で見つかる肺癌患者が増えており、心疾患や呼吸器疾患など併存疾患を持つ患者が多く、根治手術や化学放射線併用療法といった侵襲の高い治療だけでなく、体への負担の少ない治療も選択できるように取り組んだいく必要性を感じており実践している。

肺癌は進行期で発見される患者が多く、最も重要な早期発見・早期治療を行えるように検診やドックの肺癌CT検診など啓蒙活動も推進している。

6. 学会発表等

(1)学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月31日
② 学会名	第41回日本呼吸器外科学会学術集会
③ 開催地	長野県軽井沢町
④ 演 題	非小細胞肺がん術後再発症例における予後因子の検討
⑤ 発表者	石井良明

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月31日
② 学会名	第41回日本呼吸器外科学会学術集会
③ 開催地	長野県軽井沢町
④ 演 題	術後肺静脈断端血栓症における術中肺静脈中枢結紮の有用性の検討
⑤ 発表者	渡邊伸之助

(2)講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月27日
② 講演会名	大館肺がんセミナー
③ 演 題	当科での肺がん周術期治療について
④ 発表者	小野貴史

7. 整形外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
104.8	8,451

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,028 人	外来(再来)患者延数	24,437 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 4 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	6 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 骨粗鬆症	6 腰部脊柱管狭窄症
2 転移性骨腫瘍	7 腰椎・胸椎椎体骨折
3 変形性膝関節症	8 頸椎症性脊髄症
4 変形性股関節症	9 頸椎後縦靱帯骨化症
5 手根管症候群	10 機骨遠端骨折

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

スポーツ外来 (予約制)	第1金曜日
小児リハビリテーション専門外来	月1回火曜日

(2) 専門医の名称と人数

整形外科専門医	2 人
脊椎脊髄外科指導医	1 人
脊椎脊髄病医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
44.8	29.3	45,846

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

大腿骨骨折	100 人
腰椎及び骨盤の骨折	50 人
下腿骨折	42 人
肋骨、胸骨及び胸椎骨折	40 人
脊椎障害	35 人
肩及び上腕の骨折	28 人
蜂巣炎	21 人
膝関節症	14 人
前腕骨折	12 人
頸髄損傷	11 人
頸椎症性脊髄症	10 人
腰椎椎間板ヘルニア	10 人
股関節症	7 人
腰椎化膿性脊椎炎	7 人
足骨折	7 人
下肢閉塞性動脈硬化症	6 人
頸部骨折	6 人
腰痛症	6 人
その他	9 人
総 数	421 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 末梢神経伝導速度検査	30
② 腰椎神経根造影検査	15
③ 経皮的骨生検	5

(2) 治療例

項目	例 数
① 骨粗鬆症性椎体骨折の保存的治療	50
② 橋骨遠端骨折ギプス固定	30
③ 転移性骨腫瘍放射線治療	20
④ 腰部神経根ブロック	15

(3) 手術例

項目	例 数
① 大腿骨骨折観血的手術	59
② 肩関節、肘関節周辺の骨折	34
③ 大腿骨頭置換術	31
④ 橋骨遠位端骨折骨接合術	27
⑤ 腰部脊柱管狭窄症(ヘルニア含む)	25

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

大腿骨近位部骨折患者に対する二次骨折予防の取り組みとして、多種職メンバーから構成される骨折リエゾンサービス(FLS)チームの活動が継続してなされている。対象患者の範囲を、胸椎・腰椎椎体骨折や上腕骨骨折、骨盤骨折など大腿骨以外の骨折に広げ、さらに活動対象患者数が増加した。

脊椎の手術では術中モニタリングを併用し、より安全な手術をおこなえる環境で実施している。

人工膝関節全置換術ではナビゲーションシステムを使用し、正確なアライメントでの人工関節設置が可能となっている。

人工股関節全置換術では、より低侵襲で術後の歩行獲得が早い前方アプローチ法を積極的におこなっている。

高齢化でニーズが高い、骨粗鬆症性椎体骨折や骨盤骨折に対して、患者さんに応じた入院によるリハビリテーションや装具療法、薬物療法をおこない、その後の外来治療を継続している。

(2) 今後の課題

外来の1日平均患者数が昨年度の106.3人から、本年度は104.8人と、1.5人減ったものの、依然として100人以上と多く、手術や病棟業務を圧迫する状態が継続している。病状の安定した外来患者さんの逆紹介と病診連携を今後を進めていく必要がある。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月10-11日
② 学会名	第121回東北整形災害外科学会
③ 開催地	仙台市
④ 演 題	膀胱癌に対するBCG膀胱内注入療法後に結核性脊椎炎をきたした1例
⑤ 発表者	鎌田碧, 井上亮, 市川奈菜, 金子翔, 横山徹, 石橋恭之

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月10-11日
② 学会名	第121回東北整形災害外科学会
③ 開催地	仙台市
④ 演 題	腱鞘切開と片側浅指屈筋腱切除を行った小児弾発指の1例
⑤ 発表者	市川奈菜, 藤田有紀

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月11-13日
② 学会名	第26回日本骨粗鬆症学会
③ 開催地	金沢市
④ 演 題	介護施設にて受傷した大腿骨近位部骨折患者の経年変化
⑤ 発表者	村上光太郎, 横山徹, 井上亮, 金子翔, 市川奈菜, 阿部寛子, 山内紗喜貴子, 成田郁美, 澤田石貴美子, 斎藤勝裕

7. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月19日
② 活動内容	講演会主催:大館地区骨折リエゾンサービス(FLS)セミナー
③ 実施者	横山徹, 井上亮 講演者:八戸市立市民病院 副院長 沼沢拓也先生

8. 脳神経外科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
24.8	8,299

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	469 人	外来(再来)患者延数	5,563 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当医師人數	平均 3 人/日
--------	----------

(4) 看護師数

看護師人數	3 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	脳梗塞
2	脳出血
3	くも膜下出血
4	脳腫瘍
5	症候性てんかん
6	頭部外傷

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

脳神経外科専門医	3 人
脳神経血管内治療学会専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
25.1	16.0	50,602

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

脳梗塞	191 人
脳出血	93 人
慢性硬膜下血腫	42 人
頭部外傷	32 人
くも膜下出血	24 人
症候性てんかん	19 人
一過性脳虚血発作	15 人
内頸動脈狭窄症	13 人
もやもや病	3 人
その他	26 人
総 数	458 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 脳血管撮影	26

(2) 手術例

項目	例 数
① 脳動脈瘤クリッピング術	4
② 開頭血腫除去術	5
③ 穿頭血腫除去	43
④ 水頭症手術(シャント術)	5
⑤ 内視鏡手術	1

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

脳外科医は、3人体制で、外来、救急、病棟をこなしている。
周囲の病院との連携を深めていく。
また、研修医や医学生への指導も行っていく。

(2) 今後の課題

脳卒中の一次予防

9. 小児科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
51.4	17,952

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	2,010 人	外来(再来)患者延数	10,477 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 4 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	5 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 注意欠如多動症	6 ネフローゼ症候群
2 自閉スペクトラム症	7 神経性やせ症
3 先天性心疾患	8 フェニルアラニン代謝異常症
4 難治性てんかん	9 気管支喘息
5 糖尿病	10 学校適応障害

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

小児心臓外来 (予約制)	月1回月曜日:午後 第2,4金曜日:午前
小児神経外来	毎週水曜日:午前
慢性疾患・発達外来	毎週水曜日:午後
小児腎臓外来(予約制)	月1回月曜日:午後

(2) 専門医の名称と人数

小児科専門医	3 人
日本プライマリケア学会認定特任指導医	1 人
こどものこころ相談医	1 人
健康スポーツ医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
4.7	4.9	53,645

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

新生児疾患	67 人
気管支肺炎(RS、マイコプラズマ、喘息含む)	45 人
急性咽頭炎(アデノ、伝染性单核球症含む)	45 人
アレルギー(食物負荷試験含む)	40 人
急性胃腸炎(ロタウイルス感染、食中毒など)	21 人
レスパイト	13 人
熱性けいれん	10 人
川崎病	10 人
コロナウイルス感染症	7 人
てんかん	5 人
尿路感染症	4 人
骨形成不全症骨折予防治療	3 人
成長ホルモン分泌負荷試験	3 人
精神疾患	2 人
ネフローゼ症候群	2 人
腸重積	2 人
低ガンマグロブリン血症	2 人
肥厚性幽門狭窄症	1 人
その他	15 人
総 数	297 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 心臓超音波検査	約100
② 腎臓超音波検査	約100
③ 膀胱造影検査	約20
④ 股関節超音波検査	約300

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

- ・外来トリアージシステムを導入し、緊急度順の診察を実施。
- ・ホームページから24時間ワクチン予約可能。
- ・4ヶ月健診で股関節超音波検査を施行し、股関節脱臼の見逃しがないようダブルチェックの実施。
- ・地域周産期センター認定。
- ・こどものこころ相談医1名。
- ・小児の言語リハビリが可能。
- ・先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の病型診断が可能。
- ・骨形成不全症の骨折予防治療が可能。
- ・桂城小学校、成章小学校、第一中学校、成章中学校、比内中学校の学校医(うち学校医1名は健康スポーツ医)
- ・田代保育園、扇田保育園、十二所保育園などの園医。
- ・ひまわり園の健診を通した連携強化。
- ・死因究明および今後の医療貢献のため、小児の死後画像検査(オートプシーイメージング)を行っている(研修終了医1名)。
- ・看護福祉大学での小児科講義の実施。
- ・満5歳までつぶ相談への協力。

(2) 今後の課題

- ・救急医療体制の改善。
- ・幼稚園等への出向き講座の推進。
- ・病棟保育士の設置。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内容
① 年月日	令和6年4月13日
② 学会名	第178回 日本小児科学会青森地方会
③ 開催地	弘前大学大学院医学研究科健康未来イノベーションセンター
④ 演題	卵巣腫瘍と鑑別を要した処女膜閉鎖症の1例
⑤ 発表者	松野 紗貴

(2) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和6年6月25日
② 講演会	長木小学校保健委員会
③ 演題	子どもの電子メディア依存～心と体に及ぼす影響～
④ 発表者	丹代 諭

項 目	内 容
① 年月日	令和6年7月5日
② 講演会	成章小学校保健委員会
③ 演 題	メディアとの関わり方
④ 発表者	佐藤 理子

項 目	内 容
① 年月日	令和6年7月17日
② 講演会	子育てサポートー新規養成講習会
③ 演 題	小児の成長発達
④ 発表者	佐藤 理子

項 目	内 容
① 年月日	令和6年12月9日
② 講演会	早口小学校保健委員会
③ 演 題	子どもの電子メディア依存～心と体に及ぼす影響～
④ 発表者	丹代 諭

10. 産婦人科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
75.3	8,374

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,904 人	外来(再来)患者延数	16,384 人
------------	---------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 5 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	9 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 子宮体癌	6 卵巣腫瘍
2 子宮頸癌	7 子宮脱
3 卵巣癌・腹膜癌・腫外陰癌	8 月経困難症・月経不順
4 子宮筋腫	9 妊娠・分娩・産褥およびその異常
5 子宮内膜症・子宮腺筋症	10 不妊症

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

助産師外来 (予約制)	毎週月～水曜日:午後
母乳外来 (予約制)	

(2) 専門医の名称と人数

産婦人科専門医	4 人
母体保護法指定医	2 人
日本がん治療認定医機構 認定医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
18.1	6.3	56,639

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

経産分娩	336 人
帝王切開分娩	47 人
稽留流産	17 人
卵巣癌・腹膜癌	66 人
妊娠糖尿病	49 人
切迫早産	13 人
子宮筋腫	19 人
子宮頸部異形成	20 人
性器脱	15 人
子宮体癌	60 人
妊娠高血圧症候群	9 人
卵巣囊腫	30 人
子宮頸癌	14 人
総 数	695 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 子宮卵管造影	22
② コルポスコピ <small>ー</small>	92

(2) 治療例

項目	例 数
① 化学療法	46

(3) 手術例

項目	例 数
① 婦人科悪性腫瘍手術	20
② 腹式子宮全摘術	22
③ 腹腔鏡下附属器手術	16
④ 腹式附属器手術	13
⑤ 子宮筋腫核出術	3
⑥ 子宮脱手術	15
⑦ 円錐切除術	20
⑧ 帝王切開術	47
⑨ バルトリン腺開窓術	1

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

日常的な婦人科疾患や検診事業から、婦人科悪性疾患まで幅広く診療を行っている。産科は合併症を有する症例(COVID-19などの感染症例含む)にも対応し、妊娠・分娩管理を行っている。不妊症は人工授精までの治療に対応している。

(2) 今後の課題

隣接する医療圏での分娩取り扱い施設の減少に伴う、医療資源の枯渇により、緊急時などの対応が増加傾向となってきた。また、産科業務の統廃合が今後も続くと考えられ、その中の中核病院としての役割が重要となると考えられる。また、高齢化に伴う疾患構造の変化にも対応を続けていく必要がある。

6. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月7～9日
② 学会名	第65回日本臨床細胞学会総会春期大会
③ 開催地	大阪市
④ 演 題	婦人科腫瘍が疑われ、細胞診にて診断された悪性リンパ腫の2例の検討
⑤ 発表者	小山文望恵

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月21～22日
② 学会名	第71回北日本産科婦人科学会総会・学術集会
③ 開催地	札幌市
④ 演 題	婦人科癌検診「異常なし」から1年以内に進行期で発見された婦人科癌の2例
⑤ 発表者	成田悠樹

項目	内 容
① 年月日	令和7年1月18日
② 学会名	青森県臨床産婦人科医会
③ 開催地	青森市
④ 演 題	粘液性卵巣腫瘍と鑑別を要した低異型度虫垂粘液腫瘍による腹膜偽粘液腫の1例
⑤ 発表者	成田悠樹

項目	内 容
① 年月日	令和7年1月29日
② 学会名	第133回 北鹿産婦人科医会
③ 開催地	大館市
④ 演 題	粘液性卵巣腫瘍と鑑別を要した低異型度虫垂粘液腫瘍による腹膜偽粘液腫の1例
⑤ 発表者	成田悠樹

(2) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月30日
② 講演会	青森県臨床産婦人科医会誌
③ 演 題	当院におけるCA125 elimination rate constant k (KELIM) scoreの検討
④ 発表者	大澤有姫

11. 泌尿器科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
135.7	23,365

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	548 人	外来(再来)患者延数	32,420 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人數	平均 3 人/日
--------	----------

(4) 看護師数

看護師人數	4 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1 前立腺肥大症	6 前立腺癌
2 過活動膀胱	7 膀胱癌
3 神経因性膀胱	8 腎細胞癌
4 慢性腎不全	9 精巣腫瘍
5 腎・尿管・膀胱結石	10 尿路感染症

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

泌尿器科専門医	2 人
---------	-----

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
16.7	10.0	54,177

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

前立腺癌疑い	93 人
尿路感染症	79 人
慢性腎不全	71 人
膀胱癌	61 人
前立腺癌	51 人
腎盂尿管癌	25 人
腎細胞癌	24 人
尿管結石	22 人
肺炎	19 人
急性腎不全	13 人
停留精巢	8 人
膀胱結石	8 人
前立腺肥大症	8 人
総 数	482 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 前立腺針生検	103

(2) 治療例

項目	例 数
① 中心静脈ポート	28
② スペーサー・金マーカー留置	27

(3) 手術例

項目	例 数
① 経尿道的膀胱腫瘍切除術	46
② 経尿道的水蒸気治療	4
③ 腹腔鏡下腎摘除術	8
④ ブラッドアクセス造説術	52

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

秋田県北の中核病院として、一般泌尿器科及び血液浄化療法に関しては、ほとんどの患者さんに対応できる体制であるが、より高度な医療を希望される方には、弘前大学や秋田大学などに紹介している。

また、弘前大学及び秋田大学の泌尿器科専門研修プログラムに参加しており、泌尿器科専門医を目指す研修医も勤務できる体制を整えている。

(2) 今後の課題

当院での体腔鏡下手術は、弘前大学から派遣された認定医が行っているが、早期に認定医師の常勤化を目指したい。また、前立腺癌に対するロボット支援手術は、弘前大学に手術を依頼しているが、当院での導入を検討している。

6. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月1日
② 掲載誌名	Cancer Med
③ 演 題	Trends in novel antiandrogen receptor signal inhibitor use and medical costs in prostate cancer
④ 発表者	三浦 日花里、 富樫 起

12. 耳鼻咽喉科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
24.1	15,696

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	595 人	外来(再来)患者延数	5,262 人
------------	-------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 2 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	2 人
-----------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	前庭機能障害、めまい	6	頭頸部癌
2	慢性副鼻腔炎	7	鼻副鼻腔腫瘍
3	急性咽喉頭炎	8	難聴、補聴器
4	頸部腫瘍、唾液腺腫瘍	9	鼻出血症
5	アレルギー性鼻炎	10	睡眠時無呼吸症候群

2. 専門外来

(1) 専門外来名・開設日

補聴器外来 (予約制)	月・木曜日(指定日あり):午後
睡眠時無呼吸外来 (予約制)	月曜日:午後

(2) 専門医の名称と人数

耳鼻咽喉科専門医	2 人
頭頸部癌専門医	1 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
5.1	7.6	65,000

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

睡眠時無呼吸症候群	30 人
慢性副鼻腔炎	22 人
めまい、前提機能障害	19 人
扁桃肥大、扁桃病巣感染症	14 人
口腔癌	7 人
POMC	7 人
鼻副鼻腔腫瘍	6 人
下咽頭癌	5 人
上咽頭癌	5 人
鼻腔癌	5 人
声帯ポリープ	5 人
喉頭癌	5 人
慢性穿孔性中耳炎	5 人
アレルギー性鼻炎	4 人
中耳炎	4 人
耳下腺良性腫瘍	4 人
鼻出血	4 人
良性脂肪腫	4 人
顔面骨折	4 人
他	
総 数	211 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 喉頭ファイバースコピード	1,081
② 標準純音聴力検査	635
③ 嗅裂・鼻咽腔・副鼻腔ファイバースコピード	560
④ 中耳ファイバースコピード	22
⑤ 脳幹反応聴力検査(ABR)	8

(2) 治療例

項目	例 数
① CPAP治療	403
② 放射線化学療法	68
③ 手術療法	198
④ 前庭リハビリテーション	78
⑤ 補聴器	20

(3) 手術例

項目	例 数
① 内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副)	10
② 鼓膜形成術	5
③ 耳下腺浅葉摘出術	4
④ 口蓋扁桃摘出術	14
⑤ 喉頭悪性腫瘍手術	2

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

耳鼻咽喉科領域の炎症性疾患、先天性疾患、良性疾患、悪性疾患など幅広く行なっている。一般外来診療のみならず、手術治療や悪性腫瘍に対する放射線療法や化学療法なども積極的に行なっており、(耳鼻科特有の長時間手術を除いて)他の大学病院等と同等の治療を行うことが可能である。

(2) 今後の課題

弘前大学と連携して手術治療を行なったり、臨床的な研究活動や学会発表などを行う。

13. 神経精神科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
52.3	5,868

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	298 人	外来(再来)患者延数	12,403 人
------------	-------	------------	----------

(3) 担当医師数

担当医師人數	平均 3 人/日
--------	----------

(4) 看護師数

看護師人數	2 人
-------	-----

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	統合失調症	6	睡眠障害
2	認知症	7	てんかん
3	うつ病	8	発達障害
4	双極性障害	9	知的障害
5	神経症圏	10	摂食障害

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

精神科専門医	1 人
精神保健指定医	2 人

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
23.5	47.2	21,706

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

アルツハイマー病	47 人
統合失調症	45 人
うつ病エピソード	26 人
双極性感情障害	8 人
適応障害	5 人
アルコール性障害	4 人
解離性障害	3 人
てんかん	3 人
パーソナリティ障害	3 人
せん妄	3 人
認知症	3 人
血管性認知症	3 人
持続性気分障害	3 人
中等度知的障害	2 人
統合失調感情障害	2 人
重度知的障害	2 人
不安障害	2 人
反復性うつ病性障害	2 人
ベンゾジアゼピン依存症	1 人
知的障害	1 人
他	
総 数	176 人

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 検査例

項目	例 数
① 心理検査	118
② カウンセリング	602

(2) 治療例

項目	例 数
① 統合失調症	207
② アルツハイマー型認知症	158
③ うつ病	104
④ 双極性障害	68
⑤ 全般性不安障害	66

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

当科は、県北地区で2つしかない精神科入院病床を要する総合病院精神科(他に能代厚生病療センター精神科のみ)であり、また、大館・鹿角精神科救急医療圏で精神科救急対応を行っている唯一の精神科である。入院病床を持たない市内精神科クリニックや他院精神科と連帯の上、転院・入院など紹介、逆紹介など病診連携・病病連携を行っている。令和6年度は、3名の精神科医および応援医師で、急性期から慢性期の様々な精神疾患を持つ方々の診療に当たった。地域の精神科救急拠点および総合病院精神科としてのリエゾン・コンサルテーション拠点として機能しつつ、精神科訪問看護など精神科リハビリ部門などの充実を図り、地域密着型の精神科医療を目指している。60床の閉鎖病棟を有して、統合失調症、気分障害、依存症、認知症の周辺症状などの急性期治療を行い、入院中は、作業療法士による作業療法や、精神保健福祉士(PSW)による精神保健福祉に関する相談も行っている。院内内科各科のご協力の元、難治性統合失調症治療に対するクロザピン治療も施行している。認知症サポートチームや緩和ケアチームでの精神科医としての関わりを期待されているが、人員などの都合で、十数年来継続した院内デイケアをR3年度より中止している。

(2) 今後の課題

当院は在院日数や再入院などの診療報酬上の制限を持つ急性期病棟で運営されているが、本来急性期病棟が対象とした統合失調症や気分障害の入院割合が減り、地域の高齢化を背景とした周辺症状や生活破綻を呈した認知症、依存症、改善しきれず慢性化する身体合併症を伴う精神疾患など入院長期化の可能性が高い患者層の入院割合が日々増加している。従来の薬物治療中心の急性期治療モデルは、これらの認知症や依存症に当てはめるのは難しく、精神科医及びPSWなどスタッフの多職種連帯の上、医学-心理-社会モデルによるケースフォーミュレーションや動機づけ面接など効率的な見立て・治療の上、PSWや他施設などと連帯しなければ、在院日数増加、診療報酬算定基準超過を生じて、現在の保険診療体制維持が困難となると思われた。現在、転院などで市内の今井病院、東台病院、北秋田市の鷹巣病院、弘前愛成会病院や弘前大学医学部付属病院神経精神科などの関係各所の助力を得ているが、当科として各病院に対してできることを模索していく、今後、相互協力関係を推進していく必要があると思われた。当科は秋田大学及び弘前大学の専門医プログラム双方に所属して、関連書籍や症例の蓄積など若手医師の研鑽を効率的に行える体制を整え、魅力的な精神科初期研修病院を目指している。

14. 麻酔科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均手術件数 (件/日)	診療単価 (円)
0.2	7.2	

※患者数は麻酔科のみ、平均手術件数は麻酔科担当の件数による

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	3 人	外来(再来)患者延数	2 人
------------	-----	------------	-----

(3) 担当医師数

担当 医 师 人 数	平均	2 人/日
------------	----	-------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	17 人
-----------	------

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	2 人
日本集中治療医学会専門医	1 人

3. 入院

(麻酔科単科としての入院診療統計はなし)

4. 検査例, 治療例, 手術例(主なもの)

(1) 手術例

項 目	例 数
① 全身麻酔症例	839

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

秋田県北地域においては、麻酔科医が常勤で勤務しているのは当院のみである。(弘前大学からの派遣)常勤麻酔科医は現在2人のみであり、弘前大学の非常勤医師1人(月から金)と定年後の非常勤医師1人(月から木)の計4人体制で日々の業務をこなしている。現実的には、常勤医は4人が望ましい。高齢化の進行に伴い、ますます高齢者の全身麻酔症例が増加しており、90歳以上も稀ではなくなった。高齢者は、種々の併存症もあり、麻酔管理も難しい。併存症がある患者は、慎重な術前評価を行い、より安全な麻酔管理ができるように努めている。必要な時は、適宜大学病院に紹介している。

平成26年11月から、電子カルテシステムが導入されて、令和3年11月に更新された。手術室もデジタル化が進んでいるが、麻酔記録の自動化は経済的負担が大きいので、従来通りの手書きの記録をスキャンして対応している。自動記録の導入・維持費用(特にサーバーの維持)を考慮すれば、もっと他の医療機器や設備の更新に投資すべきと考えたからである。平成27年4月から、呼吸器外科の手術が始まった。現在、週4例になるときもある。呼吸器外科の管理には、分離肺換気や硬膜外鎮痛および持続静注鎮痛などを行って、より高度な麻酔管理に取り組んでいる。腹腔鏡下の手術も増加したので、同時に3列の内視鏡下の手術ができるように整備した。また、平成31年1月から、歯科口腔外科の手術が増加しており、気道に関与する手術なので、より慎重に全身管理を行っている。ただ、侵襲が大きな手術は、大学病院にお願いしている。

令和1年12月に新型コロナが発生し、令和4年度から手術制限をせざるを得なくなった。令和6年度は、制限解除したが、手術件数は戻らなかった。

手術室の防犯カメラシステムが更新となり、安心して仕事ができるようになった。次に必要なのは、手術には欠かせない無影灯および術野カメラシステムの更新である。

(2) 今後の課題

秋田県北地域では、常勤麻酔科医がいるのは当院だけである。当院の規模からみれば、常勤麻酔科医は4人が望ましい。現在常勤医2人と、弘前大学からの非常勤医師1人(月～金)、定年後の非常勤医師1人(月～木、午後勤務)の計4人体制ではあるが、現実問題として定年後の非常勤医師にいつまでも頼るわけにはいかない。また、将来的には、麻酔科医として緩和医療やペインクリニックへも関わっていかなければならない。

平成19年に、病院が増改築されて以来、麻酔器や患者監視装置、手術台の老朽化が進んでいる。安全な患者管理のために、機器の更新が急務となっている。購入から15年以上20年未満をめどに更新したいと考えている。可能であれば、10年をめどに更新するのが妥当であろう。

令和3年度には、呼吸器外科の気道管理に使用する内視鏡システムが更新された。その他の機器も古い順に更新の要望を出してはいるが、更新が必要な機器は後を絶たない。

6. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月6日～9月19日
② 講演会名	看護部ivナース研修、基礎コースIV
③ 演 題	静脈注射と退役管理(eラーニング)
④ 発表者	橋本浩

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月、7月、令和7年2月、3月
② 講演会名	看護部挿管介助研修
③ 演 題	挿管介助見学および実技指導
④ 発表者	橋本浩、須郷由希、村川徳昭、手術室看護師

7. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	令和6年4月～令和7年3月
② 活動内容	救急救命士気管挿管実習 (大館、北秋田、鹿角消防署、計16人、127症例)
③ 実施者	橋本浩、須郷由希、村川徳昭

15. 歯科口腔外科・矯正歯科

1. 外来

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	診療単価 (円)
34.8	7,639

(2) 患者延数(新患・再来)

外来(新患)患者延数	1,312 人	外来(再来)患者延数	7,144 人
------------	---------	------------	---------

(3) 担当医師数

担当 医 師 人 数	平均 2 人/日
------------	----------

(4) 看護師数

看 護 師 人 数	3 人	歯 科 衛 生 士 人 数	3 人
歯 科 技 工 士 人 数	0 人		

(5) 外来疾患名(重要な疾患名を適宜)

1	埋伏智歯	8	口腔腫瘍(良性/悪性)
2	顎骨腫瘍/囊胞	9	口腔感染症
3	周術期口腔機能管理	10	口腔粘膜疾患
4	薬剤関連顎骨壊死	11	顔面外傷
5	顎関節症	12	唇顎口蓋裂
6	唾液腺疾患	13	顎変形症
7	上顎洞関連疾患	14	口腔インプラント

2. 専門外来

(1) 専門医の名称と人数

日本口腔外科学会認定医	2 人
-------------	-----

3. 入院

(1) 診療実績

平均患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)	診療単価 (円)
1.3	5.0	63,290

(2) 入院疾患名(重要な疾患名を記載)

埋伏歯	39 人
頸骨腫瘍/囊胞	14 人
齲蝕	7 人
骨髓炎	5 人
口蓋隆起/下顎隆起	5 人
顔面外傷	4 人
口腔/歯性感染症	4 人
歯性上顎洞炎	4 人
口腔良性腫瘍	3 人
口腔悪性腫瘍	2 人
口蓋裂/先天異常	2 人
総 数	89 人

4. 検査例、治療例、手術例(主なもの)

(1) 治療例

項目	例 数
① 周術期口腔機能管理	3,264
② 齲蝕治療/補綴治療	65
③ 抗菌化学療法	13
④ 化学療法	3
⑤ 放射線治療	1

(2) 手術例

項目	例 数
① 抜歯術	463
② 埋伏歯抜歯術	270
③ 頸骨腫瘍/囊胞摘出術	24
④ 口腔インプラント手術	4
⑤ 口腔悪性腫瘍手術	2

5. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

歯科口腔外科では、口腔(口唇、頬粘膜、上下顎歯肉、硬口蓋、舌、口腔底)や上下顎骨、唾液腺に生じる顎口腔に関連した疾患を治療対象としている。常勤歯科医師数が2名となり、顎口腔腫瘍、口腔がん、顎関節症、口蓋裂、顎変形症、囊胞、埋伏歯、外傷、炎症などの口腔外科手術全般に加え、病変切除後の再建や口腔インプラント治療や、緊急を要する顔面や口腔内の外傷なども対応可能となった。また、様々な疾患を持つ患者さんの一般歯科治療も行っている。周術期口腔機能管理は、他科と連携し、手術や化学・放射線療法前後における口腔管理、および挿管時の歯牙保護の目的のマウスピース作製を行っている。

(2)今後の課題

北秋田・大館・鹿角地域の歯科医院はじめ医療機関と連携し、対応が困難な疾患や緊急性の高い症例を迅速に治療できるようにする。顎変形症手術や顎骨再建、インプラント手術などの症例を増やしていく。

6. 学会発表等

(1)学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月13日～14日
② 学会名	第37回日本顎関節学会総会・学術大会
③ 開催地	徳島市 あわぎんホール
④ 演 題	顎関節前方障害形成術施行後に両側顎関節強直症を発症した1例
⑤ 発表者	伊東 慶介

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月18日～20日
② 学会名	第73回日本アレルギー学会学術大会
③ 開催地	京都市 国立京都国際会館
④ 演 題	好酸球炎症疾患における好酸球Eosinとマクロファージ貪食
⑤ 発表者	伊東 慶介

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月22日～24日
② 学会名	第69回日本口腔外科学会総会・学術大会
③ 開催地	横浜市 パシフィコ横浜
④ 演 題	Three cases of papillary thyroid carcinoma metastasis in postoperative cervical dissection specimens for oral cancer
⑤ 発表者	伊東 慶介

(2) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月11日
② 掲載誌名	Allergy & Rhinology
③ 題 名	Dupilumab Decreases Local Galectin-10 Expression in Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis
④ 発表者	Isao Suzuki, Keisuke Ito, Shigeharu Ueki, Mineyo Fukuchi, Tomomi Mizuyoshi, Yurie Otani, Tatsuya Kitajima, Mio Takeuchi, Taisuke Hamasaki, Kojiro Hirano, Toshikazu Shimane

項目	内 容
① 年月日	令和6年8月1日
② 掲載誌名	American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology
③ 題 名	Characteristics and Regulation of Human Eosinophil ETosis In Vitro
④ 発表者	Hiroki Tomizawa, Misaki Arima, Yui Miyabe, Chikako Furutan, Sahoko Kodama, Keisuke Ito, Ken Watanabe, Ryo Hasegawa, Shohei Nishiyama , Keinosuke Hizuka, Takechiyo Yamada, Shigeharu Ueki

項目	内 容
① 年月日	令和6年8月1日
② 掲載誌名	American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology
③ 題 名	Characteristics and Regulation of Human Eosinophil ETosis In Vitro
④ 発表者	Hiroki Tomizawa, Misaki Arima, Yui Miyabe, Chikako Furutan, Sahoko Kodama, Keisuke Ito, Ken Watanabe, Ryo Hasegawa, Shohei Nishiyama , Keinosuke Hizuka, Takechiyo Yamada, Shigeharu Ueki

7. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	令和7年1月17日
② 活動内容	秋田県がん診療連携協議会 評価・改善部会 発表
③ 実施者	伊東 慶介

II. 部門別の臨床統計・研究実績

1. 看護部

1. 臨床統計

令和6年度 専門資格取得者		令和6年度院内研修修了者	
プライマリーケア認定看護師	1名	クリニカルラダーレベルⅠ	14名
小児在宅移行支援指導者	3名	クリニカルラダーレベルⅡ	3名
骨粗鬆症マネージャー	1名	クリニカルラダーレベルⅢ	2名
特定行為指導者	1名	がん看護研修Ⅰ	13名
特定行為看護師(栄養、カテーテル管理、感染)	1名	がん看護研修Ⅱ	4名
医療対話推進者	1名	がん看護研修Ⅲ	5名

令和6年度 主な院外研修修了者		令和6年度 看護学実習生 延べ人数	
認定看護管理者研修ファーストレベル教育課程	2名	秋田看護福祉大学	1749名
災害支援ナース	2名	弘前大学	30名
特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任	1名	東北福祉看護学校	26名
		弘前医療福祉大学	23名

令和6年度認定看護管理者教育課程 サードレベル実習受け入れ		令和6年度インターンシップ・病院見学	
JJA秋田厚生連 能代構成医療センター	1名	高校(北鷹・桂桜・鹿角)	看護 7名
		中学校(東中・北陽中)	看護 7名
		日本赤十字秋田看護大学	助産師 1名

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

今年度4月から救命救急センターおよび訪問看護ステーションが運用開始となり、9月から救命救急センターに看護師を8名配置し、外来2交代制と宿日直管理体制を同時に開始した。救命センターでは院内トリアージを開始し、管理宿日直者が緊急呼び出しと入院・応援調整を行う体制とし、患者受け入れの対応力が向上した。訪問看護ステーションは、4月に管理者、事務員、看護師4名を配置し、「おおだてハチ公」から引き継いだ20名と当院精神科で訪問看護を行っていた30名の計50名の利用者で開始した。年度末には利用者は78名となり、入院から在宅へ繋ぐ役割を拡大している。

4月からNP室を設置し、診療看護師2名が診療科(循環器内科、整形外科)配属として活動を開始した。NPの存在を周知するとともに、外来、病棟、手術、検査、搬送と、活動のフィールドを広げている。2月には、認定看護師室を設置し、認定看護師の活動拠点として、認定看護師同士の連携の強化を図った。

病院の機能強化プランを受け、HCUと緩和ケア病棟の開設について具体的な議論を重ねたが、どちらも将来的に安定した運用が見込めず、現時点で導入は保留となつた。

北鹿ヘルスケアネット設立に伴い、大湯リハビリ病院へ、2月から看護師2名の派遣を行った。この派遣は同時期に扇田病院からの異動があったため実施が可能になった。大湯リハビリ病院との相互交流により、患者受け入れの情報共有や、看護業務の運用について、入院セットやスポットチェックモニターなど、業務改善につながる情報を得る機会になった。

(2)今後の課題

看護補助者の人員確保
ICT活用による業務の効率化
特定行為看護師の育成
eラーニング研修の活用による学習活動の負担軽減
院内連携の強化と地域への継続看護

3. 学会発表等

(1)学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月17日～19日
② 学会名	日本糖尿病学会
③ 開催地	東京国際フォーラム
④ 演 題	糖尿病教育入院後の患者における歯周病に対する実態調査
⑤ 発表者	伊藤真弓

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月13日
② 学会名	日本骨粗鬆症学会
③ 開催地	金沢市
④ 演 題	介護施設にて受傷した大腿骨近位部骨折患者の経年変化
⑤ 発表者	村上光太郎

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月31日～11月1日
② 学会名	全国自治体病院学会
③ 開催地	新潟コンベンションセンター
④ 演 題	①褥婦の産後ケアに対する認識調査 ②糖尿病教室における糖尿病自己管理支援のプログラム導入に向けた事例の検討 ③A病院におけるレスパイト入院の取り組み
⑤ 発表者	①大川亜衣 ②橋本有紗 ③若松由里子

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月2日
② 学会名	日本プライマリ・ケア連合学会 秋田県支部総会2024
③ 開催地	秋田大学
④ 演 題	県内初のプライマリ・ケア看護師受験報告について
⑤ 発表者	佐藤奈々絵

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月29日
② 学会名	秋田県看護学会
③ 開催地	秋田県総合保健センター
④ 演 題	①ノートへの感情書き出しにより自傷行為が消失した一例 ②扁平乳頭による直接授乳困難な初産婦の授乳方法獲得への支援
⑤ 発表者	①佐藤彩 ②森澤翠葉

(2) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年4月24日
② 講演会	第1回秋田県薬剤師会大館秋田支部生涯教育講演会
③ 題 名	当科における自己注射指導について
④ 発表者	花田純子

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月22日
② 講演会	日本救急医学会東北地方会
③ 演 題	高齢社会における救急看護の役割～チェックリストを用いた帰宅支援の検討～
④ 発表者	糠塚拓道

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月6日
② 講演会	看護協会 訪問看護スキルアップ研修
③ 演 題	振り返ってみよう！症状コントロールに向けた看護技術～CVポートと持続皮下注射～
④ 発表者	浪岡恭子

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月18日
② 講演会	秋田県看護協会介護福祉施設研修会講師 介護医療院西大館病院
③ 演 題	抑制しない看護、療養環境の作り方
④ 発表者	原田尚桂子

項目	内 容
① 年月日	①令和6年9月27日 ②令和6年10月31日
② 講演会	①秋田県看護協会介護福祉施設研修会講師 特別養護老人ホーム長慶荘 ②特定保健医療材料研修会
③ 演題	①皮膚トラブル予防、排泄ケアに関する講義・演習 ②褥瘡と予防のためのスキンケア
④ 発表者	安保明子

項目	内 容
① 年月日	①令和6年10月24日 ②令和7年2月8日
② 講演会	①圏域居住介護支援事業所連絡会 ②秋田県市町村糖尿病重症化予防ネットワーク研修会講師
③ 演題	①当院のレスパイト入院の現状 ②糖尿病患者のセルフケア支援
④ 発表者	若松由里子

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月11日
② 講演会	秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科特別講演
③ 演題	看護の道を歩むあなたへ～命と向き合うプロフェッショナルになるために～
④ 発表者	古川茜

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月16日
② 掲載誌名	秋田看護福祉大学総合研究所「研究所報」第20号投稿論文
③ 演題	外来放射線治療を受ける前立腺がん患者の心理的不安と主観的QOL
④ 発表者	共著者 伊藤由美恵

4. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	①令和6年6月5日 ②令和6年11月5日 ③令和6年11月28日 ④令和6年12月2日 ⑤令和6年12月19日
② 活動内容	秋田看護福祉大学 ゲストスピーカー ①精神看護方法論 I ②地域包括リハビリテーション実習講義 ③④がん緩和ケア論 ⑤医療と福祉のマネジメント
③ 実施者	①鈴木和 ②⑤若松由里子 ③浪岡恭子 ④木次谷七恵 ⑤畠山美嘉子

項目	内 容
① 年月日	①令和6年6月27日 ②令和6年10月27日
② 活動内容	①秋田県看護協会ナースセンター看護職員再就業促進事業 復職支援実技研修「高齢者の皮膚ケア」 ②公益社団法人日本オストミー協会秋田県支部 オストメイトの集い&相談会
③ 実施者	安保明子

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月27日
② 活動内容	秋田県看護協会ナースセンター看護職員再就業促進事業 復職支援実技研修「呼吸フィジカルアセスメント」
③ 実施者	糠塚拓道

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月28日
② 活動内容	子育て応援団すこやかあきた2024 健康サポートゾーン運営協力
③ 実施者	大澤美奈子

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月6日
② 活動内容	つどいの広場ひよこ わくわくタイム 「ほっと子育て相談日」講師
③ 実施者	高田昭子

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月11日、12月18日
② 活動内容	周産期救急研修会講師(鹿角広域行政組合)
③ 実施者	八柳ひとみ、大川亜衣、大澤美奈子、小松明日香

2. 臨床検査科

1. 臨床統計

区分	R6年度	R5年度	比較増減	1日平均	増減の理由
微生物	22,837	19,833	3,004	94.8	血液培養 約700件増加
一般	42,222	41,108	1,114	175.2	尿定性 501件増、尿沈渣 495件増、カルプロテクチン 44件増
血液	159,038	144,745	14,293	659.9	血算 5552件増、血液像鏡検法 1068件増、凝固検査 PT・APTT1700件増、骨髄検査 25件増
生化学	1,196,710	1,097,271	99,439	4,965.6	包括件数が増加しているためその分が増収
生理	25,769	24,585	1,184	106.9	循環器内科医師の増員に伴い心臓関連検査の増加
免疫	169,284	160,722	8,562	702.4	件数増加(特に感染症、NTproBNP、CA19-9、CEA等)
病理	18,980	17,766	1,214	78.8	近隣個人病院閉鎖・外来縮小に伴う患者増
輸血	10,601	10,160	441	44.0	件数増加(特に血液型検査、血液ガス検査)
聴力	898	801	97	3.7	件数は微増。担当医師によるものと思われる。
採血	75,217	71,553	3,664	312.1	患者増により、5%程度増加
計	1,721,556	1,588,544	133,012	7,143.4	

外注	43,774	40,338	3,436	180.1	全体的に増加した
----	--------	--------	-------	-------	----------

保険点数に含まれない業務（臨床検査科検査件数調に含まれない業務）

レジオネラ環境検査	10	PSG検査(電極装着)	30
栄養科給食従事者検便	104	糖尿病療養指導	43
食品(惣菜)自主的衛生検査	2	不規則抗体同定検査	61
透析水質検査	66	検査説明(輸血部門)	0
褥瘡対策委員会用資料作成	12	剖検(標本作製含む)	2
MRSA月報作成	12	臓器写真撮影	695
JANISサーベイランスデータ送信	12	手術標本切り出し立会い	79
DOTS用資料作成	12	入院時の病理組織免疫染色(DPCに含まれた分)	533
ASTカンファランス	364	病理組織特殊染色	1,235
薬剤科用分離菌頻度資料作成	12	細胞診ゲフリール(体腔液以外のスタンプ標本など)	0
月別耐性菌リスト作成	12	細胞診の免疫染色	39
抗生物質委員会用資料作成	1	細胞診のセルブロック	13
MRSA・緑膿菌週報作成	52	学会発表用のマクロ・ミクロ撮影	
アフト試験	4	術後患者に配布する臓器写真印刷(産婦人科)	
胸水穿刺液検査(採取料に含まれる)	34	外注(SRL)提出標本作製	215
腹水穿刺液検査(採取料に含まれる)	8	外注(LSI) READ提出検体処理	34
関節液検査(採取料に含まれる)	63	再採血依頼	128
薬物検査(Status DS10)	22	パニック値報告	1,942

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

臨床検査科は、採血、一般、血液、生化学・免疫、輸血、生理、微生物、病理の部門がある。毎日(測定作業日誌、機器保守管理作業日誌)、毎月(統計学的精度管理台帳)、外部精度管理(日本臨床衛生検査技師会、秋田県臨床衛生検査技師会、日本医師会)を行い、良い検査データを出せるように努めている。

今年度も臨床検査室以外の職員向けの臨床検査科マニュアル「ようこそ臨床検査科へ」を発行し、各部門の内容修正や追加を行った。臨床検査科情報誌「ラボ・インフォ」も発刊した。

毎朝ミーティングを行い、情報伝達や各部署の担当を決めている。休暇者や宿直明けには、複数部署を担当出来る技師を増やす事により対応している。

(2) 今後の課題

複数部署を担当出来る技師の育成を今後も続ける事で、検査科全体で検査業務に携わって行きます。検査件数は増加傾向だがスタッフは増えないので、時間単位でスタッフの移動を行い効率よく業務を行っていく。

超音波検査の件数は年々増加している。超音波検査業務の出来る技師の育成を行い、医師の業務軽減につなげて行きたい。

他部門との連携や、各委員会参加により臨床検査科が貢献出来る様にしたい。

職員向けの臨床検査科マニュアル「ようこそ臨床検査科へ」・臨床検査科情報誌「ラボ・インフォ」で情報発信をして、患者向けの「基準値及び検査内容案内」で啓蒙活動に取り組んでいく。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月14～15日
② 学会名	第12回日臨技北日本支部医学検査学会
③ 開催地	仙台国際センター
④ 演 題	遠隔超音波検査の当院における運用 有用性と課題
⑤ 発表者	山本 聰子

4. その他

項目	内 容
① 年月日	令和6年4月4日
② 活動内容	看護師向け心電図講習会(外来)
③ 実施者	前田さゆり、花田 綾子、高橋 倫子

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月1日
② 活動内容	「世界エイズデー」参加協力
③ 実施者	市川 聰、奈良 司

3. 神経精神科リハビリテーション室

1. 臨床統計

(1) スタッフ

- ・心理療法：公認心理師(臨床心理士) 2名
- ・相談支援：精神保健福祉士 3名 (1名は認知症疾患医療センター専従)
- ・病棟作業療法：作業療法士 1名 (リハビリテーション科所属)

(2) 活動実績

【心理療法】

心理検査(のべ数)	118件
カウンセリング(のべ数)	602件

【相談支援】

《入退院患者数》

- ・入院患者数 194名

[入院形態内訳:任意入院51名(26%)、医療保護入院143名(74%)、措置入院0名(0%)]

- ・退院患者数 181名

[退院先内訳:自宅97名(54%)、施設41名(23%)、転科・転院39名(22%)、死亡4名(2%)]

精神科退院前訪問指導 算定数	10件
----------------	-----

【病棟作業療法】

精神科作業療法算定数	1,660件
退院時リハ指導算定数	16件

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

【心理療法】

令和6年度は、前年度よりもカウンセリング件数が70件、心理検査件数が36件増加した。実施した心理検査のうち当科医師から依頼されたものは22%であり、小児科医師からの依頼が29%、他院からの依頼が49%だった。ほとんどが発達知能検査の依頼であり、小児だけではなく成人の検査依頼も多くなっている。心理師が2名体制になったことで、カウンセリングへの対応と心理検査のスムーズな実施が可能となった。

【相談支援】

精神保健福祉法の一部改正に合わせて、退院支援委員会の開催や予定入院期間の更新手続きの流れを新たに作成した。また、患者や家族からの医療相談には随時対応しており、抱えている心配事や不安事を確認しながら、必要に応じて利用できるサービスや外部の支援機関を紹介し、安心して地域で生活できるよう支援している。

【病棟作業療法】

入院患者の減少傾向は続いているものの、集団作業療法の実施に加えて廃用予防や歩行訓練等の身体アプローチを併せて行うなど、個別的なリハビリテーションの充実を図っている。精神科退院時共同指導料の算定や退院前カンファレンスへの参加等、多職種連携した退院支援も行っている。

(2) 今後の課題

【心理療法】

心理検査およびカウンセリングについては、適宜速やかに対応できるよう体制を維持していく。カウンセリングに関しては、本人のモチベーションが低いまま勧められるままに受診される患者も一定数いることから、導入時の見立てをしっかりと行う必要がある。また、精神科以外の科からの依頼で心理検査を行った場合、心理検査結果報告書が適切に扱われていない現状がある。そのため医師・専門家向けの報告書と、本人・家族向けの報告書をきちんと分けて取り扱うことができるよう対策を検討している。

【相談支援】

患者が円滑に受診および入退院ができるよう、院内外の関係者との情報交換、情報共有を密に行っていく。また、入院後に介護保険申請や更新手続きを行う患者や、施設退院を希望される家族が増加している。本人・家族のそれぞれの意思を尊重し、関係機関との連携を図りながらスマートな退院先の確保を目指す。

【病棟作業療法】

精神病圈から認知症、神経症圏まで様々な疾患の方が入院されているため集団での活動が難しく、小規模での活動が多くなっている。廃用予防の観点からも、作業療法への参加による離床を促していく。

3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和6年5月13日
② 講演会名	神経精神科病棟 OJT
③ 演題	「改正精神保健福祉法について」
④ 発表者	精神保健福祉士：高橋愛実

項目		内 容
①	年月日	令和6年5月20日
②	講演会名	看護部 院内教育研修会(レベルⅠ)
③	演 題	「メンタルヘルス」
④	発表者	公認心理師・臨床心理士:武内佳苗

項目		内 容
①	年月日	令和6年7月24日
②	講演会名	公益社団法人秋田県看護協会 医療人材の魅力発見・学校紹介事業
③	演 題	「臨床心理士・公認心理師になるには」
④	発表者	公認心理師・臨床心理士:村形綾香

項目		内 容
①	年月日	令和6年10月4日
②	講演会名	看護部 院内教育研修会(レベルⅢ)
③	演 題	「メンタルヘルス～ストレスとの上手な付き合い方～」
④	発表者	公認心理師・臨床心理士:武内佳苗

項目		内 容
①	年月日	令和6年10月5日
②	講演会名	令和6年度 傾聴ボランティア養成講座
③	演 題	「精神疾患の方への対応」
④	発表者	精神保健福祉士:高橋愛実

4. その他

(社会的活動他)

- ・秋田県精神保健福祉協会大館鹿角支部
- ・秋田県精神障害者地域移行・地域定着支援事業
- ・秋田県精神科救急医療体制整備事業
- ・秋田県ひきこもり相談支援連絡協議会
- ・秋田県発達障害者支援センター連絡協議会県北支部会
- ・秋田県医療観察制度運営連絡協議会
- ・自殺未遂者支援対策事業
- ・大館市障害者自立・差別解消支援協議会
- ・大館市乳幼児健康診査
- ・北秋田市要保護児童対策地域協議会

4. 薬剤科

1. 臨床統計

(1) 調剤室

表1. 処方せんの枚数等

	一般処方		麻薬処方*
	枚数	剤数	枚数
入院	40,943	63,407	804
外来	11,572	25,434	86
計	52,515	88,841	890

* 麻薬処方は処方せん原本枚数(一般処方の麻薬処方は「控」の枚数)。

* 院外処方せん

枚数	126,207	発行率(%)	98.3
----	---------	--------	------

(2) 薬品管理室

表3. 業務日数

稼働日数	245
特別出勤日数	3

表4. 注射関連業務件数ほか

種類	枚数ほか
定期注射せん枚数①	45,912
化学療法予定枚数②	5,925
無菌製剤処理枚数(注)	5,451
無菌製剤処理件数(注)	9,091
麻薬無菌調製枚数	0
特定生物由来製剤使用伝票枚数	740
注射麻薬施用せん枚数	3,186
注射麻薬施用せん剤数	4,796

(注) 無菌製剤処理には抗がん剤、高カロリー輸液調製が含まれる

表6. 化学療法無菌調整枚数

	セット枚数	実施枚数	実施率(%)
入院	1,213	1,165	96.0
外来	4,311	4,279	99.3
計	5,524	5,444	98.6

表2. その他の処方箋枚数

種類	枚数
一包化処方(注1)	5,569
再調剤指示処方(注2)	1,023

(注1)一般処方せんに含まれる

(注2)一般処方せんに含まれない

表5. 薬剤請求伝票数

請求伝票品目数	81,235
注射箋セット枚数合計 (表4①+②)	51,837

表7. 無菌製剤処理料請求件数(入院+外来)

種類	件数
無菌製剤処理料1イ(閉鎖式接続器具を用いて無菌製剤処理を行った場合)	119
無菌製剤処理料1ロ(イ以外の場合)	4,613
無菌製剤処理料2(1以外のもの:高カロリー輸液、麻薬)	47
計	4,779

表8. 指定抗菌薬使用届出枚数(注射)

抗MRSA薬		β -ラクタム系薬		ニューキノロン系薬	
品名	枚数	品名	枚数	品名	枚数
VCM	43	PAPM/BP	0	LVFX	34
ABK	0	MEPM	178	LSFX	0
TEIC	9	IPM/CS	4	CPFX	0
LZD	19	REL/IPM/CS	0		
DAP	3				
計	74	計	182	計	34
					合計 290

(3)その他

表9. 製剤調整数

剤形	種類数	調整件数
内用剤	0	0
注射剤	0	0
外用剤(点眼剤)	2	6
外用剤(軟膏剤)	3	21
外用剤(坐剤)	0	0
外用剤(その他)	16	226
計	21	253

表10. 薬剤管理指導料等算定期数

内訳	件数
①薬剤管理指導料1(380点)	4,375
②薬剤管理指導料2(325点)	5,681
(①+②)のべ薬剤管理指導料	10,056
③麻薬管理指導加算	174
④退院時薬剤情報管理指導料	1,840
⑤退院時薬剤情報連携加算	2

表13. 医薬品採用、中止等の品目数

区分	品目数
① 新規購入	75
② 試用購入	28
③ 院外採用	36
④ 採用区分変更(院外→共通)	12
⑤ 採用区分変更(共通→院外)	20
⑥ 購入中止	77
①+②+④	実質採用合計 115
⑤+⑥	実質中止合計 97
⑦	医薬品総数 1,941

表11. 持参薬鑑別依頼件数

件数
5,532

表12. お薬相談室利用件数

(服薬指導件数)

内訳	件数
自己注射・吸入指導等	175

表14. 後発医薬品数量割合(%)

入院	75.4
外来	80.9
全体	76.3

(注)3月1ヶ月のデータ

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 一般調剤業務(処方せん枚数など)

令和6年度の院内処方せん枚数は入院40,943枚(前年度と比較し3.6%増)、外来11,572枚(1.4%減)、院内一包化処方は5,569枚(5.9%増)、再調剤依頼書は1,023枚(2.1%減)だった。院外処方せん発行枚数は126,207枚(0.1%減)で院外処方率は98.3%(0.3%増)だった。

(2) 注射業務

注射せん枚数は45,912枚(14.2%増)、化学療法予定枚数は5,925枚(9.6%増)、特定生物由来製剤使用伝票枚数は740枚(13.3%減)、注射麻薬施用せん枚数は3,186枚(5.2%増)、無菌製剤処理件数は9,091件(8.1%増)だった。

(3) 病棟業務

薬剤管理指導件数は10,056件(3.7%減)、持参薬鑑別依頼件数は5,532件(2.3%増)だった。令和6年度薬剤師の宿直業務開始に伴い、日勤者の減少もあり若干の薬剤指導件数の減少が見られた。来年度は新入職員の増員も見込まれており、指導件数の増加を目標したい。

(4) その他

後発医薬品数量割合(令和7年3月)は76.3%で、前年と比較し2.2%減であった。

来年度は、臨時注射箋への関わりを増やしていくことを目標としていく。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月22日
② 学会名	日本病院薬剤師会東北ブロック第13回学術大会
③ 開催地	青森県八戸市
④ 演 題	薬薬連携を強化した入院前服薬整理～服薬情報等提供料3への取り組み～
⑤ 発表者	鈴木 剛

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月6日
② 学会名	MRSAフォーラム2024 IN SENDAI
③ 開催地	宮城県仙台市
④ 演 題	在宅治療のためTZDを選択した一症例
⑤ 発表者	田村 麻衣

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月6日
② 学会名	MRSAフォーラム2024 IN SENDAI
③ 開催地	宮城県仙台市
④ 演 題	血小板減少が認められたDIC患者にLZDを投与した症例
⑤ 発表者	畠中 祐磨

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月18日
② 学会名	第71回日本化学療法学会東日本支部総会
③ 開催地	東京都
④ 演 題	TAZ/CTLZに耐性を獲得した <i>Pseudomonas aeruginosa</i> による肺化膿症の一例
⑤ 発表者	田村 麻衣

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月2日
② 学会名	日本プライマリ・ケア連合学会秋田県支部学術集会2024
③ 開催地	秋田県秋田市
④ 演 題	プライマリ・ケア認定薬剤師を目指して
⑤ 発表者	齋藤 正子

項目	内 容
① 年月日	令和7年3月15日～16日
② 学会名	第14回日本臨床腫瘍学会2025
③ 開催地	神奈川県横浜市
④ 演 題	呼吸器専門医不在の施設におけるトラスツズマブデルクスティカン導入のプロセス
⑤ 発表者	虹川 詩希子

(2) 研究会発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月17日
② 講演会名	タスク・シフト／シェアを考える会(秋田市)
③ 演 題	タスク・シフト／シェアを進めてシームレスな医療を提供する
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月30日
② 講演会名	Hot Seminar for Pharmacist(北海道札幌市)
③ 演 題	薬薬連携を強化してシームレスな連携を目指す！
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和6年7月19日
② 講演会名	大館地区骨折リエゾンサービス(FLS)セミナー(大館市)
③ 演 題	薬剤師としてのFLS活動への関わり方
④ 発表者	斎藤 勝裕

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月26日
② 講演会名	第9回東北外来抗感染症薬研究会(宮城県仙台市)
③ 演 題	大館地区で実践している地域連携と認定薬剤師の症例報告の書き方について
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月8日
② 講演会名	第59回八戸臨床感染症研究会(青森県八戸市)
③ 演 題	地域で取り組む新型コロナウイルス感染症治療
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月26日
② 講演会名	Pharmacist Seminar in Okhotsk(北海道北見市)
③ 演 題	円滑な医療を提供するためにオール薬剤師で取り組む
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月14日
② 講演会名	第28回秋田県精神科薬剤師研究会(秋田市)
③ 演 題	薬剤師の役割とタスクシフト～総合病院の立場から～
④ 発表者	斎藤 勝裕

項目	内 容
① 年月日	令和7年1月24日
② 講演会名	福島といわき薬剤師感染症セミナー(福島県いわき市)
③ 演 題	地域で取り組む抗菌薬適正使用
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月8日
② 講演会名	第32回秋田県薬剤師感染制御研究会(秋田市)
③ 演 題	地域感染症対策の医療連携について
④ 発表者	中居 肇

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月8日
② 講演会名	第32回秋田県薬剤師感染制御研究会(秋田市)
③ 演 題	新しい抗菌薬の分類(AWaRe分類)について～当院の現状と取組み～
④ 発表者	藤島 哲大

項目	内 容
① 年月日	令和7年3月6日
② 講演会名	第15回 秋田県薬剤師糖尿病研究会(秋田市)
③ 演 題	糖尿病対策チームにおける薬剤師の役割
④ 発表者	鈴木 剛

項目	内 容
① 年月日	令和7年3月17日
② 講演会名	第2回山梨Pharmacy Director Seminar(山梨県山梨市)
③ 演 題	環境と意識の改革を進めて薬は薬剤師を定着させる！
④ 発表者	中居 肇

(3)論文投稿

項目	内 容
① 年月日	令和6年4月1日
② 掲載誌名	The Japanese Society of Internal Medicine
③ 題名	<i>Clostridium paraputrifificum</i> Bacteremia in a Patient with Rectal Cancer after Receiving Antibiotic Therapy for Acute Pharyngolaryngitis
④ 投稿者	中居 肇(共著)

(4)その他講習会・講演会

患者・市民向け	パーキンソン病治療薬について(藤島 哲大)
---------	-----------------------

地域薬剤師向け	新興・再興感染症について(藤島 哲大)
	スタンダードプリコーションとガウン着脱-実技指導も含めて-(田村 麻衣)
	個人防護具の着脱について(畠中 祐磨)

薬物乱用防止 教室など	矢立小学校(三浦 聰子)/川口小学校(斎藤 勝裕)
	山瀬小学校(鈴木 剛)

5. 栄養科

1. 臨床統計

(1) 令和6年度 栄養食事指導件数

単位:件

月	外来		件数	入院		件数	入外 合計	集団(入院) 合計	合計
	加算	非加算		加算	非加算				
4	72	26	98	54	6	60	158	5	7
5	84	18	102	50	14	64	166	4	7
6	69	18	87	56	7	63	150	6	10
7	66	18	84	57	10	67	151	6	8
8	59	25	84	43	9	52	136	3	3
9	51	14	65	44	11	55	120	3	4
10	71	14	85	65	10	75	160	2	4
11	72	24	96	72	15	87	183	2	4
12	62	26	88	102	11	113	201	3	6
1	79	21	100	73	4	77	177	6	9
2	74	19	93	60	6	66	159	5	7
3	66	20	86	61	14	75	161	5	7
計	825	243	1,068	737	117	854	1,922	50	76

2. 診療に係る評価および今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

【特徴】

栄養部門の業務は栄養管理と給食管理に分けられます。

栄養管理業務は患者様一人ひとりに対して栄養管理計画を作成し食事調整や栄養指導を行い、食事を通して疾病治療や生活の質向上につなげる業務です。

給食管理業務は安心、安全、そして治療に貢献できる食事提供に関する業務です。

【アピール】

- ①化学療法・放射線療法による食欲不振の患者様に対して食事相談を行い、個々の状態に応じた食事提供に努めています。個別対応食としてなごみ食の提供を行っています。
- ②食事は患者様や病棟の要望・意見を出来るだけ取り入れた内容を心がけています。また、食事検討会・試食会を実施し、味・食形態・色彩・盛付け等について意見を出し合い、安心・安全でおいしい食事の提供につなげています。さらに、行事食(年間24回)、出産お祝膳にも力を入れています。
- ③栄養指導では慢性疾患や急性疾患、術前・術後、また低栄養や嚥下障害への指導を行っており、その他に糖尿病集団指導や糖尿病透析予防指導も行っています。
- ④転倒転落防止チーム・NST委員会・褥瘡対策委員会・緩和ケア委員会・クリニカルパス委員会・リスクマネジメント委員会・感染委員会・骨折リエゾンチーム等に参画しています。
- ⑤チーム医療に貢献するため、NSTや病棟退院前カンファレンス等に参加。院外においても学会や院外研修会に参加し、資格の取得・更新などの各々のスキルアップにも力を入れております。

(2) 今後の課題

- ・患者様に寄り添い、安心・安全で満足して頂ける食事の提供を目指す。
- ・低栄養の患者様を早期発見、早期介入できるよう他の職種の方々と連携をとる。
- ・外来、入院、さらに地域連携バスにおいて切れ目のない栄養指導の実施・継続。
- ・チーム医療や診療報酬において貢献できるよう、各々のスキルアップ。

3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年 6月5日
② 講演会名	大館虹の会
④ 演 題	がん療養を支える食事
⑤ 発表者	後藤 史子

項目	内 容
① 年月日	令和6年 8月16日
② 講演会名	院内褥瘡対策委員会 リンクナース研修会
④ 演 題	褥瘡と栄養管理
⑤ 発表者	福山 恵里奈

項目	内 容
① 年月日	令和6年 9月2日
② 講演会名	秋田県看護福祉大学 早期体験実習
④ 演 題	チーム医療における管理栄養士のかかわり
⑤ 発表者	関本 葉子

項目	内 容
① 年月日	令和6年 9月12日
② 講演会名	もっともっと知ろう「緩和ケア」2024
④ 演 題	がん療養における食事
⑤ 発表者	後藤 史子

項目	内 容
① 年月日	令和6年 10月11日
② 講演会名	第75回 秋田県病院給食協議会
④ 演 題	FLSチーム内での栄養士の役割について
⑤ 発表者	松田 真美子

項目	内 容
① 年月日	令和7年 3月18日
② 講演会名	院内透析室勉強会
④ 演 題	透析患者の栄養管理について
⑤ 発表者	関本 葉子

6. 放射線科

1. 臨床統計

(1) 令和6年度業務実績

(単位:人)

	日数	一般撮影	造影	断層	血管	マンモ	骨塩	CT	MRI	RI	治療	透視	合計
4月	20	3,360	4	7	31	71	149	1,323	425	58	316	135	5,879
5月	19	3,322	7	6	31	98	119	1,244	441	54	286	137	5,745
6月	22	3,557	1	2	43	118	153	1,293	448	58	263	142	6,078
7月	20	3,356	1	3	30	231	124	1,481	487	66	426	157	6,362
8月	22	3,124	4	7	25	241	117	1,319	451	58	375	133	5,854
9月	20	3,198	3	10	24	209	123	1,291	443	43	227	129	5,700
10月	20	3,591	2	7	40	197	145	1,478	489	92	242	160	6,443
11月	20	3,520	9	9	48	178	123	1,439	449	57	263	164	6,259
12月	20	3,694	5	12	36	182	126	1,475	441	55	325	157	6,508
1月	19	3,665	4	7	36	195	131	1,422	457	50	237	158	6,362
2月	19	3,409	0	7	29	172	107	1,294	410	45	238	152	5,863
3月	22	3,461	4	6	38	65	161	1,438	429	3	296	134	6,035
合計	243	41,257	44	83	411	1,957	1578	16,497	5,370	639	3,494	1,758	73,088
前年度	242	38,044	34	98	357	1,875	1295	15,254	5,078	640	3,619	1,781	68,075
比較増減		3,213	10	△ 15	54	82	283	1,243	292	△ 1	△ 125	△ 23	5,013
月平均		3,438	4	7	34	163	132	1,375	448	53	291	147	6,091
1日平均		169.8	0.2	0.3	1.7	8.1	6.5	67.9	22.1	2.6	14.4	7.2	300.8

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

放射線科では診療放射線技師15名(男性10名、女性4名、嘱託技師1名)で、10以上のモダリティをそれぞれの担当が専門技術を身に付け日々検査に従事しております。

今年度は撮影業務全体での患者数が7%増加しており、特に血管撮影と骨密度においては10%以上の増加となっています。多くのモダリティで微増の結果となっていますが、断層撮影にて15%の減少となっています。また、年々患者数が増加しているCTについて1日平均67.9人の撮影を行っており、1台のCTで行う人数としては他に類を見ない数字となっています。また、MRIにおいても一日平均22.1人という一日の業務時間内で行う人数としては、とても厳しい人数となっています。

今年度の装置更新はありませんでしたが、技師個人が学会や研修会へ積極的に参加し、個人のスキルを高める事で、よりよい画像を提供し、地域医療に貢献できるよう努めています。

(2) 今後の課題

- 来年度の核医学装置の更新に伴い、新しい検査や装置の機能を積極的に活用し、質の高い画像の提供を目指していく。
- 人員確保が難しいため全ての技師が最低二つ以上のモダリティを操作できるように技術を身につける。
- 学会や研修会へ足を運び、そこで得た知識を放射線科全体で共有し、検査の質の向上を図っていく。
- 来年度にDRLsの改定が行われるが、新たに放射線治療の指標も加わるため、今年度に行った治療計画CTの被ばく線量との比較検討を行う。
- 今年度は人員が確保できず、定数より2人減の状態であるため不足している分の人材を確保し、適切な教育を行い、余裕をもって安全に業務を行っていく事で組織の安定化を図っていく。

3.学会発表等

(1)学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月31日
② 学会名	第62回全国自治体病院学会
③ 開催地	新潟県
④ 演題	当院のマンモグラフィ装置におけるAGDとCNRの評価
⑤ 発表者	畠山 鈴加

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月4日
② 学会名	第8回ゼロから学ぶ秋田MRIセミナー
③ 開催地	オンライン開催
④ 演題	頭部MRI
⑤ 発表者	奥村 渉

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月22日
② 学会名	県北支部第109回放射線技術学術大会
③ 開催地	鹿角市
④ 演題	骨盤部CBCT撮影時のCTDIの表示値と実測値の比較
⑤ 発表者	奥村 渉

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月22日
② 学会名	県北支部第109回放射線技術学術大会
③ 開催地	鹿角市
④ 演題	プロテクターの保守管理
⑤ 発表者	佐々木 正文

(2) 講演・論文発表等

項目	内 容
① 年月日	令和6年8月28日
② 演題	インシデント低減への取り組み
③ 発表者	佐藤 真緒

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月3日
② 演題	インシデントについて
③ 発表者	千葉 さやか

項目	内 容
① 年月日	令和6年8月29日
② 演題	頭部CT
③ 発表者	江原 瑞生

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月26日
② 演題	脳梗塞～梗塞部位を予測してみよう～
③ 発表者	野呂 憲一

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月24日
② 演題	造影剤とX線検査
③ 発表者	米沢 拓彌

項目	内 容
① 年月日	令和7年1月9日
② 演題	VTEの診断と治療
③ 発表者	村上 鉄兵

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月10日
② 演題	当院のマンモグラフィ装置におけるAGDとCNRの評価
③ 発表者	畠山 鈴加

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月4日
② 演題	当院の基準撮影法について
③ 発表者	羽澤 憲治

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月6日
② 演題	頸動脈ステント留置術(CAS)
③ 発表者	奥村 歩

項目	内 容
① 年月日	令和7年2月14日
② 演題	プロテクターの保守管理
③ 発表者	佐々木 正文

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月7日
② 演題	CBCT撮影時のCTDIの測定
③ 発表者	奥村 渉

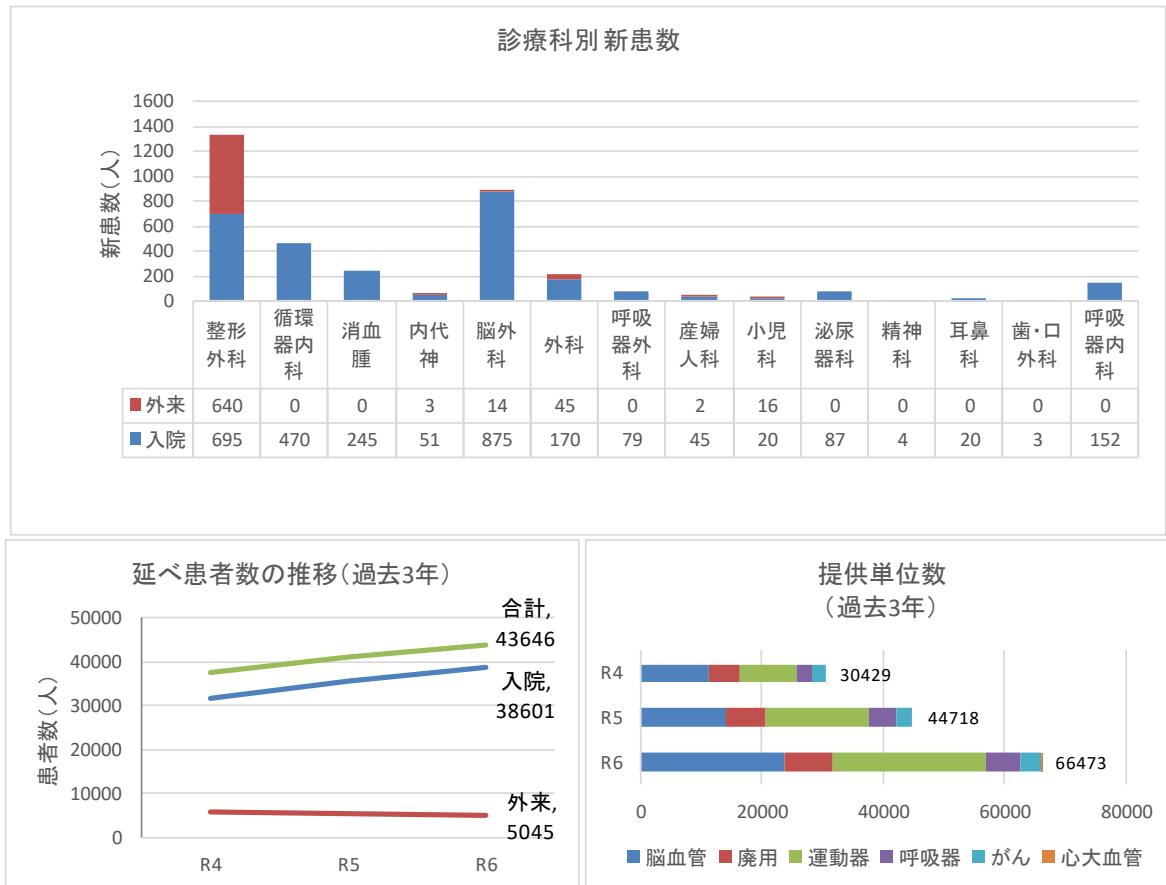
項目	内 容
① 年月日	令和7年2月27日
② 演題	放射線機器導入について
③ 発表者	小畠 学

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月27日
② 演題	治療計画用CTにおける被ばく線量測定
③ 発表者	木次谷 隆志

項目	内 容
① 年月日	令和7年3月17日
② 演題	放射線の量等の信頼性確保について
③ 発表者	工藤 淳

7. リハビリテーション科

1. 臨床統計



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

施設基準は脳血管疾患等リハビリテーション I、運動器リハビリテーション I、呼吸器リハビリテーション I、廃用症候群リハビリテーション I、がん患者リハビリテーション、心大血管疾患リハビリテーション料 I である。スタッフはPT13名、OT6名（うち包括病棟専従OT1名、精神科病棟専従OT1名）、ST2名であり、3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士（脳卒中、発達障害、運動器、呼吸）、秋田県糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、がんリハビリテーション研修修了者、臨床実習指導者講習修了者を含む。養成校から受け入れた臨床実習生は合計10名（PT8名、OT2名）であった。

スタッフの退職に伴い新人を含むPT2名、OT2名を採用した。12月には心大血管疾患リハビリテーション料の算定を開始し、新たに1名が心臓リハビリテーション指導士を取得した。また婦人科におけるがん周術期のリハビリテーションを開始し、合併症予防や早期回復を図っている。

(2) 今後の課題

心大血管疾患リハビリテーション料の算定開始に伴い指導士増員を含めたスタッフ育成、新人教育・人材育成のためのシステム構築が急務と考える。また市民向け講座や健康教室などへ派遣依頼も増えており、市民の健康増進ニーズへの対応、積極的な取り組みが必要と思われる。

3. 学会発表等

(1) 学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年6月29日
② 学会名	日本褥瘡学会東北地方会学術大会
③ 開催地	郡山市(福島)
④ 演 題	リハビリテーションが深い褥瘡に与える影響
⑤ 発表者	豊口卓

項目	内 容
① 年月日	令和6年9月14日、15日
② 学会名	日本運動器理学療法学会
③ 開催地	横浜市(神奈川)
④ 演 題	環軸椎回旋位固定に対するリハビリテーションの経験
⑤ 発表者	豊口卓

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月16日、17日
② 学会名	第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学術集会
③ 開催地	名古屋市(WEB)
④ 演 題	術前の運動耐容能低下が大腸癌患者に及ぼす影響
⑤ 発表者	柏木智一

4. その他

(社会的活動他)

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月22日
② 活動内容	大館市DMセミナー 講師
③ 実施者	柏木智一

項目	内 容
① 年月日	令和6年11月10日
② 活動内容	おおだていきいきフェア 運動指導
③ 実施者	豊口卓

項目	内 容
① 年月日	令和6年12月8日
② 活動内容	秋田県理学療法士会北部ブロック主催 転倒予防 講師
③ 実施者	豊口卓

項 目	内 容
① 年月日	令和6年12月12日
② 活動内容	大館市地域ケア会議 出席
③ 実施者	柏木智一

8. 臨床工学科

1. 臨床統計

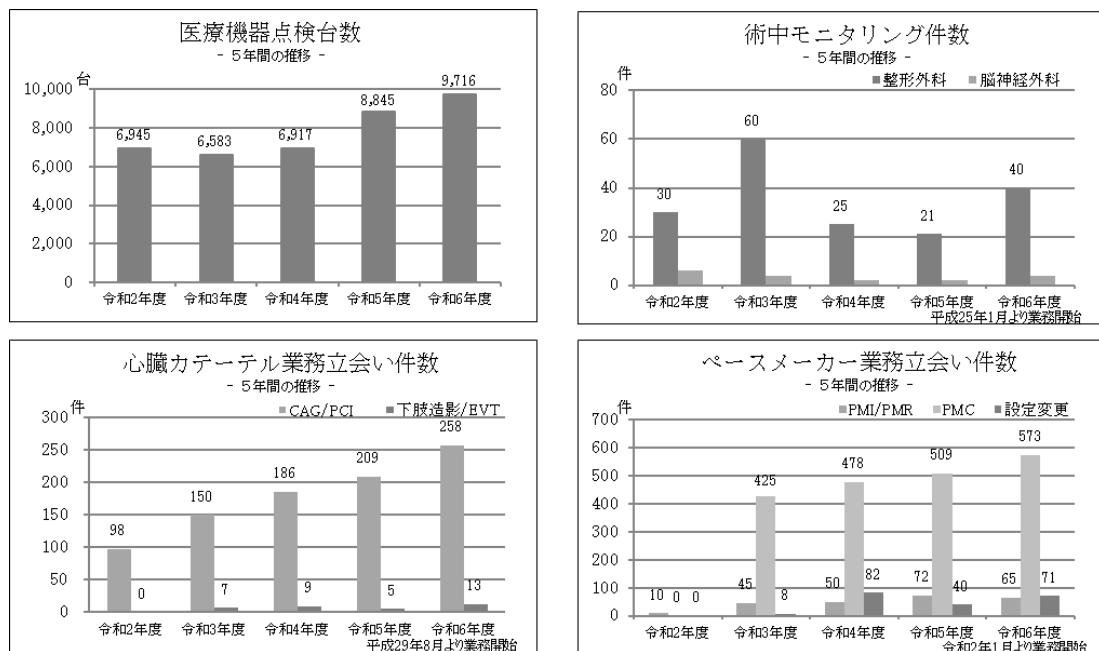
(1) 医療機器管理部門

令和6年度 医療機器運用状況

臨床工学科管理機器台数 671台

機器名	貸出	点検	点検内訳				故障修理*
			始業	動作中	巡回	定期	
輸液ポンプ	3,144	3,005	2,594			411	3
シリンジポンプ	1,807	1,699	1,406			293	3
人工呼吸器	250	944	316	605	10	13	12
間歇式空気圧迫装置	1,306	1,232	1,075			157	34
低圧持続吸引器	119	108	85			23	5
除細動器・AED	54	314	2		260	52	11
閉鎖式保育器		14	1			13	9
離床センサ	1,520	1,378	1,378				37
超音波ネプライザ	88	82	43			39	6
超音波画像診断装置	548	489	489				1
生体情報モニタ	11	161	4		157		92
送信機							10
神経機能検査装置	44	45	44			1	2
筋電図誘発電位検査装置	60	58	57			1	
IVスタンド	189						
紫外線照射ロボット	249	98	98				4
IABP		57	20	12	19	6	
補助循環装置		12	1		10	1	
その他(CPRドール等)		20	20				8
合 計	9,389	9,716	7,633	617	456	1,010	237

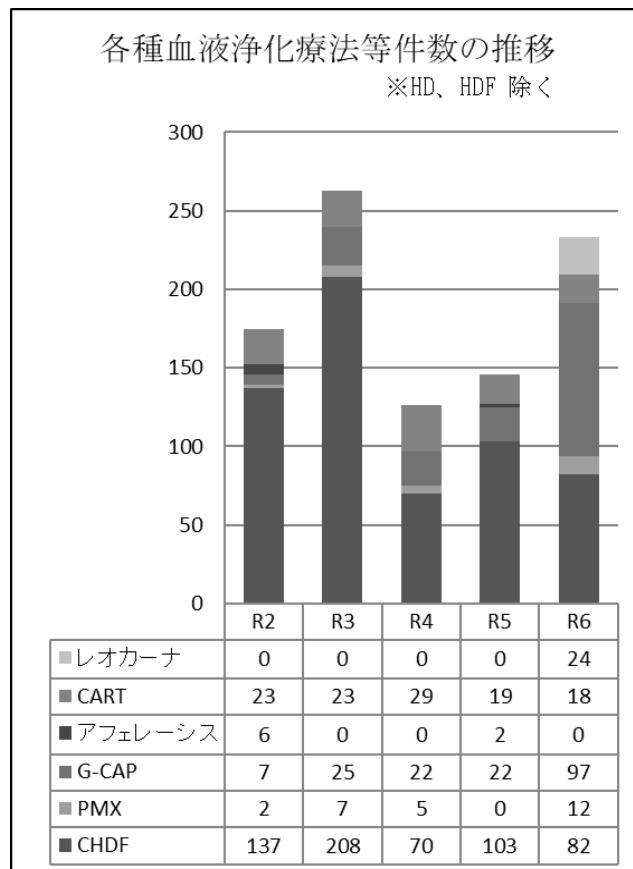
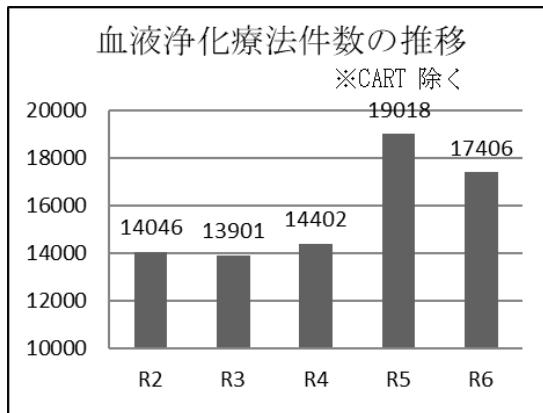
*故障修理内訳 内部修理:195台 外部修理:42台



- ・医療機器安全推進月間（6月）、医療機器トレーニングラボ全5回開催
- ・院内研修会および各種勉強会講師72件、臨床工学技士対象勉強会8件

(2) 血液浄化業務

令和6年度 血液浄化部門管理機器		
管理機器	機種数	台数
多人数用透析液供給装置	1	1
逆浸透精製水システム	1	1
A粉末自動溶解装置	1	1
B粉末自動溶解装置	1	1
透析用監視装置	4	33
多機能血液浄化装置	1	4
計	9	41



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

令和6年度は、血液浄化部門2名、医療機器管理部門4名、計6名の体制で専門性を活かした継続性のある業務を遂行してきた。休日夜間体制については、医療機器管理部門においてPCI等の心臓カテーテル業務を待機制とし、更に院内医療機器の緊急呼び出し対応を4名体制で担っている。血液浄化部門では、血液浄化業務全般を緊急呼び出し体制とし2名で対応している。何れも24時間365日、切れ目のない対応が必要である。

医療機器管理部門での業務は、機器の保守管理、取り扱いやトラブルへの対応、機器購入サポート、整形・脳外での術中モニタリング、ペースメーカー業務全般、循環器分野でのPCI等の心臓カテーテル業務に対応し、特に循環器系業務は年々増加している状況である。

血液浄化部門での業務は、月から土曜日まで連日の2クール体制を看護部の協力を得ながら複雑なシフト調整により対応することができている。他にも、救急、時間外や各科病棟での各種血液浄化療法に対応している。

また、新型コロナウイルス等の感染症対応については紫外線照射装置の運用を続け、人工透析室では延べ27名の新型コロナ感染患者と7名の濃厚接触患者、その他9名のインフルエンザにも対応しており、何れも透析室内での感染拡大を防ぐことができている。

医療安全では、MEサポートチーム活動、ME機器トレーニングラボの開催、院内研修会や出張勉強会などを積極的に行い、各現場での医療機器安全運用に寄与している。

その他、スタッフ6名で15の委員会、8つの各種プロジェクトチームに在籍しており、更に活動の場を拡大しチーム医療の一端を担っている。

(2)今後の課題

医療機器管理部門については4名体制で運用してきたが、病院規模や機能、待機体制等の業務量から考えても十分なスタッフ数とは言えず、将来を見据えた早急且つ大幅な増員計画が必須と考える。このような中、年度末に1名の退職者が出了ことで2月中旬から3名体制となり、早急な人員確保が必要となった。また以前からの増員目的の募集は、未だ応募が無い状況が続いている、欠員分について何らかの業務調整や応援体制が急務となった。

血液浄化部門については、人口減や医師不足による近隣透析施設の縮小や廃止が懸念されている。また大規模災害や新興感染症などに対し、引き続き広域での連携や有事に対応するシステム構築が課題となる。

病院経営面では、コロナ後から続く全国的な公立病院の経営悪化は当院も例外なく及んでおり、円安や物価高、人件費の上昇など経費の掛かり増しが更なる追い打ちをかけている。収益増加やコスト削減が急務となる中、医療機器更新及び老朽化機器の運用においても限られた予算で安心安全の医療を提供していかなければならない。

このような厳しい状況下で業務を遂行していくには、スタッフ個々の能力と専門性の向上、また多職種との連携が重要となる。また業務量や成果を可視化することで職場が評価され、達成感や充実感を得ることも必要であると考える。これらの多くの課題に対し、現状を把握し優先順位を熟慮しながら職務を遂行していく。

3. 学会発表等

(1)学会発表

項目	内 容
① 年月日	令和6年5月12日(日)
② 学会名	秋田県CEセミナー～タスクシフトとIT連携～
③ 開催地	秋田市 秋田県立循環器・脳脊髄センター 講堂
④ 演 題	輸液ポンプTE-281 ～新機種の導入と栄養ポンプとしての使用報告～
⑤ 発表者	菅原 明日香

項目	内 容
① 年月日	令和6年10月31日(木)から令和6年11月1日(金)まで
② 学会名	第62回全国自治体病院学会
③ 開催地	新潟県新潟市 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
④ 演 題	薬剤投与と経腸栄養を同一機種の輸液ポンプで行うことの有用性評価
⑤ 発表者	菅原 明日香

9. 医療安全推進室

1. 臨床統計

(1) 平成27年度から令和6年度 インシデントレポート提出件数

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
件数	1,119	1,471	1,789	1,886	1,898	1,943	2,016	2,203	2,108	2,100

(2) 令和6年度 インシデントレポート分類別報告数(総報告数2,100件)

分類		報告数	分類	報告数
薬剤	処方・与薬	301	ドレーンチューブ	143
	調剤・製剤管理	80	検体検査	343
	輸血	9	生理検査	8
	手術	56	画像検査	113
	麻酔	12	内視鏡検査	10
	分娩・人工妊娠中絶	2	機能検査	11
	その他の治療	126	転倒・転落	257
	一般処置・チューブ類の挿入	44	療養上の世話・療養生活の場面	206
	救急処置	35	給食・栄養(介助者がいるもの)	56
	医療機器等	120	その他	168
			合計	2,100

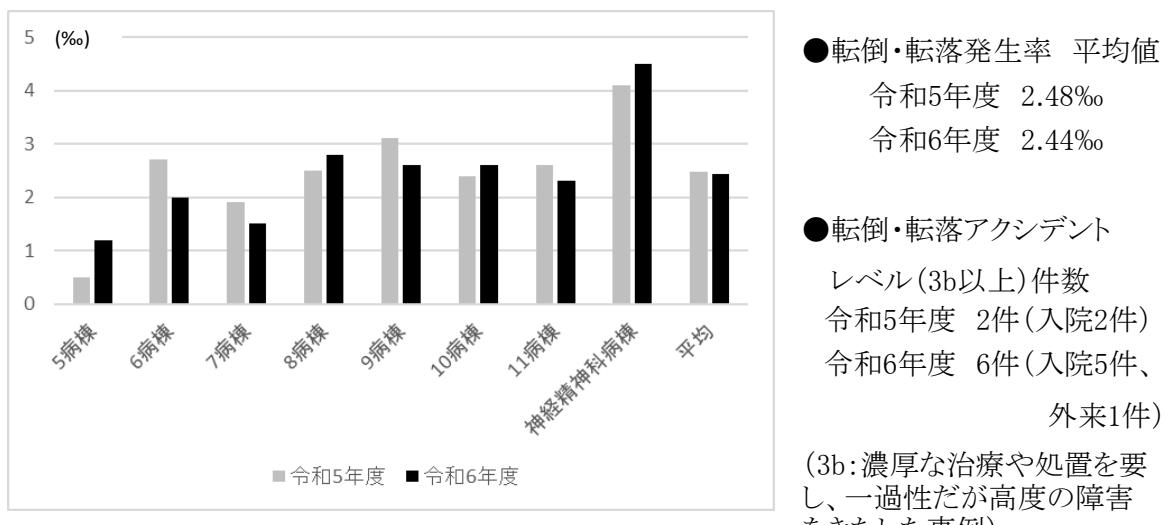
(3) 令和6年度 インシデントレポート職種別報告数(総報告数2,100件)

職種	報告数	職種	報告数
医師	96	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	47
研修医	179	臨床心理士	0
看護師・准看護師	1,376	視能訓練士	3
薬剤師	57	臨床工学技士	46
臨床検査技師	198	歯科衛生士	0
臨床放射線技師	59	事務職員	11
栄養士	28		
		計	2,100

(4) 平成27年度から令和6年度 医師、研修医インシデントレポート提出件数

	医師	研修医	合計		医師	研修医	合計
平成27年度	33	18	51	令和2年度	93	119	212
平成28年度	63	48	111	令和3年度	119	177	296
平成29年度	30	56	86	令和4年度	133	169	302
平成30年度	42	72	114	令和5年度	152	165	317
令和元年度	73	25	98	令和6年度	96	179	275

(5) 令和5・6年度 入院患者転倒転落発生率



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

インシデントレポートの提出数は、令和3年度より2,000件を超えるようになってきている。また、1事例に対し複数の報告が増えてきており、要因分析、対策立案のうえでも、多角的な視点での取り組みにつながっている。転倒・転落事例においては、院内全体での転倒・転落発生率は令和5年度と大きな変化はないが、転倒転落によって骨折等のアクシデントレベルに至った事例は6件で、前年度より4件増加した。重大インシデントに関しては、関係部署と共同した対策を検討・実施し、PDCAシート活用による評価を行った。そのなかで、採血指示票を活用した採血検査の運用を行った一部署の取り組みから、全部署への取り組みにつながった事例もあった。

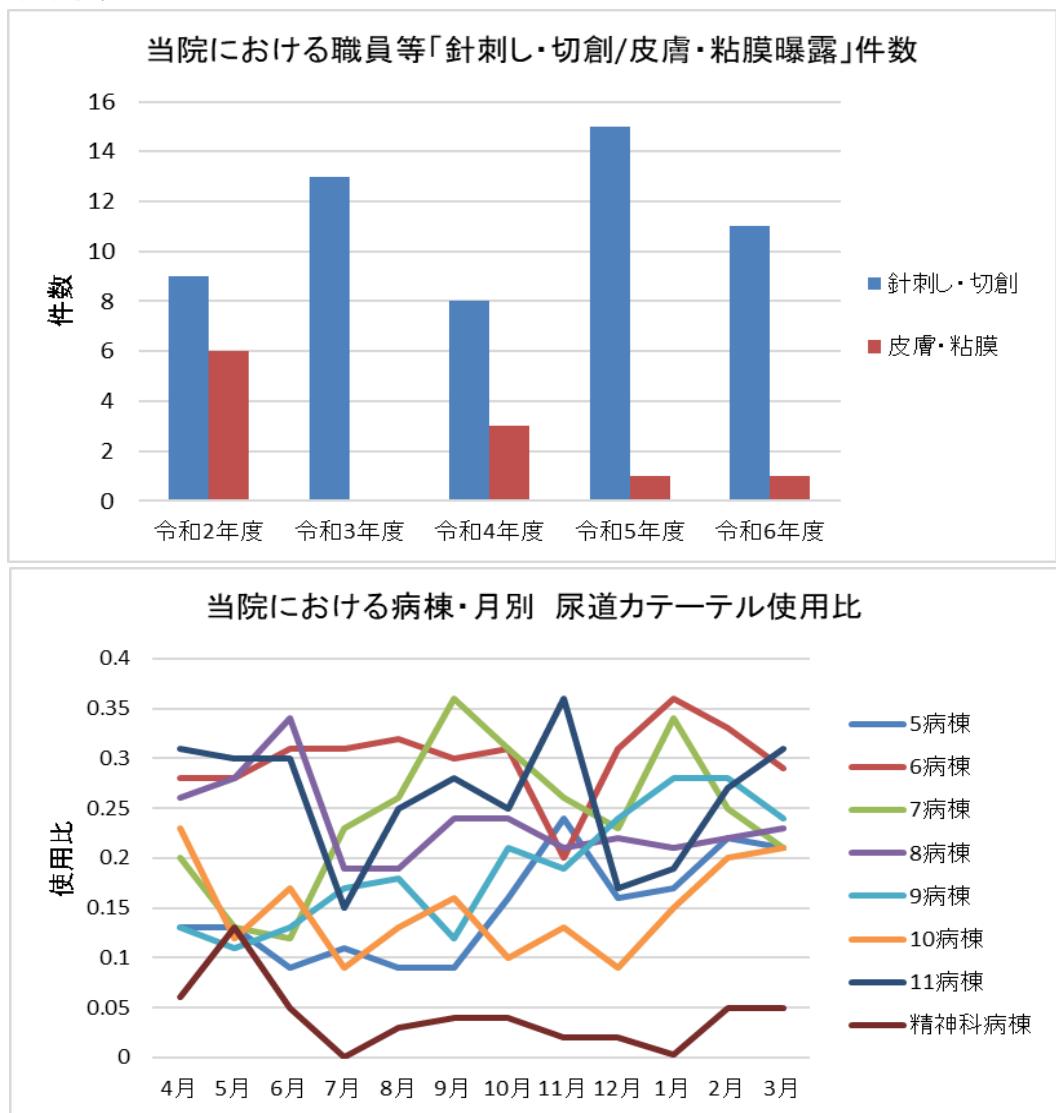
令和6年4月から多職種連携で2つの取り組みを開始した。1つ目は、入院中の静脈血栓塞栓症(VTE)発症予防を目的とした全入院患者のVTEリスク評価・予防対策を実施した。令和6年度の肺血栓塞栓症予防管理料は2,166件(令和5年度1,174件)算定され、職員・患者のVTE予防の意識が高まっている。2つ目は、リスクマネージャーによる医療安全ラウンドを毎月実施し、部署の5S活動が推進されるきっかけにもなった。

(2) 今後の課題

各部署におけるPDCAサイクルを回した医療安全活動取り組みを強化し、多職種連携による組織横断的な医療安全活動を推進させ、組織全体の安全文化の醸成を高めていく。

10. 感染制御室

1. 臨床統計



2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

従来の感染対策中心のICT活動と抗菌薬適正使用支援に関するAST活動の取り組みを行っています。

ICT活動においては、病棟や外来、コメディカル部門を含む各部署の週1回以上のラウンドを実施し、現場の感染管理の実施状況を把握しています。また耐性菌やカテーテル関連尿路感染、カテーテル関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎、手術部位感染等のサーベイランスを実施し分析・評価を行っています。その他、院内外からの感染対策等に関する相談、指導を行っています。

AST活動においては、感染症専門医、ICD(インフェクションコントロールドクター)、抗菌化学療法認定薬剤師、臨床検査技師、感染管理認定看護師を中心に抗菌薬長期投与患者や血液培養陽性患者等のカンファレンスを週1回以上行い、抗菌薬投与について検討し、感染症治療がいち早く完了できるよう主治医の支援を行っています。

また、地域における基幹病院として近隣の医療施設と連携をとり、感染対策に係るカンファレンスの開催や訓練、相互評価を行っています。

(2) 今後の課題

ICT活動とAST活動の共同と専門性をすすめ、感染対策並びに感染症診療を患者さんの療養に役立てたいと考えています。

また、職員の職業感染防止対策として流行性ウイルス疾患の抗体価検査およびワクチン接種をすすめ、医療従事者から患者さんへの罹患を防止し、併せて標準予防策の徹底を図りながら、院内感染の発生防止に取り組んでいきます。

地域の基幹病院としてカンファレンス等を行なながら、支援や指導的役割を担っていきます。

3. 学会発表等

(1) 講演・論文発表等

項目	内容
① 年月日	令和6年7月3日
② 講演会名	令和6年度 第2回感染対策向上加算合同カンファレンス
③ 演題	新型コロナウイルス感染症の地域フォーミュラリ導入について
④ 発表者	池島 進、中居 肇

項目	内容
① 年月日	令和7年1月10日
② 講演会名	令和6年度 第2回院内感染対策研修会
③ 演題	災害時の感染対策
④ 発表者	池島 進

11. 訪問看護ステーション

1. 臨床統計

令和6年度訪問看護実績

	R6.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7.1月	2月	3月	合計
利用者登録数	50	54	54	55	56	60	61	70	74	76	76	78	764
(医療)	6	6	6	6	8	8	9	10	10	12	13	12	106
(精神)	29	33	34	34	32	34	34	37	40	38	38	38	421
(介護)	15	15	14	15	18	18	18	23	24	26	25	28	239
利用者数	45	53	52	54	55	58	59	67	65	69	69	71	717
(医療)	6	6	6	6	8	8	9	9	9	11	11	10	99
(精神)	25	31	31	32	29	32	32	36	34	32	32	34	380
(介護)	14	16	15	16	18	18	18	22	22	26	26	27	238
大館	35	42	42	42	42	45	46	51	48	53	53	54	553
比内	5	5	5	5	7	7	7	7	7	7	7	7	76
田代	1	1	1	1	1	1	1	3	4	3	3	4	24
鹿角	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	31
小坂	1	2	2	3	2	2	2	3	4	4	4	4	33
訪問看護利用者件数	148	154	142	159	209	226	249	254	272	337	328	349	2,827
(医療)	42	42	38	36	88	98	106	100	115	154	150	151	1,120
(精神)	30	34	41	43	34	45	55	62	58	65	59	58	584
(介護)	76	78	63	80	87	83	88	92	99	118	119	140	1,123
保留(入院など)	0	1	0	1	0	0	4	6	2	2	3	2	21
中止	0	0	1	2	1	1	0	0	2	1	3	3	14
相談	2	3	5	3	3	5	9	3	6	6	2	7	54
新規利用者数	0	4	2	3	4	3	1	9	4	3	3	3	39

2. 診療に係る評価及び今後の課題

(1) 診療に係る評価(特徴、アピール点等)

令和6年度より開設し、利用者登録数50名からスタートした。1年で新規利用者数39名の増加で平均60名の利用であった。訪問看護師5名に対して、訪問車が4台のため病院公用車などを利用しながらのスケジュール調整で、初年度の目標年間訪問件数を2500件とし、実績は2827件と達成出来た。

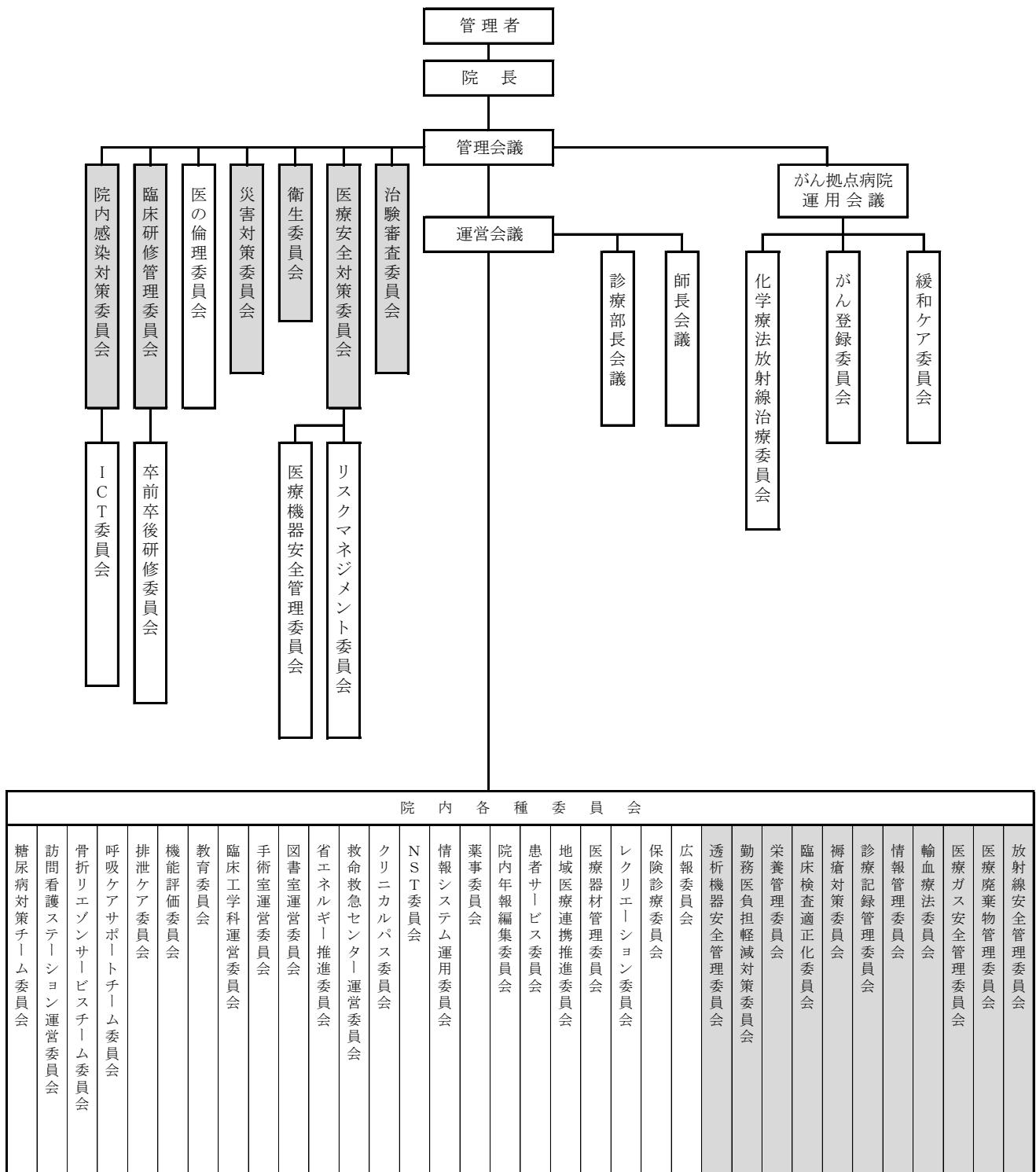
当院併設であるため外来受診日当日に訪問看護を希望された場合や、医師からの相談対応もスムーズに受けることが出来た。訪問看護の対象者は医師が必要と認めた方であり、土日祝日も含めた毎日の点滴や医療処置が必要な方に関しては4名の利用者へ対応が出来た。

(2) 今後の課題

高齢化・多死化と生産人口の減少がより顕著となる2040年をむけ、訪問看護は地域包括ケアシステムの中核的存在として医療と介護の両面から地域の人々の健康と暮らしになくてはならないものとなっている。当ステーションも利用者の増加に伴い新規受けの調整が必要となっている。外部の関係各所、事業所等との連携を図り受け入れを行っていく必要がある。また、PICC管理、ペーマネントカテーテル管理など、専門的な管理を必要とする利用者、医療ニーズの高い利用者も増加している。そのため専門性の高い人材の育成・確保や継続的に看護の質を高める取り組みが必要である。今後はリハビリでの介入や、診認定看護師等との協働も見据え、さらにはオンライン診療の推進も図り、24時間365日どこにいても利用者の求めるサービスが提供できるよう努めていく必要がある。

III. 各委員會等報告

令和6年度 大館市立総合病院 院内委員会等機構図



1. 医療安全対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

医療上の事故防止対策の推進及び事故防止の徹底を図る。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	テーマ(主なもの)
第1回	令和6年4月26日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「医療安全管理要綱」「医療安全設置要綱」「リスクマネジメント委員会設置要綱」の改定について・「特定生物由来製品使用に関する説明書と同意書」の改定について・令和5年度ハラスメントアンケート結果報告
第2回	令和6年5月24日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「医療安全管理要綱」「医療安全設置要綱」「リスクマネジメント委員会設置要綱」の改定について・電子カルテの休薬・中止薬指示について・令和6年度医療安全目標について・令和5年度地域連携病院相互評価結果について
第3回	令和6年6月28日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「医薬品に係るマニュアル等一覧」の改定について
第4回	令和6年7月26日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・「手術前に休薬・注意を要する医薬品・サプリメントの対応フロー」について・パニック値報告について
第5回	令和6年8月23日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・医療安全マニュアル・ガイドライン集の改定について・医薬品マニュアル「常備注射薬確認表(向精神薬)」の改定について
第6回	令和6年9月27日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・医療安全マニュアル・ガイドライン集の改定について・静脈内鎮静法を受けられる患者への説明・同意書について
第7回	令和6年10月25日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・ホリゾン注射液10mgの投与時における配合変化について
第8回	令和6年11月22日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・病院機能評価審査を受けて・医療安全管理要綱の改定について・説明と同意に関するマニュアル「未成年の定義」について
第9回	令和6年12月27日	<ul style="list-style-type: none">・今期の事故報道から・ボリファーマシー対策に関する業務手順書について

回	開催日	テーマ(主なもの)
第10回	令和7年1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の事故報道から ・ポリファーマシー対策に関する業務手順書について ・説明・同意書等の親族欄サインの表記について ・バッグバルブマスクの運用について
第11回	令和7年2月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の事故報道から ・転倒転落予防使用基準及び使用マニュアルの改定について ・透析患者のMRI造影検査について ・コンファームナウの製造中止に伴う在庫状況について
第12回	令和7年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の事故報道から ・身体的拘束に関するマニュアル・同意書(改定案)について ・「採血を受けられる方へ」のポスター(改定案)について ・令和6年度地域連携病院相互評価結果について

(3) マニュアル類の整備

- ・静脈血栓塞栓症予防対策マニュアル(令和6年4月改定)
- ・手術前に休薬・注意を要する医薬品・健康食品・サプリメント対応フロー(令和6年7月改定)
- ・医療安全管理要綱(令和6年9月改定)
- ・患者誤認防止マニュアル(令和6年10月改定)
- ・身体的拘束に関するマニュアル(令和6年10月改定)
- ・チューブトラブル回避マニュアル(令和6年10月改定)

(4) 医療安全通信発行

No.84 令和6年11月11日

2. 院内医療安全研修会

【全職員対象】

- 1) 「医療従事者が覚えておきたい怒りの感情コントロールスキル」
(令和6年11月22日集合研修、令和6年12月1日～12月31日eラーニング視聴)
- 2) 「自部署で取り組んだ医療安全と評価」
(令和7年2月1日～2月28日eラーニング視聴)

【その他の研修会】

- 1) 新入職者研修「インシデントレポートについて」(令和6年4月2日)
- 2) 医薬品の安全管理のための研修「医薬品を安全に使用するために」
(令和6年10月15日集合研修、令和6年10月24日～11月30日eラーニング視聴)

2. リスクマネジメント委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

ヒヤリハット事例報告(インシデントレポート)等を通じて、医療安全についての職員の啓発及び教育・指導を行うことで医療上の事故防止に資する。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内 容
第1回	令和6年4月17日	<ul style="list-style-type: none">・新リスクマネージャー紹介・令和5年度3月レポートの分析と表彰・令和5年度インシデントレポート集計報告・令和6年度リスクマネジメント委員会(年間計画)について・「コードブルー」「コードホワイト」発生時の院内放送の変更について・リスクマネージャー研修「インシデントレポート入力について」
第2回	令和6年5月15日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度4月レポート分析と表彰・最近のインシデントレポートから・令和6年度医療安全部署目標・ラウンドチーム目標・医療安全ラウンド結果報告・医療安全リスクマネージャー研修 「インシデントレポートの入力について」
第3回	令和6年6月19日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度5月レポートの分析と表彰・最近のインシデントレポートから・医療安全ラウンド結果報告・改善報告・災害対策チームの設置について
第4回	令和6年7月17日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度6月レポートの分析と表彰・最近のインシデントレポートから・医療安全ラウンド改善報告・リスクマネージャー研修「KYT:転倒転落①」
第5回	令和6年8月21日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度7月レポートの分析と表彰・最近のインシデントレポートから・医療安全ラウンド改善報告・リスクマネージャー研修「医療安全管理要綱について」「KYT:転倒転落②」・採血指示票(シール)の活用について
第6回	令和6年9月18日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度8月レポートの分析と表彰・最近のインシデントレポートから・医療安全ラウンド改善報告・リスクマネージャー研修「医療安全管理要綱について」「KYT:転倒転落③」・インシデント報告より改善された事例「ロータリーの逆走への対策」

回	開催日	内 容
第7回	令和6年10月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度9月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートから ・医療安全ラウンド改善報告 ・リスクマネージャー研修「医療安全管理要綱について」 ・ワーキンググループ中間評価
第8回	令和6年11月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度10月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートから ・医療安全ラウンド改善報告 ・医療事故報道「アラーム放置」の事例報告
第9回	令和6年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度11月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートから ・医療安全ラウンド改善報告
第10回	令和7年1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度12月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートから ・医療安全ラウンド改善報告
第11回	令和7年2月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度1月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートから ・医療安全ラウンド改善報告 ・PDCAシート活用による部署の取り組み(11病棟)
第12回	令和7年3月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度2月レポートの分析と表彰 ・最近のインシデントレポートから ・医療安全ラウンド改善報告 ・令和6年度医療安全目標評価(部署、ワーキングチーム)

2. 表彰事業

(1) インシデントレポート月間賞

4月 — 6病棟	10月 — 10病棟
5月 — 臨床工学科	11月 — 10病棟
6月 — 患者サポートセンター	12月 — 6病棟、臨床工学科
7月 — 臨床工学科、眼科（視能訓練士）	1月 — 臨床研修センター
8月 — 臨床工学科、眼科（視能訓練士）	2月 — 臨床研修センター
9月 — 9病棟	3月 — 臨床研修センター

2) 特別功労賞(インシデントレポート提出数年間最多)

臨床研修センター(179件、部署提出比率:67.8%)

3. 医療機器安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内の医療機器の安全管理を図り、患者の安全を確保するために、必要な対応を図る。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年5月15日	・新委員の任命について ・ME機器運用状況 ・委員会要綱確認 ・紫外線照射装置の不具合について
2	令和6年6月19日	・ME機器運用状況 ・人工呼吸器の販売終了及びサポート終了について
3	令和6年7月17日	・ME機器運用状況 ・各種メーカーサポート終了機器について
4	令和6年9月18日	・ME機器運用状況 ・機器故障の原因について ・作業停電の準備について ・今年度納品機器報告
5	令和6年10月16日	・ME機器運用状況 ・超音波画像診断装置更新について ・各部署作業停電対応報告 ・機器購入窓口について
6	令和6年11月20日	・ME機器運用状況 ・各科病院機能評価受審報告 ・フットポンプ不足に対するレンタル機造設報告
7	令和7年1月15日	・各科ME機器運用状況 ・各科機器保守件数報告開始
8	令和7年2月19日	・各科ME機器運用状況 ・ECMOのシステムエラー対応について ・手術用ポータブル撮影機エラーで撮影できず対応中 ・各科血ガス測定器（4台）の検査科管理開始について
9	令和7年3月19日	・各科ME機器運用状況 ・神経機能検査装置の刺激ボックスコード断線（機器で踏む）

(3) 活動要約

- ・各種ME機器の不具合について検証を行った。
- ・不足していたフットポンプをレンタルで造設した。
- ・メーカーサポート終了機器等、老朽化機器の対応について協議した。
- ・機器管理部門、血液浄化部門、臨床検査科、診療放射線科、各部門より保守件数報告を開始した。
- ・各科の血ガス測定器（4台）について検査科での一括管理を開始した。

4. 院内感染対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年4月5日	<p>①報告事項 ICT委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(8病棟) <p>②案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染マニュアル「VII. アウトブレイクへの対応」の改訂について
2	令和6年5月7日	<p>①報告事項 ICT委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(9病棟) <p>②案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗MRSA薬使用プロトコルの運用方法変更について ・院内感染対策マニュアル「I. 標準予防策 Standard Precautions」「XIV. 抗菌薬の使用指針」の改訂について
3	令和6年6月3日	<p>①報告事項 ICT委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(10病棟) <p>②案件 なし</p>
4	令和6年7月1日	<p>①報告事項 ICT委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(11病棟) <p>②案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症患者の食器の取り扱いについて ・院内感染対策マニュアル「XIV. 抗菌薬の使用指針」の改訂について
5	令和6年8月5日	<p>①報告事項 ICT委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(神経精神科病棟) <p>②案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策マニュアル「XI. サーベイランス」の改訂について
6	令和6年9月2日	<p>①報告事項 ICT委員会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(人工透析室) <p>②案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策マニュアル「院内感染対策指針・組織図」の改訂について

回	開催日	内 容
7	令和6年10月7日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(手術室) ②案件 ・院内感染対策マニュアル「XII 検体採取の方法」の改訂 について
8	令和6年11月5日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(5病棟) ②案件 ・再利用をしている単回使用医療機器について ・「大館市立総合病院感染症流行時における業務継続計画」の策定について
9	令和6年12月2日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(6病棟) ②案件 なし
10	令和7年1月6日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(7病棟) ②案件 なし
11	令和7年2月3日	①報告事項 ICT委員会から ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(8病棟) ②案件 なし
12	令和7年3月3日	①報告事項 ICT委員会から ・臨床検査科から(MRSA月報等) ・薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) ・ICNから(新型コロナウイルス感染症について等) ・ラウンド結果について(9病棟) ②案件 なし

(2)活動要約

- ・ 委員会を定期的に開催し、ICT委員から、臨床検体から分離されたMRSAの検出状況や抗菌薬の使用届出状況等の報告を受け、増減を監視した。
- ・ 感染対策加算病院1の弘前大学医学部附属病院と相互ラウンドを行い、感染対策の取組みについて情報交換を図るとともに、他の連携病院ともカンファレンスを行なった。
- ・ 各種耐性菌や主要な菌のサーベイランスを行い、発生状況の監視を行なった。
- ・ ICTメンバーによる定期的な院内ラウンドの結果により、指摘事項や改善点を確認し、感染拡大防止に努めた。

5. ICT委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年4月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(9病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(2024年度予算での要求図書等) ・検討事項 抗MRSA薬使用プロトコルの運用方法の変更について
2	令和6年5月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(10病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(2024度感染対策向上加算合同カンファレンス等)
3	令和6年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(11病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(2024年度ICT合同カンファレンス等)
4	令和6年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(神経精神科病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(2024年度第1回院内感染対策研修会について等) ・検討事項 ICT委員会要綱について
5	令和6年8月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(人工透析室) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(感染対策向上加算の合同カンファレンスについて等) ・検討事項 感染対策の組織図改訂について 院内感染対策指針の改訂について ICT委員会設置要綱の改訂について
6	令和6年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(手術室) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(院内感染対策研修会について等) ・検討事項 院内感染対策マニュアルの改訂について
7	令和6年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(5病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(院内感染対策研修会実施報告等) ・検討事項 なし

回	開催日	内 容
8	令和6年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(6病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(弘前大学との相互ラウンドについて等) ・検討事項 第2回院内感染対策研修会について 2025年度の予算要求
9	令和6年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(7病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(機能評価での指摘事項について等) ・案件 J-SIPHE「秋田県感染対策グループ」への加入について 来年度の合同カンファレンスについて OASCISの活用について
10	令和7年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(8病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(弘前大学との連携相互ラウンド実施報告について等) ・検討事項 なし
11	令和7年2月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(9病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(第2回院内感染対策委員会実施報告等) ・検討事項 なし
12	令和7年3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・院内ラウンド(10病棟) ・報告 薬剤科から(指定抗菌薬使用届提出状況) 臨床検査科から(MRSA月報等) ICNから(2025年度の委員会スケジュールについて等) ・検討事項 なし

(2) 活動要約

- ・ 院内の感染制御を目的として、毎月定例の委員会を開催するとともにICT委員会の前にラウンドを行った。
- ・ MRSAの検出状況や指定抗菌薬使用届提出状況、耐性菌サーベイランスの報告を受け、主要な菌の発生抑制に努めた。
- ・ 感染対策連携病院との相互ラウンドと周辺の病院との合同カンファレンスを行い、委員会活動や、感染防止についての情報交換を行った。
- ・ ICTの下部組織としてASTを設置、平成29年度より活動を開始した。

6. 臨床研修管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ① 研修プログラムに係る基本方針の決定及び作成に関すること。
- ② 研修プログラムの実施に係る総合的な調整に関すること。
- ③ 研修医の管理に関すること。
- ④ 研修の評価に関すること。
- ⑤ 研修医の採用・中断・修了の際の評価に関すること。
- ⑥ その他臨床研修及び研修医の重要事項に関すること。

(2) 委員会活動記録等

月 日	内 容	場 所
令和6年4月27日	青森県医師臨床研修病院合同説明会	弘前大学
令和6年5月30日	秋田県臨床研修協議会第1回定例会	オンライン
令和6年6月1日	臨床研修医マッチング願書受付開始	
令和6年6月6日	医療裁判傍聴	東京地方裁判所
令和6年6月16日	レジ'ナビ'フェア東京	東京ビッグサイト
令和6年10月24日	令和6年度臨床研修マッチング結果発表	
令和6年11月8日	第1回臨床研修管理委員会	当院
令和6年11月15日	第2回秋田県臨床研修協議会	オンライン
令和6年11月29日	レジデントスキルアップキャンプ	ホテルサンルーラル大潟
令和7年1月30日	第2回臨床研修管理委員会	当院
令和7年1月31日	プロフェッショナリズム研修会	当院
令和7年2月7日	秋田県合同病院説明会	秋田大学医学部
令和7年3月17日	第3回臨床研修管理委員会	当院
令和7年3月19日	臨床研修医修了証書交付式	当院
令和7年3月27日	第3回秋田県臨床研修協議会	オンライン

(3) 令和6年度臨床研修医の研修状況

- ・大館市立総合病院プログラム10 9名（弘前大学9名）
- ・大館市立総合病院プログラム11 9名（弘前大学9名）

(4) 委員会開催記録等

月 日	回数	主な検討内容
令和6年11月8日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・大館市立総合病院臨床研修規程改正 ・プログラム責任者、副プログラム責任者、卒後臨床研修指導医及び指導者の任命 ・臨床研修医の事業予定及び研修状況、担当する委員会 ・令和7年度開始臨床研修医のマッチング結果及び仮契約 ・研修医の研修状況、進捗状況について ・インシデントレポートの提出状況について ・研修評価結果について ・研修医との面談について
令和7年1月31日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度研修開始 臨床研修医募集要項について ・病院見学、卒前研修・実習受け入れ状況について ・他医療機関の研修医受け入れ状況について ・令和7年度開始臨床研修医のマッチング結果について ・卒後臨床研修評価機構受審について
令和7年3月17日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の初期臨床研修医(大館市立総合病院卒後臨床研修プログラム⑫)の採用予定について ・地域医療重点 臨床研修プログラム2の休止状況(口頭報告) ・令和7年度事業計画:研修医ロードマップ等について ・臨床研修医(プログラム10)の研修修了について ・ベスト研修医賞について

7. 卒前卒後研修委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ① 卒前研修に関する事項
- ② 卒後初期研修に関する事項
- ③ 卒後後期研修に関する事項
- ④ その他必要と認められる事項

(2) 委員会開催記録等

月 日	回数	主な検討内容
令和6年9月20日	第1回	<ul style="list-style-type: none">・プログラム責任者、副プログラム責任者、卒後臨床研修指導医及び指導者の任命・令和6年度事業予定等について・令和6年度臨床研修医の研修スケジュールについて・研修医の院内委員会割り当てについて・令和7年度開始臨床研修医の採用面接の状況について・研修進捗状況について・研修評価結果について・インシデントレポートの提出状況について・研修医との面談について・診療看護師の研修状況について
令和6年12月23日	第2回	<ul style="list-style-type: none">・令和8年度研修開始 臨床研修医募集要項について・病院見学、卒前研修・実習受け入れ状況・他医療機関の研修医受入れ状況について・診療看護師の研修状況について・令和7年度開始臨床研修医のマッチング結果について
令和7年3月13日	第3回	<ul style="list-style-type: none">・卒前研修の受け入れ予定について・令和7年度事業計画について・研修ローテート(案)について・令和7年度臨床研修医オリエンテーション(案)について・臨床研修医研修修了の評価について・ベスト研修医賞の選出について・診療看護師(NP)研修修了の評価について

(3) 主な活動内容等

- ① 研修医募集のための取り組みについて
 - ・臨床研修パンフレットのリニューアル
 - ・単独病院説明会の実施
 - ・卒前研修受け入れ態勢の整備
- ② 病院実習の受け入れについて
 - ・受け入れ科及び受け入れ部門の確認、受け入れ可能人員の調整

8. 医の倫理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 目的

医の倫理委員会は、大館市立総合病院における医の倫理に関する事項を「ジュネーブ宣言」、「ヘルシンキ宣言」および「リスボン宣言」等の趣旨に沿って、審議・方針決定することを目的とする。また、この目的に基づき、次の任務を行う。

- ①医の倫理のあり方についての必要事項を調査、審議し、方針を決定する。
- ②臨床応用または臨床研究の実施責任者から申請された実施計画の内容及びその成果の公表に関して審議し、意見を述べ、指針を与える。

(2) 活動内容

○委員会

回	開催日	内 容
1	令和6年5月16日	審議案件(条件付き承認) ①閉塞性左側大腸癌に対するSEMSまたはストーマによる減圧後術前化学療法および手術の安全性・有効性に関する第Ⅱ相試験 ②局所進行直腸癌に対する個別化治療の有効性に関する第Ⅱ相試験 ③下部直腸癌に対する化学放射線療法後強化化学療法の有効性に関する第Ⅱ相試験
2	令和6年7月18日	審議案件 ①日本整形外科学会レジストリー(JOANR)構築に関する研究(承認) ②糖尿病合併高血圧患者に対するサクピトリルバルサルタンの使用経験(承認) ③統合失調症患者が抱いている退院に対しての思い(修正のうえ承認) 報告事項 専決処分した案件について 3件
3	令和6年10月11日	審議案件 ・弘前大学関連施設の骨粗鬆症骨折および関連疾患の予防と治療における多施設共同研究(承認) ・医の倫理委員会設置要綱の改正について(承認) 報告事項 専決処分した案件について 1件 臨床倫理に係る案件について 2件
4	令和7年3月21日	確認事項 要綱の運用について 報告事項 専決処分した案件について 9件 臨床倫理に係る案件について 連絡事項 令和7年度開催予定について

○委員長の専決とし承認した案件

	指針日	内 容
1	令和6年6月5日	リハビリテーションが深い褥瘡に与える影響
2	令和6年6月5日	環軸椎回旋位固定に対するリハビリテーションの経験
3	令和6年6月5日	当院における介護施設にて受傷した大腿骨近位部骨折患者への経年変化
4	令和6年8月16日	当院におけるCA125 elimination rate constant k(KELIM)scoreの検討
5	令和6年11月25日	秋田県におけるクマ外傷の状況
6	令和6年12月5日	当院の透析予防指導管理料と高度腎機能障害患者指導加算の算定状況について
7	令和6年12月5日	糖尿病性腎症合併2型糖尿病患者に対するフィネレノンの使用経験
8	令和6年12月23日	デュシェンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究(Remudy-DMD)
9	令和7年1月10日	泌尿器科癌に対する治療介入と効果についての多施設共同後ろ向き研究について
10	令和7年1月10日	急性腎盂腎炎の分離菌と薬剤感受性に関する多施設共同後方視的観察研究
11	令和7年1月10日	泌尿器科癌に対する治療介入と効果についての多施設共同後ろ向き研究について
12	令和7年1月16日	Nivolumab投与終了から2か月後に発症したirAE腸炎の鑑別に薬剤師が関与した一例
13	令和7年3月11日	一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業

(3)活動要約

- ・委員会設置要綱を見直し、臨床倫理に関する条文を追加するとともに、臨床研究において軽微な変更や侵襲を伴わないものは迅速に対応するため、専決処分を可能とした。
- ・臨床研究申請20件のうち7件について委員会の開催による審議を行った。
- ・医の倫理マニュアル「身寄りが無くかつ判断能力が無い成人患者」に該当した案件の報告を行った。

9. 災害対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

災害予防対策その他の施策を審議する。

(2) 活動内容

消防法で義務付けられている年2回の消防訓練のほかに5年ぶりにトリアージ訓練を実施した。また、サイバー攻撃対策の内容を追記し事業継続計画(BCP)の改訂及び感染症流行時におけるBCPの策定、組織改編に伴う防災マニュアルの改訂を行った。

また、災害対策委員会の下部組織として、災害対策チームを立ち上げ、訓練の実施やBCP、マニュアルの改訂について今後はチームで検討する方針とした。

(3) 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	令和6年11月7日	・事業継続計画(BCP)の改定及び感染性BCPの策定 ・防災マニュアルの改訂 ・災害対策チームの設置報告

(4) 消防訓練等記録

実施回数	実施日	訓練内容
第1回	令和6年6月25日	消防避難訓練(7病棟)
第2回	令和6年12月13日	消防避難訓練(11病棟)
その他	令和6年8月30日	初動訓練・トリアージ訓練

10. 衛生委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

職員の健康障害の防止及び健康の保持増進を図るため、基本となるべき対策や公務災害の原因の調査及び再発防止対策で衛生に係るものについて、調査・審議を行う。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年4月22日	・令和6年度衛生委員会委員について ・各種健康診断等の日程について ・職員の被ばく線量について ・令和6年度職場巡視予定について ・職員の時間外勤務時間について
2	令和6年5月27日	・ラウンド(薬剤科) ・職員胃検診の実施について ・胃検診及び前期職員健診の詳細について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
3	令和6年6月24日	・ラウンド(呼吸器・循環器内外科外来、共通処置室、内分泌・代謝・神経内科外来) ・喫煙率調査の実施について ・ストレスチェックの実施について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
4	令和6年7月22日	・ラウンド(9病棟) ・T-SPOT検査・抗体価検査の結果報告 ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について ・病院機能評価について(衛生委員会関連事項の説明)
5	令和6年8月26日	・ラウンド(レントゲン室) ・ストレスチェックの実施について ・生活習慣病予防の啓発活動について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
6	令和6年9月30日	・ラウンド(整形外科・リハビリテーション科) ・電離放射線健診の監督署指導について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について ・作業環境測定結果(ホルマリン、EOガス)
7	令和6年10月28日	・インフルエンザワクチン接種の日程等について ・後期職員健診の概要 ・ストレスチェック経過報告 ・労働安全法令の改正について ・職員の被ばく線量について ・職員の時間外勤務状況について
8	令和6年11月25日	・ラウンド(第6病棟) ・インフルエンザ予防接種(報告) ・後期職員健診の詳細 ・新規採用等のT-SPOT検査の実施 ・職員の被ばく線量について ・職員の時間外勤務時間について ・B型肝炎ワクチンの接種について
9	令和6年12月23日	・ラウンド(外科、皮膚科、小児科) ・メンタルヘルス研修の実施予定 ・新型コロナワクチン接種の状況 ・職員の被ばく線量について ・職員の時間外勤務時間について
10	令和7年1月27日	・ラウンド(神経精神科病棟) ・後期職員健診の実施状況について ・T-SPOT検査と抗体価検査結果 ・メンタルヘルス研修の資料について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について
11	令和7年2月17日	・ラウンド(職員用浴室) ・生活習慣病月間の周知について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について ・生活習慣病予防月間について
12	令和7年3月24日	・ラウンド(消血腫内科、ケモ室、放射線科) ・令和7年度職員健診、職場巡視の日程について ・令和7年度の委員について ・職員の時間外勤務時間について ・職員の被ばく線量について

(3) 活動要約

- ・職員健診年間スケジュールに基づき、職員健診を実施した。
- ・職場巡視の実施により要改善点等を所属長へ報告し、改善を促した。
- ・院内業務従事者向けに880人に対してインフルエンザ予防接種を行った。また、新型コロナ感染症の流行状況により、希望者へワクチン接種を行った。

11. 放射線安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

放射線障害の防止について、必要な事項を企画審議する。

(2) 委員会設置の意義

放射線治療で使用される高エネルギー放射線発生装置は、医療法とは別に放射線障害防止法(原子力規制委員会)の規制を受けています。この放射線障害防止法の中に「放射線安全管理委員会」の設置が義務づけられています。当院では名称を「放射線安全管理委員会」としております。また、当院では放射線治療の作業だけでなく、院内のすべての放射線作業に従事する職員の安全を確保する目的で放射線安全管理委員会を開催しています。

地域がん診療連携拠点病院の指定要件に「第三者機関による出力線量測定を行うなど、放射線治療の品質管理を行うこと。」とあり、そのなかに「放射線治療品質管理委員会の設置」が求められています。そこで当放射線安全管理委員会がこの放射線治療品質管理委員会も兼務しております。

(3) 令和6年度個人被ばく線量報告 及び 法令対応

実効線量	男	女	計
5mSv以下	61	82	143
5<、≤20mSv	2	0	2
20<、≤50mSv	0	0	0
50mSv超える	0	0	0

水晶体線量	男	女	計
5mSv以下	55	80	135
5<、≤20mSv	8	2	10
20<、≤50mSv	0	0	0
50mSv超える	0	0	0

皮ふ線量	男	女	計
150mSv以下	62	82	144
150<、≤500mSv	1	0	1
500mSv超える	0	0	0

法令対応

令和 6年 5月 12日 令和5年度放射線管理状況報告書を原子力規制委員会へ届出

(4) 委員会記録

回数	開催日	主な検討内容
第1回	令和6年6月4日	1.令和6年度放射線安全管理委員会名簿について 2.令和6年度放射線発生装置の取り扱いに従事する者並びに安全管理に従事する者の名簿 3.令和5年度職員被ばく線量調査及び被ばく線量警告件数について 4.令和5年度プロテクター管理報告について
第2回	令和7年3月4日	1.令和6年PCI、診断カテーテル検査(心臓)の皮膚観察報告 2.診療用放射線の安全利用の研修会について 3.当院診療用放射線の安全利用のための指針、一部改訂について 4.令和6年度放射線業務従事者及び放射線施設管理状況報告書

12. 医療廃棄物管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

当院から排出される廃棄物の適正管理に必要な事項を企画審議する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年7月9日	・20Lペール缶の変更について ・廃棄物管理マニュアルの改訂について
2	令和6年10月7日	・感染性廃棄物容器梱包時の部署名の記入及び記入理由の追記について

(3) 活動要約

委員会にて変更予定の20Lペール缶の容器の見本を用い、フタの閉め方やスタンドの取付方について説明した。また、20Lペール缶の仕様変更及び感染性廃棄物容器の梱包時の部署名の記入等に伴い、廃棄物管理マニュアルの改訂を実施した。

13. 医療ガス安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

医療ガス(診察・治療等に使用する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう。)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保すること。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	令和7年3月17日	・医療ガス保安講習会の報告(院内講習) ・医療ガス購入実績の報告 ・医療ガス機器点検報告

(3) 各種講習会

- ・院内医療ガス取扱い保安講習会(院内講習)
DVD閲覧による視聴講習 25名受講

14. 輸血療法委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

輸血療法や製剤管理運用の適正実施について検討することとする。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年4月17日	・血液製剤使用状況など
2	令和6年6月19日	・血液製剤使用状況など
3	令和6年9月18日	・血液製剤使用状況など
4	令和6年11月21日	・血液製剤使用状況など
5	令和7年1月22日	・血液製剤使用状況など
6	令和7年3月12日	・血液製剤使用状況など

(3) 活動要約

- ・輸血療法委員会は合計6回開催された。
- ・輸血内部監査部会は院内のラウンドを2回行い、輸血が適切に行われるよう指導につとめた。
- ・年間使用量はRBC 2480単位、FFP 222単位(120ml:1単位)、PC 4255単位、ALB 3113g であり、FFP/RBC比は0.08、ALB(g÷3)/RBC比は0.42であった。これは輸血適正使用加算(輸血管理料IIを算定する医療機関)の基準を満たしていた。

※適正仕様基準; FFP/RBC≤0.8、ALB(g÷3)/RBC≤2

(4) 血液製剤使用状況

	2024年											2025年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
照射赤血球液	203	210	189	155	217	172	266	232	222	222	180	212	2,480		
新鮮凍結血漿	20	38	44	28	20	16	22	10	4	6	6	8	222		
照射濃厚血小板	360	250	185	360	580	460	400	420	270	330	230	410	4,255		
アルブミン製剤(g)	300	325	388	338	225	350	88	313	238	250	188	113	3,116		

(単位)

15. 診療記録管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

診療情報管理業務の円滑な運営と個人情報保護の適切な管理を図るために、診療情報および診療録に関する管理と個人情報の管理に関する事項を検討する。

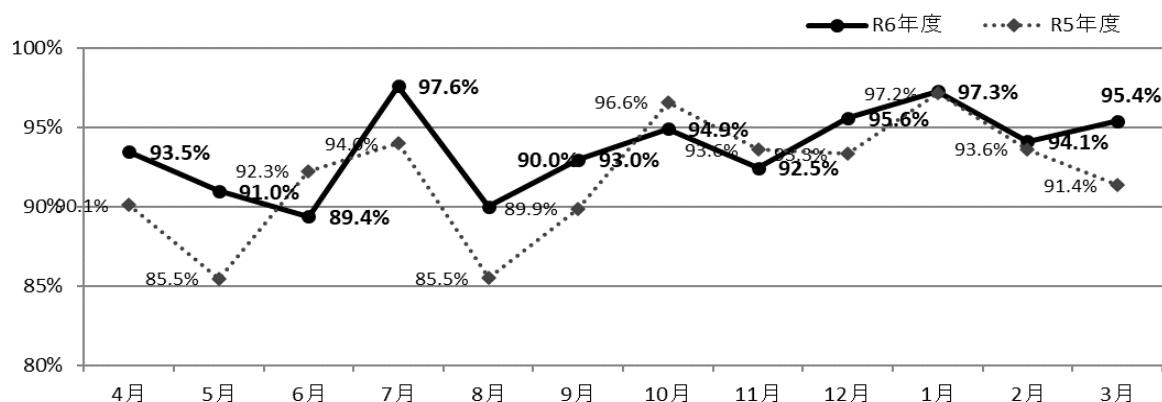
(2) 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	令和6年5月17日	・診療記録管理規定の改正について ・スキャンによる文書の電子化について ・R6年度診療録監査について
2	令和6年7月19日	・委員会要綱改正について ・診療記録管理規定の改正について ・診療録記載マニュアルの改正について
3	令和6年9月26日	・院内で使用する略語について ・診療録記載マニュアルについて ・カルテ編集機能について
4	令和6年11月18日	・未定年の定義について
5	令和7年1月17日	・R7年度診療録監査について
6	令和7年3月24日	・カルテ監査項目追加について ・多職種カンファレンスについて

(3) 活動要約

- ・退院時サマリー記載率報告
- ・診療録(質的・量的)監査結果報告
- ・診療記録記載マニュアル・診療記録管理規定の改正
- ・その他診療録等に関する事項の協議

(4) 退院後14日以内のサマリー記載率



16. 褥瘡対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

褥瘡対策に関する運営を適正に遂行する。

(2) 褥瘡対策委員会(定例委員会)

第1回委員会(4月19日) 第2回委員会(5月17日) 第3回委員会(6月21日)

第4回委員会(7月19日) 第5回委員会(8月16日) 第6回研修会(9月20日)

第7回委員会(10月18日) 第8回委員会(12月20日) 第9回委員会(1月17日)

第10回委員会(2月21日) 第11回委員会(3月21日)

(3) 褥瘡対策の体制整備

1. 褥瘡回診の実施

- ・毎週火曜日14時30分より褥瘡ハイリスク患者・褥瘡回診カンファレンスを開催。その後、15時より対象患者の褥瘡回診を行っている。
- ・褥瘡回診チームは、褥瘡対策の専任の医師・褥瘡管理者・専任看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、医師事務作業補助者、栄養サポートチームメンバーで構成する。
- ・褥瘡発生状況の把握、要因分析、対策を検討し現場へフィードバックしている。
- ・カンファレンスと褥瘡回診について記録する。
- ・D3以上の重度褥瘡発生について、病棟と褥瘡チームの合同カンファレンスを実施している。

【院内褥瘡発生数報告】	令和5年度	令和6年度
	(令和5年4月1日～令和6年3月31日)	(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
院内褥瘡発生数	114 件	114 件
院内褥瘡発生率	1.40%	1.33%

※院内褥瘡発生率 = 年間院内褥瘡発生数 / 年間実入院患者数

【MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)発生数報告】	令和5年度	令和6年度
	(令和5年4月1日～令和6年3月31日)	(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
MDRPU発生数	40 件	77 件
MDRPU発生率	0.49%	0.90%

※MDRPU発生率 = 年間MDRPU発生数 / 年間実入院患者数

2. 褥瘡対策研修会の実施

- ・ラダー I 研修(全3回)
- ・令和6年8月16日 褥瘡リンクナース1日研修
- ・令和6年9月20日 第1回褥瘡対策研修会 「MDRPUの予防と管理」
- ・ポジショニング研修 e-ラーニング配信
- ・褥瘡に関する院内出前研修

3. 体圧分散マットレスやポジショニング枕の積極的活用

患者の状態に応じて、褥瘡発生予防に重点を置いた褥瘡対策を実施している。

OHスケールを用いてリスクアセスメントし、対象に適した体圧分散寝具(ピュアレックス、ストレッチフィット、エバーフィットC3、エバープラウド、ラグーナ、オスカー、グランデ)やポジショニングピローを使用している。車椅子用クッション α プロも装備し、必要な患者に使用し予防に努めている。

4. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

褥瘡ハイリスク患者ケアとは、褥瘡予防・管理が難しく重点的な褥瘡ケアが必要な患者に対し、適切な褥瘡予防・治療のための予防治療計画に基づく総合的な褥瘡対策を行うことである。

【算定数報告】	令和5年度	令和6年度
	(令和5年4月1日～令和6年3月31日)	(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	1,170 件	1,245 件

(4) 地域貢献

- ・院外施設への褥瘡対策研修会の実施(皮膚・排泄ケア認定看護師)
- ・日本看護協会への協力

17. 臨床検査適正化委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

臨床検査に関する管理、運営が適切に実施される事を目的とする。

(2) 活動内容

回	開催日	主要案件	新規試薬・診療材料承諾
1	令和6年 6月5日	令和6年度 名簿・要項確認 医局アンケートについて (一部審議事項含む) 赤沈検査結果報告について 検査項目変更 (電子カルテでのオーダー要望) 尿中タンパク分画 抗トリコスプロン・アサヒ抗体 鳥特異的 IgG 抗体 (外注検査から院内検査への要望) タクロリムス シクロスボリン	微生物 一般細菌MICドライプレート (セフィデロコル) 0.5%硫酸水 アキュレート CA羊血液寒天培地 滅菌精製水 イマージョンオイルB 病理 CD4モノクローナル抗体 DFS染色液 アンモニアック銀液 生化学 リボンカセット 外注 GM管核酸庇護液
2	10月2日	令和6年度 日臨技臨床検査精度管理調査結果 検査項目変更 EBウイルスDNA定量 単純ヘルペスウイルスキット HIV Ag/Ab 臨床検査科への要望申請書 新型コロナ関連検査の オーダー画面レイアウト変更について 超音波検査のオーダー枠増は可能か?	微生物 バイテック2感受性カード グラム陽性菌感受性カード 病理 WT1抗体 スポンジ 解剖用縫合糸 縫合針 生化学 免疫染色装置e801用試薬10件 グリコアルブミン検査試薬2件 免疫染色装置e801用 純水カートリッジ 生理 ステックタオル 非観血血圧計用カフ
3	令和7年 2月12日	検査項目変更 25-OHビタミンD (骨粗鬆症) ヘリコバクターキロリ抗原定性 クラミジア抗原キット	生化学 HIV Ag/Ab免疫反応カートリッジ LPコントロール・感染症 3種類 トレースキャリブPULS LA FER-S標準液(多点用)B 微生物 KBディスク セフォゾプラン(CZP) KBディスク アルベカシン(ABK) ビオラモ 5mlチューブ ペンシルホモジナイザー ホモジナイザーペッスルR-1.5 ホモジナイザーペッスルF-1.5 ホモジナイザーペッスルR-5.0 生化学 パキュエット採血管 ゴールド パキュエット採血管 オレンジ

(3)活動要約

- ・ 令和6年度は臨床検査適正化委員会を3回開催した。
- ・ 外部精度管理(日本臨床衛生検査技師会、秋田県臨床衛生検査技師会、日本医師会)に参加。
- ・ ルミパルスで行っているTSH、FT3、FT4、wholePTHが、コバスe801へ移行となる。
- ・ 新型コロナ関連検査の項目をオーダーしやすい様に、1画面にまとめる。

(4)外部精度管理の動向

	令和6年度 件数 (%)	令和5年度 件数 (%)	令和4年度 件数 (%)	令和3年度 件数 (%)	令和2年度 件数 (%)
日本臨床衛生検査技師会					
項目数	256	242	247	244	232
評価 A+B (○)	249 (97.2)	239 (98.8)	243 (98.4)	241 (99.8)	231 (99.6)
評価 C (△)	3 (1.2)	0	0	0	0
評価 D (×)	4 (1.6)	3 (1.3)	4 (1.6)	3 (1.2)	1 (0.4)
秋田県臨床衛生検査技師会					
項目数	150	145	149	148	143
評価 A+B (○)	148 (98.7)	143 (98.6)	146 (98.0)	140 (94.6)	142 (99.3)
評価 C (△)	0	0	0	1 (0.7)	0
評価 D (×)	2 (1.3)	2 (1.4)	3 (2.0)	7 (4.7)	1 (0.7)
日本医師会					
項目数	49	49	49	49	49
総合評点	95.9	96.5	94.4	95.6	96.2
評価 D (×)	0	0	0	0	0

18. 栄養管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

給食業務の改善・向上並びに患者の栄養管理の徹底等、疾病治療を促進するための病院給食に関する基本的な事項を協議する。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	令和6年6月5日	<ol style="list-style-type: none">栄養管理委員会要綱について栄養科業務計画書(案)栄養科体制委託業者の体制第1回 嗜好調査結果その他
2	令和6年9月6日	<ol style="list-style-type: none">10月からの業務体制病院負担食数について第2回 嗜好調査結果その他
3	令和6年12月24日	<ol style="list-style-type: none">委託契約更新後の状況委託業者からの要望機能評価受診について栄養業務の見直し第3回嗜好調査結果扇田病院との給食連携についてその他
4	令和7年2月25日	<ol style="list-style-type: none">業務量増加への対応状況システムで表示できない正式名称の食札の扱いについて厨房機器の入替状況第4回嗜好調査結果R6年度 嗜好調査結果まとめ入院診療計画書の職名変更についてその他

19. 勤務医負担軽減対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

勤務医の負担軽減計画等に関する事項を協議し、医師の処遇改善を図る。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年5月1日	<p>(1)令和6年度 医師労働時間短縮計画について</p> <p>(2)医師の働き方改革への対応について</p> <p>①コンサルタントによる調査結果</p> <p>②宿直明けの勤務について</p> <p>③暫定的な時間外手当支給について</p> <p>④勤務管理システム</p> <p>⑤勤務時間外における「業務」と「自己研鑽」の区別等について</p> <p>(3)看護職員に対する負担軽減計画(令和6年度)について</p>

(3) 活動要約

○令和6年度 医師労働時間短縮計画の策定

- ・労働時間と組織管理に関して「労務管理・健康管理」「意識改革・啓発」、労働時間短縮に向けた取組に「タスク・シフト／シェア」を大項目にした計画を策定。

○医師の働き方改革への対応

- ・コンサルタントによる調査結果を踏まえ、宿直明けの勤務、時間外勤務手当の支給、勤務管理システム利用による労務管理、勤務時間外における「業務」と「自己研鑽」の区別等の扱いを承認。

○看護職員に対する負担軽減計画の見直し等

- ・入院セットの導入によるセット利用に関する業者説明の実施。

- ・病棟薬剤師の4h以上の常駐による注射薬の配合変化や医薬品の使用方法などの情報提供。

20. 透析機器安全管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

関連学会が示す基準に基づく透析液の水質管理を適切に実施することで、透析患者により良い血液透析を提供する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年5月9日	・委員の確認 ・水質検査、機器状況報告 ・委員の役割について ・要綱、透析液管理計画書確認
2	令和6年5月30日	・水質検査、機器状況報告 ・要綱、計画書の承認 ・今年度の主な予定について
3	令和6年6月27日	・水質検査、機器状況報告 ・全箇所検査について ・湿度による機器不具合への対応について
4	令和6年8月1日	・水質検査、機器状況報告 ・透析患者監視装置の更新について
5	令和6年9月5日	・水質検査、機器状況報告 ・広島での消毒液誤投入への対策
6	令和6年10月2日	・水質検査、機器状況報告 ・作業停電について ・透析患者監視装置の更新報告
7	令和6年10月30日	・水質検査、機器状況報告 ・作業停電報告 ・透析関連機器オーバーホールについて
8	令和6年11月28日	・水質検査、機器状況報告 ・今後の透析患者監視装置の更新スケジュールについて
9	令和6年12月26日	・水質検査報告 ・透析関連機器オーバーホール報告 ・電解質測定器EA-07について
10	令和7年1月30日	・水質検査、機器状況報告 ・On-Line透析治療の拡大について
11	令和7年2月27日	・水質検査、機器状況報告 ・コンソール間歇補液プログラム設定に関するインシデント要因と対策
12	令和7年3月27日	・水質検査、機器状況報告 ・令和6年度の活動まとめ ・人事異動による来年度からの委員変更について

(3) 活動要約

- ・年間を通して良好な水質を確保できた。10月に1度だけRO水のETにてアクションレベルがあったが、再検で目標値以内を確認した。
- ・今年度から「透析機器安全管理委員会」への名称変更し透析関連機器の管理報告を行った。
- ・今年も3台のコンソール更新を行い、全てがon-line治療対応機となった。
- ・昨年度の供給系機器更新により、老朽化に関する不具合等が改善された。
- ・RO（透析用水作製装置）更新により、夏季の水温上昇で給湯ラインが止まるとRO膜水量低下警報が発生する事案が確認され、メーカーとの対策を実施中。
- ・電解質測定装置の更新が先送りとなっているが、メーカー対応が今年で終了することが報告され、今後の対応が課題となった。
- ・広島での消毒液の誤投入による塩素の大量発生事故を教訓に、当院での安全対策を確認した。
- ・来年度のコンソール更新について、価格の高いGタイプ2台が対象となり（例年1台）予算上更新困難となった。今後の対応を検討中。

21. がん拠点病院運用会議

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

がん診療連携拠点病院として質の高いがん医療の提供を目指し、緩和ケア委員会、がん登録委員会、化学療法委員会の連携強化を図る。

(2) 活動内容

1. 緩和ケア研修会の開催

「大館市立総合病院 緩和ケア研修会2024」

開催場所 : 大館市立総合病院

開催日 : 令和6年10月19日（土）

修了者 : 27名（医師9名、看護師16名 薬剤師1名 作業療法士1名）

※ 北秋田市民病院と共に実施。実施運営は当院医師、看護師、

患者サポートセンター及び緩和ケア委員会

2. 秋田県がん診療連携協議会との取組み

評価・改善部会対応 P D C A サイクル評価シートについて

打合せ会 : 令和6年6月24日、12月16日、令和7年1月10日

事例発表 : 令和7年1月17日（当院事例発表者6名）

3. がん患者就労支援の取組み

大館公共職業安定所と当院の間で「長期療養者就職支援事業実施協定」を締結

「長期療養者就労支援相談会」を月1回実施

※大館公共職業安定所職員が総合病院に出張し、職業相談を実施するもの

4. 図書館連携の取組み

大館市立栗盛記念図書館内に「がん情報コーナー」を常設。

がんパンフレット（63種類）、がん関連書籍を展示するブースを設置し、定期的に補充している。

22. 化学療法放射線治療委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

本院で実施されるレジメンの有効性・安全性について評価し、その登録と管理を行う。化学療法と放射線療法の質と安全性の向上をはかり、適切な治療の実施を推進する。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和6年5月23日	・新規レジメン登録について ・令和6年度診療報酬改定について ・選定療養への対応について
2	令和6年10月1日	・新規レジメン登録について ・がん薬物療法体制充実加算の算定状況について ・がん化学療法に関する取り決めについて

(3) 活動要約

令和6年度の化学療法放射線療法委員会は、計2回開催された。各科から申請された新規レジメン、変更レジメン、削除レジメンに関して審議・登録を行った。令和6年度診療報酬改定で新設されるがん薬物療法体制充実加算を算定するための体制を整備した。がん化学療法の関する取り決めを作成し全スタッフが共通の認識で業務に取り組めるように図った。

令和6年度新規登録レジメン数

科名	消血腫	小児	外科	産婦	耳鼻	泌尿	脳外	呼内/呼外	合計
第1回	0	0	1	0	0	0	0	1	2
第2回	9	0	3	1	0	0	0	1	14

科別登録レジメン数

科名	消血腫	小児	外科	産婦	耳鼻	泌尿	脳外	呼外	合計
登録数	148	1	55	32	20	28	2	45	331

23. がん登録委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

平成21年4月 地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、令和5年4月には改めて地域がん診療病院の指定を受けたことにより、必須事項である院内がん登録体制の整備と円滑な運用を図る。施設におけるがん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上とがん患者の支援を目指す。

(2) 活動要約

1. がん患者の受療状況の把握
2. がんに関する統計資料の作成
3. 予後調査、生存率の計測(国立がん研究センター「予後調査支援事業」協力)
4. 全国がん登録への届出(国立がん研究センター・秋田県がん登録室)
5. 院内がん登録全国集計への届出(国立がん研究センター)
6. 国立がん研究センター主催研修会、秋田県がん登録部会、東北がんネットワーク、その他研修会参加

(3) 令和6年度委員会開催記録

開催日	内 容	
令和6年5月21日	令和6年度第1回委員会	・「院内がん登録実施要綱」の改正について
令和6年12月9日	令和6年度第2回委員会	①令和6年度データ提出・研修会・その他 ②秋田県がん診療連携協議会資料について

(4) 令和6年度データ提出内容(※国立がん研究センターの指定により、通年の数値で提出している)

回	提出日	データ内容	件数	提出先
1	令和6年6月27日	2013-10年予後調査支援事業	137	国立がん研究センター
2	令和6年7月8日	2012-10年予後情報付データ	684	国立がん研究センター
3	令和6年7月7日	2023年拠点病院全国集計データ (1件あたり99項目登録)	917	国立がん研究センター「院内がん登録室」
4	令和6年7月7日	2023年全国がん登録データ (1件あたり26項目登録)	917	国立がん研究センター「全国がん登録室」 秋田県総合保健事業団 疾病登録室
5	令和6年8月16日	2023年院内がん登録データ	917	秋田大学腫瘍センター(依頼文書あり)

(5) 令和6年度研修会への参加

開催日	研修名(参加人数)	場所
令和6年8月13～31日	国立がん研究センター主催 がん登録実務中級者研修(1名)	当院(webサイトにて)
令和6年9月2～30日	国立がん研究センター主催 がん登録実務中級認定者研修(2名)	当院(webサイトにて)
令和6年9月13日	東北がんネットワーク主催 講師東北大学病院助教 肺がん・胸膜中皮腫・胸腺腫瘍 研修会(2名)	当院(webサイトにて)
令和6年10月11日	東北がんネットワーク主催 講師東北大学病院助教 卵巣・卵管・腹膜がん 研修会(2名)	当院(webサイトにて)
令和6年11月8日	東北がんネットワーク主催 講師東北大学病院助教 胆のう・胆道 研修会(3名)	当院(webサイトにて)
令和6年12月20日	東北がんネットワーク主催 講師東北大学病院助教 骨・軟部腫瘍 研修会(3名)	当院(webサイトにて)

(6) 当院のがん登録実務者の認定状況

中級:3名 初級:1名 (がん登録実務 中級2名)

24. 緩和ケア委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

緩和ケア委員会は、がんと診断された方、これからがん治療を始める方、がん以外の疾患で治療中の方及びその家族が、がん等による身体や心などの様々なつらさを和らげ、豊かな人生を送ることができるよう支援することを目的として活動している。また、地域における緩和ケア発展を目的として、緩和ケアの啓発、緩和ケアの周知、新たな緩和ケアニーズの開拓等活動している。

(2) 活動内容

1. 定期委員会

以下のとおり定期委員会を開催した。緩和ケアに係る事案を委員間で情報共有し、明らかとなった課題を協議検討することにより、課題の解決及び緩和ケアの質的向上を図った。

回	開催日	主な協議・検討内容
第1回	令和6年5月9日	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度委員会目標設定・緩和ケア事例報告(3月分、4月分)・スクリーニング報告と情報共有(3月分、4月分)・令和6年度緩和ケア委員会活動計画について・緩和ケア研修会2024の開催について・もっともっと知ろう緩和ケア2024の開催について
第2回	令和6年6月13日	<ul style="list-style-type: none">・緩和ケア事例報告(5月分)・スクリーニング報告と情報共有(5月分)・がん性疼痛緩和指導管理料算定について・緩和ケア研修会2024の開催について・もっともっと知ろう緩和ケア2024の開催について・大館市立栗森図書館がんコーナーの整備について
第3回	令和6年7月11日	<ul style="list-style-type: none">・緩和ケア事例報告(6月分)・スクリーニング報告と情報共有(6月分)・がん性疼痛緩和指導管理料算定について・緩和ケア研修会2024の開催について・もっともっと知ろう緩和ケア2024の開催について
第4回	令和6年9月12日	<ul style="list-style-type: none">・緩和ケア事例報告(7月分、8月分)・スクリーニング報告と情報共有(7月分、8月分)・がん性疼痛緩和指導管理料算定について・緩和ケア研修会2024の開催について・もっともっと知ろう緩和ケア2024の開催について
第5回	令和6年10月10日	<ul style="list-style-type: none">・緩和ケア事例報告(9月分)・スクリーニング報告と情報共有(9月分)・がん性疼痛緩和指導管理料算定について・緩和ケア研修会2024の開催について・もっともっと知ろう緩和ケア2024の実施報告について

第6回	令和6年12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア事例報告(10月分、11月分) ・スクリーニング報告と情報共有(10月分、11月分) ・がん性疼痛緩和指導管理料算定について ・多職種連携構築研修会の開催について ・患者受入れに係る救命救急センターとの連携について
第7回	令和7年1月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア事例報告(12月分) ・スクリーニング報告と情報共有(12月分) ・がん性疼痛緩和指導管理料算定について ・多職種連携構築研修会の開催について ・ケア帽子の配布について
第8回	令和7年2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア事例報告(1月分) ・スクリーニング報告と情報共有(1月分) ・多職種連携構築研修会の開催について
第9回	令和7年3月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度委員会目標の評価について ・緩和ケア事例報告(2月分) ・スクリーニング報告と情報共有(2月分) ・多職種連携構築研修会の実施報告について ・令和6年度緩和ケア委員会活動報告について

①緩和ケア事例報告

緩和ケアチームの活動状況を委員間で共有するため、定期委員会において緩和ケア認定看護師による事例報告・事例検討を行った。

②苦痛のスクリーニング実施報告

がん患者の身体的苦痛や精神的苦痛等を早期に拾い上げ、緩和に繋げることを目的として、定期委員会において苦痛のスクリーニング実施報告を行った。

- ・がんスクリーニング実施率:90.38%/基本的緩和ケア実施率:88.86%
- ・非がんスクリーニング実施率:61.30%/基本的緩和ケア実施率:75.00%

2. 緩和ケアチームによる患者支援

①緩和ケアチーム介入 35件/年

がん患者の身体的なケア、精神的なケア、在宅移行支援、意思決定支援、家族調整等、全人的な観点に基づき患者を支援した。また、週1回緩和ケアカンファレンスを開催し、支援内容を検討した。

3. 研修会等の開催

開催日	名称	内容
令和6年10月19日	緩和ケア研修会2024	がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針に則り、北秋田市民病院と共に地域の医療従事者向けの研修会を開催した。
令和7年2月14日	多職種連携構築研修会	在宅緩和ケアにおける多職種連携の知識習得と連携ツールの周知を目的とした地域の医療・介護従事者向けの研修会を開催した。 演題:『緩和ケアチームで行う訪問診療』 演者:木村麻衣主任看護師

令和6年8月8日 ～同年8月27日	第1回もっともっと知ろう 緩和ケア2024	緩和ケアの周知を目的とした患者・家族向けの講演会(ポスター掲示)を開催した。 演題:『緩和ケアって何?／アドバンス・ケア・プランニング』 演者:大石晋 副院長／高杉純子 看護師長
令和6年8月28日 ～同年9月11日	第2回もっともっと知ろう 緩和ケア2024	演題:『身体のつらさを和らげよう／医療用麻薬について』 演者:山居聖典 部長／國安和仁 薬剤師
令和6年9月12日 ～同年9月24日	第3回もっともっと知ろう 緩和ケア2024	演題:『がん患者の口腔ケア／がん療養における食事』 演者:鈴木兼一郎 歯科医師／後藤史子 副技師長
令和6年9月25日 ～同年10月8日	第4回もっともっと知ろう 緩和ケア2024	演題:『気持ちのつらさを和らげよう／社会保障制度について』 演者:武内佳苗 主任技師／古家徳一 患者サポートセンター係長
令和6年10月9日 ～同年10月23日	第5回もっともっと知ろう 緩和ケア2024	演題:『心不全の緩和ケア／がんリハビリテーション』 演者:木村麻衣 主任看護師／塩谷哲弘 技師
令和6年10月24日 ～同年11月7日	第6回もっともっと知ろう 緩和ケア2024	演題:『放射線治療について／化学療法について』 演者:伊藤由美恵 副看護師長／浪岡恭子 副看護師長

4. 広報活動

①栗森記念図書館へのがん情報冊子の提供

栗森記念図書館がんコーナーでは、市民へのがん啓発を目的として、がんに係る書籍及び冊子を設置している。令和6年5月30日、大石副院長、木村主任看護師、古家係長が同館を訪問、がん情報冊子等を提供し、同館がんコーナーの整備に貢献した。

②印刷物による広報活動

緩和ケアポスター及び緩和ケアリーフレットを院内に掲示・配布し、緩和ケアの広報に努めた。また『がんになったら手に取るガイド』等を院内に配置し、緩和ケアの普及を図った。

③ホームページによる広報活動

ホームページにある緩和ケア委員会のサイトを随時更新し、緩和ケア委員会の活動及び緩和ケア研修会等の広報に努めた。

25. NST委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

患者の栄養評価および栄養管理を行い、適切な栄養管理を指導助言し栄養管理に伴う合併症の予防、早期発見および治療を行い早期回復と社会復帰を助けることを目的としています。また、病院スタッフに対し、栄養や摂食嚥下機能回復に関する新しい知識の習得及び士気向上も目的としています。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容	NSTたより担当
1	令和6年4月26日	・4月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・昨年度活動報告・今年度活動計画(案) ・褥瘡委員会との連携について ・EAT-10開始後の入力状況について①	
2	令和6年5月24日	・5月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・名簿、要綱確認 ・EAT-10開始後の入力状況について②	栄養科
3	令和6年6月28日	・6月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・診療報酬改定に伴う加算算定基準について ・経管栄養実施時のNaCl投与について ・EAT-10開始後の入力状況について③	5病棟
4	令和6年7月26日	・7月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・NSTマニュアル「栄養剤一覧」差し替え ・EAT-10開始後の入力状況について④	6病棟
5	令和6年8月23日	・8月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・リンクナースのEAT-10入力確認について ・介入患者のふくらはぎ周囲長測定について	7病棟
6	令和6年9月27日	・9月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・EAT-10入力状況、入院前支援での対応 ・NST記録の入力について	8病棟
7	令和6年10月25日	・10月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・ラコール半固体使用時の加圧バッグについて ・療養先の狭小化に伴う栄養サポートについて	9病棟
8	令和6年11月22日	・11月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・慢性腎不全用高カロリー輸液「キドパレン」 ・機能評価時の指摘事項等の確認	10病棟
9	令和6年12月27日	・12月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・NST回診時の看護師対応についてのお願い ・秋田県NST研究会について	11病棟
10	令和7年1月24日	・1月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・EAT-10入力100%に向けての取り組み ・低亜鉛血症治療薬「ジンタス錠」 ・アバンド、グルセルナの使用対象	精神科病棟
11	令和7年2月28日	・2月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・摂食機能療法対象者への声がけ ・GLIM基準実施に向けたスクリーニングの検討	医事課
12	令和7年3月28日	・3月介入件数、科報告、摂食機能件数報告 ・薬品経腸栄養剤の使用依頼(期限) ・栄養科取扱の栄養剤の変更	薬剤科

(3) 報告・体制整備

平成25年8月1日付で東北厚生局より、NST加算が受理され、活動を行っています。

NST回診メンバーは栄養に関する研修を修了した専任医師、専任看護師、専任薬剤師、専任管理栄養士を中心とし、歯科医師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、病棟看護師、管理栄養士等で構成されています。

令和元年7月より歯科医師もカンファレンス・回診に参加し歯科医師連携加算を算定しています。

褥瘡対策委員会と連携し、褥瘡ハイリスク患者への栄養評価、早期栄養介入を行っています。

令和2年度に摂食嚥下チームを立ち上げ、摂食機能療法の取り組みを行っています。

嚥下スクリーニングEAT-10の導入に向け勉強会を開催、令和5年12月より開始しています。

(4) NSTたより発行

毎月NSTたよりを発行し、診療報酬改定、栄養素や栄養によって起こりうる疾患の対応など情報提供をしています。

(5) NST委員会研修会・勉強会等

- 「褥瘡治療におけるグルセルナ・アバンドについて」(集合型、褥瘡委員会合同)

令和6年6月28日 【参加 29名】

(6) 令和6年度NST介入数報告

診療科	介入件数
呼吸器内科	59
循環器内科	42
内分泌代謝神経内科	9
外科	68
整形外科	64
神経精神科	23
消化器血液腫瘍内科	42
歯科口腔外科	16
耳鼻咽頭科	6
脳神経外科	18
産婦人科	1
泌尿器科	11
合 計	359

栄養サポートチーム加算:359件、 非加算:55件

歯科医師連携加算 :350件

摂食機能療法:91件

26. クリニカルパス委員会

1. 委員会活動記録

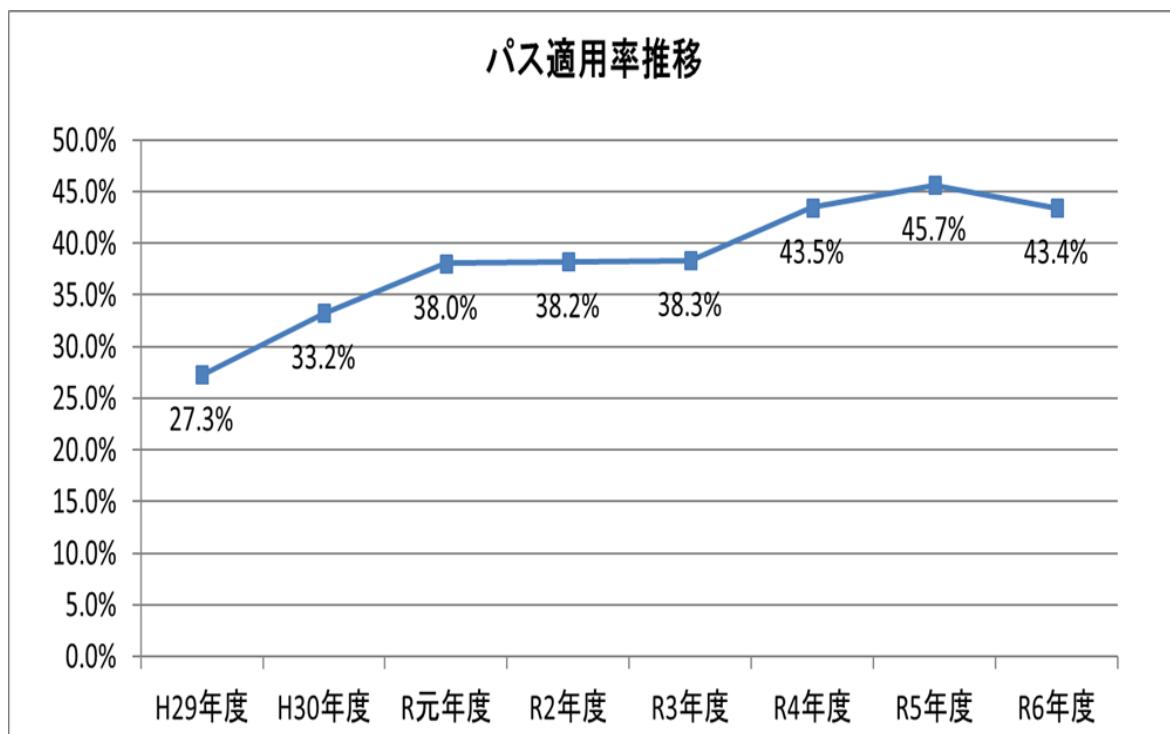
(1) 活動目的

クリニカルパスの整備と円滑な推進を図る。

(2) 活動内容

- 第1回委員会・・令和6年4月25日
- 第3回委員会・・令和6年6月27日
- 第5回委員会・・令和6年8月22日
- 第7回委員会・・令和6年10月24日
- 第9回委員会・・令和6年12月26日
- 第11回委員会・・令和7年2月27日
- 第2回委員会・・令和6年5月23日
- 第4回委員会・・令和6年7月25日
- 第6回委員会・・令和6年9月26日
- 第8回委員会・・令和6年11月28日
- 第10回委員会・・令和7年1月23日
- 第12回委員会・・令和7年3月27日

(3) パス適用率の推移



27. 情報システム運用委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

情報システム運用委員会は、医療情報システム(電子カルテシステム等)の円滑な運用を図るため、病院職員と電子カルテシステムベンダー担当者で構成され、院内からの要望やベンダーからの提案についての検討を行うことで、より使いやすいものとなることを目指しています。

(2) 委員会開催記録 ※開催回数については令和3年11月の医療情報システム更新後からの通算

回数	開催日	主な検討内容
第34回	令和6年4月16日	・入院患者の麻薬処せんについて ・情報漏えい防止の通知について
第35回	令和6年5月21日	・予習カルテについて ・委員会開催時のペーパレス化について
第36回	令和6年6月18日	・勤務管理システムの準備状況について ・電子カルテサーバーのディスク使用状況について
第37回	令和6年7月16日	・勤務管理システムに関する報告について ・電子カルテサーバーディスク内の不要データ削除について
第38回	令和6年8月20日	・オーダー照会画面の機能追加について ・カルテ記事の編集機能について
第39回	令和6年9月17日	・作業停電について ・医療情報システム運用管理規程の改定について
第40回	令和6年10月15日	・作業停電の実施報告について ・電子カルテ端末への記録媒体等からのデータ取り込みについて
第41回	令和6年11月19日	・サイバー攻撃におけるBCP訓練の実施について ・院内レセプト審査支援システムの準備状況について
第42回	令和6年12月17日	・年末年始期間のセキュリティ対策及び業務処理について ・サーバーメンテナンス作業に伴う一部システムの使用停止について
第43回	令和7年1月21日	・情報セキュリティ研修の受講状況について ・マイナ情報の利用開始について
第44回	令和7年2月18日	・電子カルテ端末の共有フォルダの残容量について ・電子カルテのレスポンス調査について
第45回	令和7年3月18日	・最終診療日の照会機能について ・死亡診断書の電子化対応について

(3) 主な活動内容等

- ・令和6年度は月1回、全12回開催した。
- ・医療情報システムの安定稼働及び診療効率の向上を図るため、院内からの要望や意見等について方針を決定し、システムに対する対応を行っている。

28. 薬事委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

薬剤管理及び医薬品採用等、薬事業務の円滑な運営を図る。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和6年4月25日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・セルシン製剤(シロップ、注射液):販売中止への対応について
2	令和6年5月23日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・生食注シリンジ「NP」20mLの供給再開に伴う対応について(案)
3	令和6年6月27日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について
4	令和6年7月25日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・ソルダクトン静注用200mg -出荷停止への対応について- (令和6年7月16日配付) ・長期収載品の選定療養について:令和6年7月12日発出の疑義解釈より抜粋
5	令和6年9月26日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・試用医薬品の結果申請 ・期限切れ廃棄見込み医薬品について ・新型コロナワクチン:定期接種で使用するワクチンについて ・長期収載品の選定療養について
6	令和6年10月24日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・長期収載品の選定療養-保険薬局で行った対応の情報共有について-
7	令和6年11月28日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・選定療養対象薬への「(選)」表示機能について ・定期接種ワクチン:病院持ち出しへの対応について ・ソル・コーテフ静注用250mg:出荷量減少への対応について
8	令和7年1月23日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・期限切れ廃棄見込み医薬品について
9	令和7年2月27日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・試用医薬品の結果申請 ・セファクロルカプセル250mg「トーワ」:院外処方再開について
10	令和7年3月27日	・新規購入、採用区分変更、中止、市販後調査医薬品等について ・抗生物質委員会における新規購入・全品目についての採否等の検討結果 ・電子カルテのシステムを利用した限定出荷に関する情報発信

(3) 活動要約

- ・令和6年度は薬事委員会を10回開催した。
- ・専門委員会の抗生物質委員会を令和7年3月19日に開催した。
- ・期限切れ廃棄見込み医薬品のアナウンスを3回行い利用の促進を図った。
- ・令和7年3月の後発医薬品数量割合は76.3%であった。
- ・令和7年3月末の品目数は医薬品総計1965品目であった。
- ・令和7年度も品目数削減、後発医薬品使用促進について継続して取り組んでいきたい。

29. 患者サービス委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

患者サービスの充実を図り、患者さんが安心と満足の得られる医療を展開する。

(2) 委員会(定例委員会)

第1回委員会…4月18日、第2回委員会…5月16日、第3回委員会…6月20日、
第4回委員会…7月18日、第5回委員会…8月15日、第6回委員会…9月19日、
第7回委員会…10月17日、第8回委員会…11月21日、第9回委員会…12月19日、
第10回委員会…1月16日、第11回委員会…2月20日、第12回委員会…3月21日

(3) 投書対応の実績

「相談苦情申立/投書等の取扱」手順に定める投書の受付状況

投書 令和6年4月～令和7年3月 141件 (外来ホール・病棟に投書箱を設置)

投書に対する回答を掲示している。

(4) 外来患者さんアンケート調査の実施

当院に通院する外来患者さんの当院に対する満足度を調査することにより、対患者サービス、接遇、病院機能の向上を図ることを目的として実施した。

○調査日 : 令和6年12月2日～12月6日(平日5日間)

○回収数 : 500枚 (500枚配布中) 回収率100%

○調査結果 : 集計、分析結果を院長に報告した。

(5) 外来待ち時間調査の実施

電子カルテから患者の動向データを抽出し検証。診療科毎、曜日毎の患者さんの動向や傾向から予約患者待ち時間を推定した。この結果は共有して今後の待ち時間対策に活用し、患者満足の向上を図った。

(6) 「キラッとさん」推薦事業の実施

職員の接遇向上のため、患者対応および職員同士に対応について、模範となるべき職員を推薦して表彰する取組みを行った。

(7) 「子ども患者さんの権利とお願い」の制定

子どもの権利擁護をめぐる現在の状況に対応するため、特に18歳未満の子ども患者さんを対象として、新たに「子ども患者さんの権利をお願い」を制定した。(令和6年10月1日制定)

30. 地域医療連携推進委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

地域の一次医療機関、老人保健施設及び保健所等関係機関との医療連携について、適正かつ円滑な推進を図る。

(2) 活動内容

第1回委員会…4月23日、第2回委員会…5月28日、第3回委員会…6月25日

第4回委員会…7月23日、第5回委員会…8月27日、第6回委員会…9月24日

第7回委員会…10月22日、第8回委員会…11月26日、第9回委員会…12月24日

第10回委員会…1月28日、第11回委員会…2月25日、第12回委員会…3月25日

(3) 活動内容

①糖尿病サポーター勉強会(全2回) 医療従事者・福祉関係者向け勉強会の開催

・第1回 糖尿病連携パスと教育入院について

開催日時:令和6年9月19日(木) 19:00～20:00

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:27名

・第2回 ①市の糖尿病重症化予防の取組について

②高齢者の運動療法について

開催日時:令和6年10月22日(火) 19:00～20:00

開催場所:大館市立中央公民館 視聴覚ホール 参加者数:29名

③大館市立総合病院 患者サポートセンターだよりの発行

発行回数 2回(4月号、8月号)

発行部数 各360部×2回

31. 医療器材管理委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内における医療器械備品及び診療材料の購入、採用及び管理に関する業務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(2) 活動内容

回	開催日	協議事項
1	令和6年12月16日	翌年度医療機器購入要望の検討①(一覧の説明等)
2	令和7年1月8日	翌年度医療機器購入要望の検討②(各部署ヒアリング①)
3	令和7年1月20日	翌年度医療機器購入要望の検討③(各部署ヒアリング②)
4	令和7年1月22日	翌年度医療機器購入要望の検討④(各部署ヒアリング③)
5	令和7年1月29日	翌年度医療機器購入要望の検討⑤(各部署ヒアリング④)
6	令和7年2月4日	翌年度医療機器購入要望の検討⑥(各部署ヒアリング⑤)
7	令和7年2月7日	翌年度医療機器購入要望(ヒアリング結果・最終案について)

32. 保険診療委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

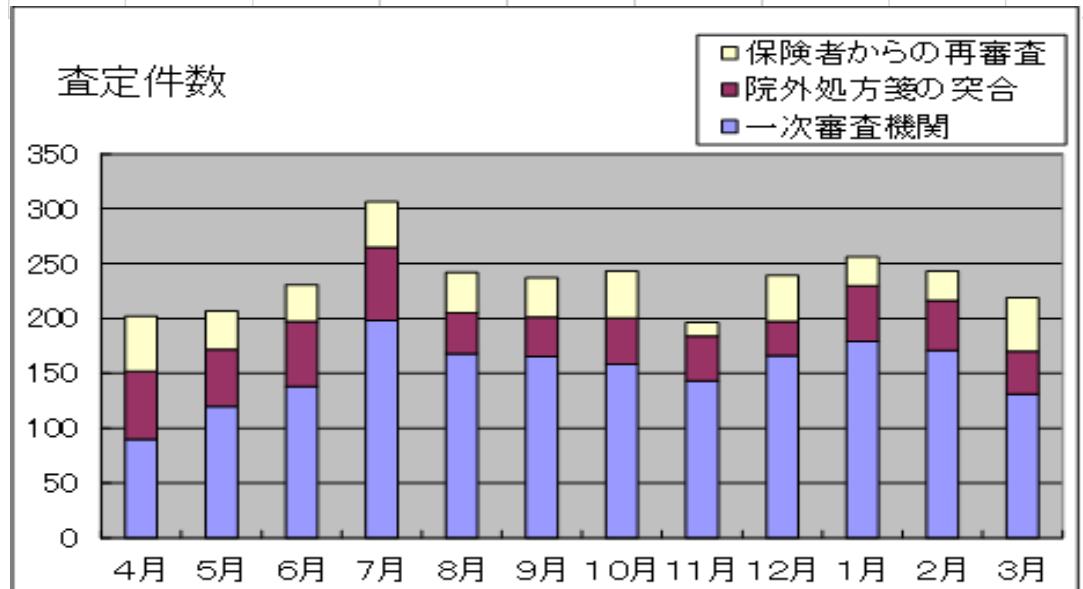
適切な診療による保険請求を確立少させ適正な収入確保を図る。

(2) 活動概要

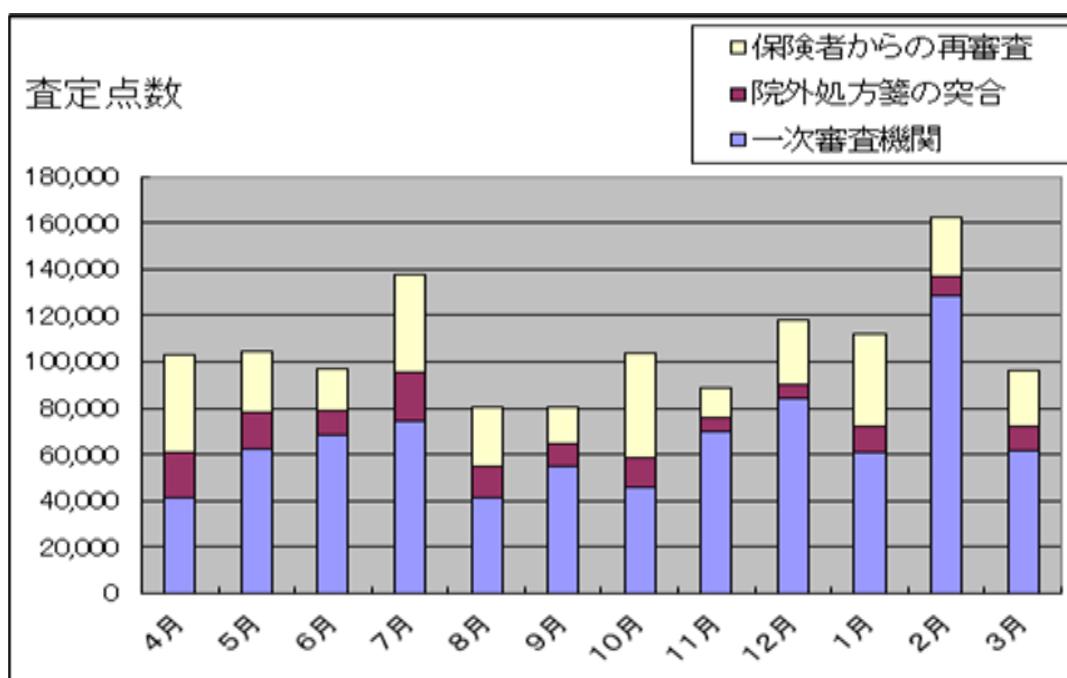
保険診療委員会は、適正な診療報酬請求業務を行うため、各月ごと年間12回開催している。委員会では査定を受けた各診療行為について調査・分析を行い、主治医に対し査定情報を見直している。

令和6年度における査定件数の合計は、2,821件、1,284,182点となり前年比22件の減、461,654点の減となった。うち一次審査機関による査定は、1,827件、793,243点、院外処方箋の突合は、562件、145,522点、保険者による査定は、432件、345,417点となった。また、再審査請求の可否についても本委員会で判断し、主治医へ再審査請求書の作成を依頼している。令和5年度に報告を受けた再審査の結果は、復活したものが18件、194,163点であった。

件数	一次審査機関			院外処方箋の突合	保険者からの再審査			査定合計
	医学的査定	事務的査定	合計		国保	社保	合計	
4月	54	36	90	62	24	26	50	202
5月	74	46	120	52	16	19	35	207
6月	83	55	138	59	16	18	34	231
7月	136	62	198	67	24	17	41	306
8月	117	51	168	37	16	21	37	242
9月	125	40	165	36	18	18	36	237
10月	107	51	158	42	18	25	43	243
11月	81	62	143	41	12	0	12	196
12月	122	44	166	31	24	18	42	239
1月	121	58	179	51	15	11	26	256
2月	112	59	171	45	16	11	27	243
3月	94	37	131	39	24	25	49	219
合計	1,226	601	1,827	562	223	209	432	2,821



点数	一次審査機関			院外処方箋の突合	保険者からの再審査			査定合計
	医学的査定	事務的査定	合計		国保	社保	合計	
4月	30,072	11,588	41,660	19,074	14,426	28,061	42,487	103,221
5月	45,301	17,372	62,673	15,805	6,205	19,767	25,972	104,450
6月	50,287	17,924	68,211	10,628	8,859	9,125	17,984	96,823
7月	61,226	13,504	74,730	20,707	25,227	17,212	42,439	137,876
8月	31,930	9,235	41,165	13,835	11,196	13,979	25,175	80,175
9月	38,115	16,417	54,532	10,298	6,408	9,438	15,846	80,676
10月	32,523	12,963	45,486	12,751	25,192	20,318	45,510	103,747
11月	54,865	14,980	69,845	6,276	3,022	9,180	12,202	88,323
12月	61,844	22,313	84,157	6,037	11,838	16,080	27,918	118,112
1月	39,021	21,812	60,833	11,037	37,995	2,224	40,219	112,089
2月	116,237	12,436	128,673	8,023	3,615	22,036	25,651	162,347
3月	44,570	16,708	61,278	11,051	15,279	8,735	24,014	96,343
合計	605,991	187,252	793,243	145,522	169,262	176,155	345,417	1,284,182



33. 広報委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

- ①「病院ホームページ」の運営、企画、内容に関するすべての事項の審議
- ②「病院広報紙(おおだて病院だより)」の企画に関する審議
- ③その他、広報一般に関わることの審議

(2) 活動内容

回	開催日	協議事項
1	令和6年5月28日	・ホームページについて 更新内容・リニューアル計画の報告 ・病院広報について 令和6年度編集方針 ・病院案内パンフレットについて 更新案協議
2	令和6年6月25日	・病院広報について 第43号掲載内容の決定等 ・病院案内パンフレットについて 更新内容の決定
3	令和6年8月5日	・ホームページについて 更新内容の報告 ・病院広報について 第43号掲載内容の確認等 ・病院案内パンフレットについて 更新内容の確認
4	令和6年12月23日	・ホームページについて 更新内容・リニューアル進捗の報告 ・病院広報について 第44号掲載内容の決定等
5	令和7年2月5日	・ホームページについて 更新内容の報告 ・病院広報について 第44号掲載内容の確認等

(3) 活動要約

○ホームページに関する事項

(1) 令和7年3月29日 総合病院ホームページ・リニューアル版を公開

ほか、以下について実施

- ・病院ホームページの更新や、掲載内容についての検討
- ・委員からの意見・要望について管理委託業者へ依頼

○病院広報誌に関する事項

(1) 令和6年9月 第43号発行

主な記事 総合 :訪問看護ステーション紹介、医師紹介、レスパイト入院、
地域救命救急センターはここが新しくなりました、
大館市休日夜間急患センターご利用の案内、骨粗鬆症の予防
扇田 :病棟体制見直しプロジェクト開始、医師紹介、眼科外来終了

(2) 令和7年3月 第44号発行

主な記事 総合 :抗菌薬適正使用支援チーム(AST)紹介、臨床研修を振り返って、
高校生医療体験セミナー開催、総合病院の取り組み紹介、
患者さんの声より、RI装置[核医学診断装置]更新
扇田 :令和7年度からの医療体制変更、訪問診療・訪問看護案内、
患者送迎バス時刻変更

○病院案内パンフレットに関する事項

(1) 令和6年10月 更新版発行

34. 救命救急センター運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

大館市立総合病院救命救急センター及び地域救急全体の円滑な運営を行う。

(2) 活動内容

第1回委員会…4月25日、第2回委員会…5月23日、第3回委員会…6月27日

第4回委員会…7月25日、第5回委員会…8月27日、第6回委員会…9月26日

第7回委員会…10月24日、第8回委員会…11月28日、第9回委員会…12月26日

第10回委員会…1月23日、第11回委員会…2月27日、第12回委員会…3月27日

(3) 活動要約

① BLS・AED研修

BLSとAEDの知識と技術、バックバルブマスクの使用方法の取得を目的として研修を実施した。

・7/10、8/7、9/11、10/2、11/13、12/4、1/8、2/5、3/5 9回開催 計132名が修了した。

・講師－看護師3名 臨床工学技師3名

② MET(蘇生専門チーム)打合せ・MET訓練

・5/21 METメンバーによる打合せを開催。役割、活動手順について確認した。

・6/9 MET訓令を開催。救護現場から救命救急センターまでの手順を実地にて確認した。

35. 図書室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

図書室の整備・運営方法及び図書の有効活用等について協議する。

(2) 活動内容

購入図書の付番・配布の実施。

文献検索システムの契約締結、利用実績の把握。

36. 手術室運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

手術室の適正な運営と安全管理体制の確立。

(2) 活動内容

回	開催日	内容
1	令和6年4月23日	<ul style="list-style-type: none">・前月の手術件数、全麻件数の報告(定例報告事項)・前月のインシデントレポート報告(定例報告事項)・委員会要綱の見直しについて
2	令和6年5月28日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・輸血の同意書について・ホルマリン作業時の記録について
3	令和6年6月25日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・入院時のコロナ検査について・手術患者の血液型について
4	令和6年7月23日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告
5	令和6年8月27日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・手術麻酔記録について
6	令和6年9月24日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・手術室医薬品常備数の見直しについて・手術決定から終了までのフローについて
7	令和6年10月22日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告
8	令和6年11月26日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・マーキングとタイムアウトに関することについて
9	令和7年1月28日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・手術実施入力時の医師の登録について
10	令和7年2月25日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告
11	令和7年3月25日	<ul style="list-style-type: none">・定例報告・来年度の手術室の勤務体制と各科の手術予定日について

【令和6年度全身麻酔件数】

839件

37. 臨床工学科運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

臨床工学科の円滑な運営を行うため、運営に係わる諸関連事項について審議する。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年5月15日	<ul style="list-style-type: none">・血液浄化業務及びME機器管理業務報告・人事評価について・他職種医療スタッフへの教育・育成について
2	令和6年7月17日	<ul style="list-style-type: none">・血液浄化業務及びME機器管理業務報告・救命救急センター主催BLS訓練で小指を骨折した事例について
3	令和6年9月18日	<ul style="list-style-type: none">・血液浄化業務及びME機器管理業務報告・HAMILTON C-1研修会について・フットポンプ貸出件数増加について
4	令和6年11月20日	<ul style="list-style-type: none">・血液浄化業務及びME機器管理業務報告・透析穿刺ヘルプ数増加について・病院機能評価受審報告
5	令和7年1月15日	<ul style="list-style-type: none">・血液浄化業務及びME機器管理業務報告・休日夜間呼出手順変更について・感染に対応した透析ベッド有効活用について・スタッフの退職について
6	令和7年3月19日	<ul style="list-style-type: none">・血液浄化業務及びME機器管理業務報告・透析プライミングエラーについて・スタッフ不足への対応について・ECMO管理の3病院CE連携について

- ・今年度での職員退職によるスタッフ不足への対応について協議した。
- ・フットポンプの貸出増加に対応してレンタル機を増設した。
- ・透析スタッフの穿刺ミスやプライミングエラー等に対応し対策を講じた。
- ・弘大、つがる総合、当院の3病院の循環器内科医及びCEによるECMO管理を協議した
- ・休日夜間呼出について受付を通さず看護管理宿日直からのコールとした。
- ・感染ベッド利用の効率化を図るため、個人用透析患者監視装置を分散設置した。
- ・委員会整理により当委員会を廃止し、令和7年度より医療機器安全管理委員会に機能を移設することとした。

38. 教育委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

院内教育・研修の機会を確保し、充実させるとともに、それらが円滑に行われるよう協調・調整する。

(2) 活動内容

院内における令和6年度の研修計画と研修実績をとりまとめた。

39. 機能評価委員会

1. 委員会活動記録

(1)活動目的

- ① 医療機能全般にわたる認定期間中の質の維持・改善に関するこ
- ② 医療機能各領域の自己評価に関するこ
- ③ その他、医療機能評価全般についての重要事項に関するこ

(2)委員会活動内容

月 日	回数	主な検討内容
令和6年4月30日	第1回	<ul style="list-style-type: none">・模擬ヒアリング結果報告・受診スケジュールについて・次回模擬審査の実施について
令和6年8月8日	第2回	<ul style="list-style-type: none">・病院機能評価(3rdG Ver3.0)訪問審査受審日について・模擬審査について・自己評価の入力について
令和6年9月3日	第3回	<ul style="list-style-type: none">・病院機能評価(3rdG Ver3.0)受審準備進捗状況について・模擬審査に向けた準備について
令和6年10月1日	第4回	<ul style="list-style-type: none">・模擬審査報告について・進捗状況報告について
令和6年11月5日	第5回	<ul style="list-style-type: none">・進捗状況報告・病院機能評価(3rdG Ver3.0)受審前の確認について

(3)日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査結果

- ・ 審査を行った日 2024年11月14～15日
- ・ 認定番号 第JC1891－3号
- ・ 主たる機能 一般病院2
- ・ 副機能 精神科病院
- ・ 機能種別版評価項目3rdG Ver.3.0
- ・ 認定期間 2023年1月18日～2028年1月17日
※新型コロナウイルス感染症拡大による受審猶予による
- ・ 認定団体 公益財団法人 日本医療機能評価機構
- ・ 認定回数 3回

(4)期中の確認に関する事項

- ・ 前回書類提出期限 2020年1月
- ・ 確認方法 自己評価実施シート(様式1)
 - ・各項目の自己評価S～C(必須)
 - ・各項目に関する現状報告(S及びAは任意、B及びCは必須)質改善活動事例報告(様式2)
 - ・質改善のために行った活動内容と成果ほか(任意)

40. 排泄ケア委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

尿道留置カテーテルを早期に抜去し尿路感染を防止するとともに自力で排尿管理ができるよう導く事により、人としての尊厳を守り、ADLの維持・増進をもたらすことを目的とする。ひいては早期退院・寝たきり患者減少につながることを、期待するものである。

(2) 排泄ケア委員会(定例委員会)

5月10日、6月14日(臨時)、7月5日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、
1月10日、2月7日、3月7日

○人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

人工肛門・人工膀胱造設術前処置とは、人工肛門等造設後の合併症等の予防のため、術前の画像診断や触診等により、腹直筋の位置を確認した上で、適切な造設部位に術前に印をつけるなどの処置を行うことをいう。人工肛門又は人工膀胱のケアに従事した経験を5年以上有する看護師等であって、人工肛門又は人工膀胱のケアにかかる適切な研修を終了したものが、手術を実施する医師とともに、術前に実施した場合に算定する。

当院では上記に該当する看護師が8名いる他、日本ストーマ排泄リハビリテーション学会のストーマ認定士である看護師1名がいる。

【算定数報告】	令和5年度 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)	令和6年度 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	32 件	35 件
ストーマ処置(1個、2個以上 の合計)	865 件	1,023 件

○排尿自立支援加算

排尿自立支援とは、排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチーム(以下、排尿ケアチーム)を設置し、当該患者の診療を担う医師、看護師等が、排尿ケアチームと連携して、当該患者の排尿自立の可能性及び下部尿路機能を評価し、排尿誘導等の保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせるなど、下部尿路機能の回復のための包括的なケアを行うことをいう。排尿ケアチームが当該患者の状況を評価するなどの関与を行うと共に、病棟の看護師等が、包括的排尿ケアの計画に基づいて患者に対し直接的な指導・援助を実施した場合に算定する。

○外来排尿自立指導料

入院中の患者以外の患者であって、別に厚生労働大臣が定めるものに対して、包括的な排尿ケアを行った場合に、患者1人につき週1回に限り、区分番号A251に掲げる排尿自立支援加算を算定した期間と通算して12週を限度として算定する。

【算定数報告】	令和5年度 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)	令和6年度 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)
排尿自立支援加算	256 件	311 件
外来排尿自立指導料	21 件	7 件

41. 呼吸ケアサポートチーム委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

呼吸ケアの向上と人工呼吸器からの早期離脱・安全管理、病院スタッフへの呼吸ケアに関する助言・教育・標準化を目的として設置する。

(2) 活動内容

回	開催日	協議事項
1	令和6年4月12日	・人工呼吸器装着患者について(定期報告事項) ・インシデントレポート報告(定期報告事項) ・臨床工学科情報、呼吸療法認定士より(定期報告事項) ・人工呼吸器チェックシートについて
2	令和6年5月10日	・定期報告 ・今年度の活動内容について ・研修会テーマについて
3	令和6年6月14日	・定期報告 ・呼吸ケアマニュアルの差し替えについて
4	令和6年7月12日	・定期報告 ・呼吸ケアマニュアルについて
5	令和6年8月9日	・定期報告 ・エコキャスについて
6	令和6年9月13日	・定期報告 ・リンクナース活動の進捗状況について(定期報告事項)
7	令和6年10月11日	・定期報告 ・リハビリ用人工呼吸器マニュアルについて
8	令和6年11月8日	・定期報告
9	令和6年12月13日	・定期報告 ・今年度の反省と来年度に向けて
10	令和7年1月10日	・定期報告
11	令和7年2月14日	・定期報告
12	令和7年3月14日	・定期報告 ・HFNCについて

(3) 活動要約

専任の医師・看護師等からなるRSTコアチームを設置し、入院患者の人工呼吸器管理(人工呼吸器装着患者の安全管理、合併症予防、人工呼吸器離脱計画、呼吸リハビリテーション)を行なう。

- ・各部署における人工呼吸器装着患者の情報交換
- ・人工呼吸器に関するインシデントレポート報告、情報共有
- ・臨床工学科、呼吸療法認定士からの情報
- ・呼吸ケア・人工呼吸器に関する勉強会およびマニュアル作成について計画・実施

2. 呼吸ケアチーム加算

呼吸ケアチーム加算は、人工呼吸器を継続して装着している患者に対し、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士等が共同して、人工呼吸器離脱のために診療を行った際に算定できる加算である。

令和6年度実績:20件

42. 骨折リエゾンサービスチーム委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

脆弱性骨折患者に対し、さまざまな職種で連携を図りながら適正な薬物療法、栄養療法、運動療法を行うことで二次骨折を予防し、患者および地域の住民の生活機能を維持することを目的として令和5年4月1日発足した。

(2) 委員会体制

整形外科医師、歯科口腔外科医師、診療看護師、整形外科外来看護師、整形外科病棟看護師、地域包括ケア病棟看護師、薬剤師、診療放射線技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、社会福祉士（骨粗鬆症マネージャー5名含む）

(3) 施設基準

緊急整復固定加算、緊急挿入加算、二次性骨折予防継続管理料1, 2, 3

(4) 委員会開催記録

回	開催日
第1回	令和6年5月16日
第2回	令和6年7月18日
第3回	令和6年11月21日

回	開催日
第4回	令和7年1月16日
第5回	令和7年3月27日

(5) 活動要約

1. 委員会開催のほか、毎週木曜にコアメンバーが集まりケースカンファレンスを開催し、患者ごとの介入方針、骨粗鬆症薬の選定を行っている。

2. 骨粗鬆症外来では生活状況の調査、骨粗鬆症薬に関する相談・指導、運動指導、栄養指導を各職種が担当して行っている。

3. 介入対象の拡大

令和6年7月 椎体骨折入院患者追加

令和7年1月 上腕骨近位部骨折患者追加

4. 研修会・勉強会

9月19日 骨粗鬆症治療薬 イベニティ（アステラス製薬）

11月21日 介護施設の種類について（医事課 MSW中田純一）

12月5日 骨粗鬆症治療薬 オスタバロ オートインジェクター（帝人ファーマ）

2月18日 web研修 当院における骨粗鬆症教育入院について

（南魚沼市民病院 日比野 豊先生）

骨粗鬆症教育入院における自己注射指導（南魚沼市民病院 中俣 汝智先生）

2月20日 二次性骨折の予防を目指した骨粗鬆症の治療目標

（アステラス製薬 初村明徳氏）

3月13日 骨粗鬆症治療薬 テリパラチドBS皮下注キット600 μg「モチダ」

（科研製薬(株)、持田製薬(株)）

5. 学術活動・地域活動

- 令和6年6月26日 IOF, Capture the FractureのBronze Medal獲得。
- 令和6年10月11日～13日 第26回日本骨粗鬆症学会 ポスター発表
「介護施設にて受傷した大腿骨近位部骨折患者の経年変化」 診療看護師 村上光太郎
- 令和6年8月16日 院外連携施設対象アンケート調査実施 回答率83.8% (88/105施設)
「骨粗鬆症治療に関するアンケート調査(運動療法, 薬物療法, 栄養療法について)」

6. 広報・啓蒙活動

- FLS瓦版作成、院内配布

(6) 介入件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	大腿骨近位部骨折	5	8	3	3	5	6	6	8	6	12	7	12
	椎体骨折	0	0	2	3	3	5	9	5	3	7	2	6
	上腕骨近位部骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1

(7) 今後の展望

1. 骨粗鬆症マネージャーの資格取得者を増やす。(現在5名)
2. 介入対象を拡大しOLS活動を行なう。
3. 骨粗鬆症の国際的標準的治療推進のためIOF(国際骨粗鬆症財団)への登録と認定メダル獲得を目指す。
4. 地域住民の健康状態や患者のニーズに基づいたデータ収集を行い、日本骨粗鬆症学会で発表する。

43. 糖尿病対策委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

大館市立総合病院において、職員が行う糖尿病治療・糖尿病療養指導が高い質をもって適性に行われることを目的とする。

(2) 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	令和6年4月23日	<ul style="list-style-type: none">・今年度活動内容の確認と検討・今年度インスリンチームの目標と活動計画の周知・第5号「インスリン通信」発行・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討
2	令和6年5月28日	<ul style="list-style-type: none">・委員会要綱の共有と委員会名称変更の報告・インスリンガイドライン・リブレマニュアル作成の進捗確認・今年度病棟ラウンドの時期を決定・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討
3	令和6年6月5日 ～6日	<ul style="list-style-type: none">全病棟ラウンド(1回目)常備インスリン管理状況の確認インスリン点検表の使用状況の確認
4	令和6年6月25日	<ul style="list-style-type: none">・インスリンガイドラインの名称変更と承認・「インスリン使用に関する看護マニュアル」作成・第6号「インスリン通信」発行
5	令和6年7月	<ul style="list-style-type: none">・「持参インスリン管理表」と「冷蔵庫インスリン点検表」の修正と差し替え・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討
6	令和6年8月27日	<ul style="list-style-type: none">・全病棟ラウンド(2回目)バーコードラベルの管理方法の確認・「インスリン使用に関する看護マニュアル」追加修正
7	令和6年9月26日	<ul style="list-style-type: none">・「インスリン使用に関する看護マニュアル」内容の確認と共有・11月開催「おおだていきいきフェア」打ち合わせ・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討
8	令和6年10月29日	<ul style="list-style-type: none">・「インスリン使用に関する看護マニュアル」発行・第8号「インスリン通信」発行・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討
9	令和6年12月	第9号「インスリン通信」発行
10	令和7年1月28日	<ul style="list-style-type: none">・全病棟ラウンド(3回目)バーコードラベルの管理について 課題改善の確認・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討
11	令和7年2月27日	<ul style="list-style-type: none">・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討・第10号「インスリン通信」発行
12	令和7年3月27日	<ul style="list-style-type: none">・インシデントレポートの共有、分析及び対策の検討・次年度新人教育担当について

(3)研修講師

・新人研修

令和6年4月4日(木)10時30分～11時30分 第1会議室

「インスリンの基礎知識」「インスリンの注射方法」

対象:1年目入職者 1年目研修医

講師 薬剤科:鈴木 剛 看護部:若松 由里子

・出前研修

① 5病棟

令和6年7月11日(木)17時30分～18時

「インスリンの基礎知識・取り扱いと管理について」

講師 薬剤科:鈴木 剛

② 7病棟

令和7年8月22日(木)17時30分～18時

「GLP-1作動薬について」

講師 薬剤科:鈴木 剛

(4)院外活動

市民公開講座 おおだていきいきフェア

令和6年11月10日(日) 13時～15時

大館市北地区コミュニティーセンター 別館2F多目的室

11名参加:医師1名、薬剤師1名、看護師5名、管理栄養士2名、理学療法士1名、医事課1名

講師および相談対応

44. 訪問看護ステーション運営委員会

1. 委員会活動記録

(1) 活動目的

大館市立総合病院訪問看護ステーションの円滑な運営等に取り組むため、定期的な連絡協議を行う。

(2) 活動内容

回	開催日	内 容
1	令和6年4月26日	①委員会要綱 ②委員会名簿 ③現状報告 ④その他、鍵の取扱い
2	令和6年5月27日	①現状報告 ②新規利用者の受け入れについて ③その他、計画書報告書について
3	令和6年6月28日	①現状報告 ②インシデント報告 ③今後の委員会開催について ④その他、交通費について
4	令和6年12月27日	①実績報告 ②今後の活動について ③オンライン診療について
5	令和7年3月11日	①オンライン診療について ②勤務体系の変更について ③その他、重要事項説明書にハラスメント防止の追記

(3) 活動要約

- ・令和6年度は、5回委員会を開催した。
- ・運営委員会は、適宜開催とする。
- ・オンライン診療の試験運用を始める。

IV. 臨床統計

1. 年度別患者数

(入院)

年度	入院延べ患者数	1日平均 入院患者数	前年比較	対前年比率
令和2年度	95,373	261.3	▲ 9,993	90.5%
令和3年度	97,162	266.2	1,789	101.9%
令和4年度	96,191	263.5	▲ 971	99.0%
令和5年度	97,705	267.0	1,514	101.6%
令和6年度	105,621	289.4	7,916	108.1%

(外来)

年度	外来延べ患者数	1日平均 外来患者数	前年比較	対前年比率
令和2年度	226,760	933.2	▲ 11,912	95.0%
令和3年度	236,182	976.0	9,422	104.2%
令和4年度	234,630	965.6	▲ 1,552	99.3%
令和5年度	237,037	975.5	2,407	101.0%
令和6年度	239,360	985.0	2,323	101.0%

2. 診療科別・月別外来患者数(新患・再来計)

診療日数 243 日

単位:人

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	消化腫瘍	内代神	小兒科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	呼吸器外科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比
令和6年4月	552	1,345	2,399	2,079	952	1,083	1,037	1,481	686	527	2,038	2,742	1,111	518	327	0	238	699	19,814	19,266	548	
令和6年5月	538	1,273	2,279	2,041	1,064	1,057	1,066	1,471	657	496	2,121	2,812	1,105	479	307	0	213	687	19,666	18,933	733	
令和6年6月	555	1,243	2,415	1,985	943	999	1,048	1,362	665	474	2,136	2,625	1,134	530	290	1	217	678	19,300	20,520	▲ 1,220	
令和6年7月	589	1,296	2,658	2,128	1,153	1,082	1,179	1,695	747	541	2,209	2,807	1,280	523	454	0	247	751	21,339	19,676	1,663	
令和6年8月	584	1,264	2,344	1,884	1,226	1,113	1,149	1,581	656	499	2,069	2,771	1,321	493	389	0	246	667	20,256	20,698	▲ 442	
令和6年9月	549	1,277	2,480	1,878	955	1,004	1,094	1,553	622	456	2,143	2,661	1,144	499	251	0	251	689	19,506	19,659	▲ 153	
令和6年10月	550	1,354	2,779	2,055	1,033	1,149	1,207	1,691	703	486	2,225	2,833	1,252	512	262	2	370	783	21,246	20,476	770	
令和6年11月	579	1,280	2,557	1,887	1,019	1,088	1,137	1,555	650	490	2,025	2,743	1,179	476	277	0	273	752	19,967	19,758	209	
令和6年12月	542	1,312	2,589	2,064	1,156	1,046	1,079	1,515	668	522	2,160	2,787	1,246	516	360	0	265	725	20,552	20,080	472	
令和7年1月	552	1,264	2,342	1,986	969	1,056	1,071	1,430	606	472	2,057	2,781	1,193	495	246	1	233	663	19,417	19,149	268	
令和7年2月	524	1,198	2,053	1,853	953	964	1,399	570	408	1,959	2,487	1,049	430	247	0	210	650	17,917	18,624	▲ 707		
令和7年3月	561	1,193	2,550	1,977	1,064	1,061	974	1,555	636	486	2,323	2,919	1,258	561	312	1	237	712	20,380	20,198	182	
合 計	6,675	15,299	29,445	23,817	12,487	12,701	13,005	18,288	7,866	5,857	25,465	32,968	14,272	6,032	3,722	5	3,000	8,456	239,360	237,037	2,323	

1月当たりの 外来患者数	556.3	1,274.9	2,453.8	1,984.8	1,040.6	1,058.4	1,083.8	1,524.0	655.5	488.1	2,122.1	2,747.3	1,189.3	502.7	310.2	0.4	250.0	704.7	19,946.7	19,753.1	193.6
1日当たりの 外来患者数	27.5	63.0	121.2	98.0	51.4	52.3	53.5	75.3	32.4	24.1	104.8	135.7	58.7	24.8	15.3	0.0	12.3	34.8	985.0	975.5	9.5

3. 診療科別外来患者数(新患)

単位:人

診療日日数		243日																			
科別	呼吸器 内科	循環器 内科	消化器 内科	内代神 内科	小兒科	神経 精神科	外科	産婦人 科	眼科	耳鼻 咽喉科	整形 外科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経 外科	放射線 科	麻酔科	呼吸器 外科	歯科口 腔外科	計	前年度	前年 比較
診療月																					
令和6年4月	45	76	101	27	144	22	31	151	17	63	85	41	77	43	7	0	7	94	1,031	949	82
令和6年5月	29	53	98	29	203	32	33	157	18	44	86	41	93	43	12	0	6	101	1,078	1,082	▲ 4
令和6年6月	22	54	103	31	132	27	52	160	17	48	93	45	106	55	11	1	10	103	1,070	1,103	▲ 33
令和6年7月	42	51	136	33	190	34	50	186	15	64	97	56	129	42	21	0	19	116	1,281	1,153	128
令和6年8月	42	51	130	34	216	27	52	190	17	61	98	37	146	41	10	0	24	105	1,281	1,409	▲ 128
令和6年9月	27	51	145	22	132	20	44	153	17	38	92	49	86	49	12	0	14	108	1,059	1,119	▲ 60
令和6年10月	31	77	133	42	177	25	44	204	16	58	97	56	89	33	6	1	43	130	1,262	1,163	99
令和6年11月	33	67	124	29	183	27	53	200	13	52	81	42	77	44	8	0	17	122	1,172	1,110	62
令和6年12月	16	49	114	26	191	21	30	135	10	45	73	57	76	28	12	0	20	103	1,006	1,041	▲ 35
令和7年1月	36	61	90	31	151	18	34	118	17	47	88	42	87	28	9	0	10	121	988	1,085	▲ 97
令和7年2月	28	47	72	38	147	18	33	132	12	35	72	43	75	29	11	0	9	99	900	1,031	▲ 131
令和7年3月	19	43	93	24	144	27	31	118	12	40	66	39	86	34	10	1	13	110	910	1,096	▲ 186
合計	370	680	1,339	366	2,010	298	487	1,904	181	595	1,028	548	1,127	469	129	3	192	1,312	13,038	13,341	▲ 303
1月当たりの 外来患者数	30.8	56.7	111.6	30.5	167.5	24.8	40.6	158.7	15.1	49.6	85.7	45.7	93.9	39.1	10.8	0.3	16.0	109.3	1,086.5	1,111.8	▲ 25.3
1日当たりの 外来患者数	1.5	2.8	5.5	1.5	8.3	1.2	2.0	7.8	0.7	2.4	4.2	2.3	4.6	1.9	0.5	0.0	0.8	5.4	53.7	54.9	▲ 1.2

4. 診療科別外来患者数(再来)

診療日日数 243 日

単位:人

科別 診療月	呼吸器 内科	循環器 内科	消血管 内代神	小兒科	精神科 精神科	外科	産婦人 産婦科	眼科	耳鼻 咽喉科	整形 外科	泌尿器 科	皮膚科	脳神経 外科	放射線 科	麻酔科	吸盤器 外科	歯科口 腔外科	計	前年度	前年比 較
令和6年4月	507	1,269	2,298	2,052	808	1,061	1,006	1,330	669	464	1,953	2,701	1,034	475	320	0	231	605	18,783	18,317
令和6年5月	509	1,220	2,181	2,012	861	1,025	1,033	1,314	639	452	2,035	2,771	1,012	436	295	0	207	586	18,588	17,851
令和6年6月	533	1,189	2,312	1,954	811	972	996	1,202	648	426	2,043	2,580	1,028	475	279	0	207	575	18,230	19,417 ▲ 1,187
令和6年7月	547	1,245	2,522	2,095	963	1,048	1,129	1,509	732	477	2,112	2,751	1,151	481	433	0	228	635	20,058	18,523 1,535
令和6年8月	542	1,213	2,214	1,850	1,010	1,086	1,097	1,391	639	438	1,971	2,734	1,175	452	379	0	222	562	18,975	19,289 ▲ 314
令和6年9月	522	1,226	2,335	1,856	823	984	1,050	1,400	605	418	2,051	2,612	1,058	450	239	0	237	581	18,447	18,540 ▲ 93
令和6年10月	519	1,277	2,646	2,013	856	1,124	1,163	1,487	687	428	2,128	2,777	1,163	479	256	1	327	653	19,984	19,313 671
令和6年11月	546	1,213	2,433	1,858	836	1,061	1,084	1,355	637	438	1,944	2,701	1,102	432	269	0	256	630	18,795	18,648 147
令和6年12月	526	1,263	2,475	2,038	965	1,025	1,049	1,380	658	477	2,087	2,730	1,170	488	348	0	245	622	19,546	19,039 507
令和7年1月	516	1,203	2,252	1,955	818	1,038	1,037	1,312	589	425	1,969	2,739	1,106	467	237	1	223	542	18,429	18,064 365
令和7年2月	496	1,151	1,981	1,815	806	945	931	1,267	558	373	1,887	2,444	974	401	236	0	201	551	17,017	17,593 ▲ 576
令和7年3月	542	1,150	2,457	1,953	920	1,034	943	1,437	624	446	2,257	2,880	1,172	527	302	0	224	602	19,470	19,102 368
合計	6,305	14,619	28,106	23,451	10,477	12,403	12,518	16,384	7,685	5,262	24,437	32,420	13,145	5,563	3,593	2	2,808	7,144	226,322	223,696 2,626
1月当たりの 外来患者数	525.4	1,218.3	2,342.2	1,954.3	873.1	1,033.6	1,043.2	1,365.3	640.4	438.5	2,036.4	2,701.7	1,095.4	463.6	299.4	0.2	234.0	595.3	18,860.2	18,641.3 218.9
1日当たりの 外来患者数	25.9	60.2	115.7	96.5	43.1	51.0	51.5	67.4	31.6	21.7	100.6	133.4	54.1	22.9	14.8	0.0	11.6	29.4	931.4	920.6 10.8

5. 診療科別時間外・休日受付入院患者数

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	小児科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	内代神科	呼吸器外科	歯科口腔外科学科	計
令和6年4月	11	15	20	6	1	14	24	0	2	12	10	0	21	0	2	4	0	142
令和6年5月	3	20	25	3	3	17	18	0	2	7	11	0	24	0	4	3	0	140
令和6年6月	9	16	21	4	2	14	12	0		12	8	0	19	0	3	1	0	121
令和6年7月	7	11	20	8	3	8	1	0	3	7	5	0	19	0	2	3	0	97
令和6年8月	7	10	32	3	3	15	2	0	3	6	11	0	18	0	7	6	0	123
令和6年9月	11	13	31	4	2	12	7	0	1	15	6	0	14	0	2	2	0	120
令和6年10月	5	24	20	2	5	9	2	0	2	8	3	0	16	0	4	1	0	101
令和6年11月	8	17	24	5	2	17	2	0	4	7	2	0	21	0	1	5	1	116
令和6年12月	8	15	34	8	3	21	0	0		10	8	0	22	0	8	4	0	141
令和7年1月	10	21	32	11	6	14	4	0	1	20	7	0	18	0	4	2	0	150
令和7年2月	13	22	23	2	4	15	3	0	2	14	9	0	13	0	4	7	0	131
令和7年3月	7	14	24	4	4	12	4	0	5	13	7	0	19	0	6	4	0	123
合計	99	198	306	60	38	168	79	0	25	131	87	0	224	0	47	42	1	1,505
1月当たるの 入院患者数	8.3	16.5	25.5	5.0	3.2	14.0	6.6	0.0	2.1	10.9	7.3	0.0	18.7	0.0	3.9	3.5	0.1	125.4
1日当たるの 入院患者数	0.3	0.5	0.8	0.2	0.1	0.5	0.2	0.0	0.1	0.4	0.2	0.0	0.6	0.0	0.1	0.1	0.0	4.1

6. 診療科別時間外・休日受付外来患者数

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	消化器	小児科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	内代神	呼吸器外科	歯科口腔外科	計
令和6年4月	19	40	52	39	16	21	15	4	47	66	33	9	27	0	9	0	2	399	
令和6年5月	20	22	49	54	7	16	11	6	41	67	24	19	19	0	8	4	3	370	
令和6年6月	6	18	53	40	9	23	16	10	41	72	34	24	44	0	13	5	4	412	
令和6年7月	9	25	51	54	13	23	13	11	48	58	39	24	32	0	24	0	3	427	
令和6年8月	24	24	70	54	11	33	10	9	29	68	20	39	31	0	14	4	6	446	
令和6年9月	13	27	55	34	14	24	12	17	32	78	34	19	30	0	11	2	2	404	
令和6年10月	15	33	45	39	11	23	9	10	40	63	38	18	29	0	7	2	3	385	
令和6年11月	12	30	61	27	7	27	12	5	45	64	24	14	25	0	9	2	6	370	
令和6年12月	17	41	69	47	19	18	15	7	33	69	31	21	34	0	14	2	5	442	
令和7年1月	31	44	69	33	16	29	9	6	34	79	30	23	32	0	14	2	0	451	
令和7年2月	16	24	42	36	11	11	16	6	27	54	26	6	29	0	14	0	1	319	
令和7年3月	8	25	53	31	20	16	15	4	27	52	26	13	30	0	6	1	4	331	
合計	190	353	669	488	154	264	153	95	444	790	359	229	362	0	143	24	39	4,756	
1月当たりの 外来患者数	15.8	29.4	55.8	40.7	12.8	22.0	12.8	7.9	37.0	65.8	29.9	19.1	30.2	0.0	11.9	2.0	3.3	396.3	
1日当たりの 外来患者数	0.8	1.5	2.8	2.0	0.6	1.1	0.6	0.4	1.8	3.3	1.5	0.9	1.5	0.0	0.6	0.1	0.2	19.6	

7. 診療科別入院患者取扱状況

診療日数 (365日)

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	消化腫瘍	内代神	小兒科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比
令和6年4月	717	1,000	1,519	401	186	596	946	492	0	158	1,459	379	0	856	211	0	16	8,936	7,638	1,298
令和6年5月	695	855	1,404	279	150	590	761	571	0	162	1,318	472	0	769	207	0	36	8,259	8,047	212
令和6年6月	535	838	1,371	203	139	519	710	395	0	121	1,259	525	0	580	179	0	45	7,419	7,408	11
令和6年7月	545	760	1,542	207	142	648	626	689	0	88	1,366	539	0	720	170	0	51	8,093	7,767	326
令和6年8月	609	779	1,552	247	153	923	736	575	0	97	976	438	0	688	195	0	30	8,018	7,875	143
令和6年9月	682	734	1,734	165	129	669	937	545	0	92	1,186	580	0	555	223	0	20	8,251	8,119	132
令和6年10月	804	948	1,770	174	139	828	715	665	0	128	1,372	668	0	670	185	0	17	9,083	8,298	785
令和6年11月	792	1,053	1,554	197	144	612	991	472	0	191	1,306	442	0	771	204	0	46	8,775	8,419	356
令和6年12月	745	994	1,645	252	169	723	1,175	565	0	291	1,424	569	0	969	383	0	68	9,972	8,146	1,826
令和7年1月	786	1,127	1,652	301	162	705	960	501	0	268	1,535	485	0	898	284	0	48	9,712	8,745	967
令和7年2月	688	1,194	1,501	254	96	788	974	543	0	159	1,537	536	0	800	324	0	35	9,429	7,961	1,468
令和7年3月	715	1,045	1,515	327	89	983	1,059	594	0	115	1,605	458	0	897	231	0	41	9,674	9,282	392
計	8,313	11,327	18,759	3,007	1,698	8,584	10,590	6,607	0	1,860	16,343	6,091	0	9,173	2,796	0	473	105,621	97,705	7,916
前年度同期累計	5,261	10,764	17,881	3,462	1,981	8,877	9,964	6,721	0	1,723	14,180	5,413	0	9,261	2,061	0	156	97,705		
比較増減	3,052	563	878	▲ 455	▲ 283	293	626	▲ 114	0	137	2,163	678	0	▲ 88	735	0	317	7,916		
科轉成%	7.9	10.7	17.8	2.8	1.6	8.1	10.0	6.3	0.0	1.8	15.5	5.8	0.0	8.7	2.6	0.0	0.4	100.0		

8. 診療科別外来患者取扱状況

診療日数 (243日)

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	消化腫瘍	内代神	小兒科	神経精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比
令和6年4月	552	1,345	2,399	2,079	952	1,053	1,037	1,481	686	527	2,038	2,742	1,111	518	327	0	238	699	19,814	19,266
令和6年5月	538	1,273	2,279	2,041	1,064	1,057	1,066	1,471	657	496	2,121	2,812	1,105	479	307	0	213	687	19,666	18,933
令和6年6月	555	1,243	2,415	1,985	943	999	1,048	1,362	665	474	2,136	2,625	1,134	530	290	1	217	678	19,300	20,320
令和6年7月	589	1,296	2,658	2,128	1,153	1,082	1,179	1,685	747	541	2,209	2,807	1,280	523	454	0	247	751	21,339	19,676
令和6年8月	584	1,264	2,344	1,884	1,226	1,113	1,149	1,581	656	499	2,069	2,771	1,321	493	389	0	246	667	20,256	20,998
令和6年9月	549	1,277	2,450	1,878	955	1,004	1,094	1,553	622	456	2,143	2,661	1,144	499	251	0	251	689	19,506	19,659
令和6年10月	550	1,354	2,779	2,055	1,033	1,149	1,207	1,691	703	486	2,225	2,833	1,252	512	262	2	370	783	21,246	20,476
令和6年11月	579	1,280	2,557	1,887	1,019	1,088	1,137	1,555	650	490	2,025	2,743	1,179	476	277	0	273	752	19,967	19,758
令和6年12月	542	1,312	2,589	2,064	1,156	1,046	1,079	1,515	668	522	2,160	2,787	1,246	516	360	0	265	725	20,552	20,080
令和7年1月	552	1,264	2,342	1,986	969	1,056	1,071	1,430	606	472	2,057	2,781	1,193	495	246	1	233	663	19,417	19,149
令和7年2月	524	1,198	2,053	1,853	953	963	1,399	570	408	1,959	2,487	1,049	430	247	0	210	650	17,917	18,624	▲ 707
令和7年3月	561	1,193	2,550	1,977	1,064	1,061	974	1,555	636	486	2,323	2,919	1,258	561	312	1	237	712	20,380	20,198
計	6,615	15,299	29,445	23,817	12,487	12,701	13,005	18,288	7,866	5,857	25,465	32,968	14,272	6,032	3,722	5	3,000	8,456	239,360	237,937
前年度同期累計	6,078	14,302	27,257	23,873	13,212	12,674	12,853	18,109	8,331	6,540	25,822	33,584	13,634	6,395	3,906	1	2,928	7,538	237,037	前年比 101.0%
比較増減	597	997	2,188	▲ 56	▲ 725	27	152	179	▲ 465	▲ 683	▲ 357	638	▲ 616	▲ 184	4	72	918	2,323		
科轉成%	2.8	6.4	12.3	10.0	5.2	5.3	5.4	7.6	3.3	2.4	10.6	13.8	6.0	2.5	1.6	0.0	1.3	3.5	100.0	

単位：人

9. 診療科別1日平均入院患者数

診療日数
(366日)

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	消化腫瘍	内代神	小兒科	精神科	精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	呼吸器外科	放射線科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比
令和6年4月	23.9	33.3	50.6	13.4	6.2	19.9	31.5	16.4	0.0	5.3	48.6	12.6	0.0	28.5	7.0	0.0	0.5	297.9	270.4	27.5		
令和6年5月	22.4	27.6	45.3	9.0	4.8	19.0	24.5	18.4	0.0	4.9	42.5	15.2	0.0	24.8	6.7	0.0	1.2	266.4	271.3	▲ 4.9		
令和6年6月	17.8	27.9	45.7	6.8	4.6	17.3	23.7	13.2	0.0	4.0	42.0	17.5	0.0	19.3	6.0	0.0	1.5	247.3	277.8	▲ 30.5		
令和6年7月	17.6	24.5	49.7	6.7	4.6	20.9	20.2	22.2	0.0	2.8	44.1	17.4	0.0	23.2	5.5	0.0	1.6	261.1	281.0	▲ 19.9		
令和6年8月	19.6	25.1	50.1	8.0	4.9	29.8	23.7	18.5	0.0	3.1	31.5	14.1	0.0	22.2	6.3	0.0	1.6	258.6	235.6	23.0		
令和6年9月	22.7	24.5	57.8	5.5	4.3	22.3	31.2	18.2	0.0	3.1	39.5	19.3	0.0	18.5	7.4	0.0	0.7	275.0	229.4	45.6		
令和6年10月	25.9	30.6	57.1	5.6	4.5	26.7	23.1	21.5	0.0	4.1	44.3	21.5	0.0	21.6	6.0	0.0	0.5	293.0	250.6	42.4		
令和6年11月	26.4	35.1	51.8	6.6	4.8	20.4	33.0	15.7	0.0	6.4	43.5	14.7	0.0	25.7	6.8	0.0	1.5	292.5	264.6	27.9		
令和6年12月	24.0	32.1	53.1	8.1	5.5	23.3	37.9	18.2	0.0	9.4	45.9	18.4	0.0	31.3	12.4	0.0	2.2	321.7	273.6	48.1		
令和7年1月	25.4	36.4	53.3	9.7	5.2	22.7	31.0	16.2	0.0	8.6	49.5	15.6	0.0	29.0	9.2	0.0	1.5	313.3	267.2	46.1		
令和7年2月	24.6	42.6	53.6	9.1	3.4	28.1	34.8	19.4	0.0	5.7	54.9	19.1	0.0	28.6	11.6	0.0	1.3	336.8	279.7	57.1		
令和7年3月	23.1	33.7	48.9	10.5	2.9	31.7	34.2	19.2	0.0	3.7	51.8	14.8	0.0	28.9	7.5	0.0	1.3	312.1	262.3	49.8		
計+		22.8	31.0	51.4	8.2	4.7	23.5	29.0	18.1	0.0	5.1	44.8	16.7	0.0	25.1	7.7	0.0	1.3	289.4	263.5	25.9	
前年度同期累計		28.1		49.0	12.1	4.9	24.2	26.1	20.5	0.0	4.2	38.2	20.8	0.0	25.5	9.6	0.0	0.3	263.5			
前年比		25.7		2.4	▲ 3.9	▲ 0.2	▲ 0.7	2.9	▲ 4.1	0.0	0.9	6.6	▲ 4.1	0.0	▲ 0.4	▲ 1.9	0.0	1.0	25.9			

10. 診療科別1日平均外来患者数

診療日数
(243日)

診療月	科別	呼吸器内科	循環器内科	消化腫瘍	内代神	小兒科	精神科	精神科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	放射線科	呼吸器外科	歯科口腔外科	計	前年度	前年比
令和6年4月	26.3	64.0	114.2	99.0	45.3	51.6	49.4	70.5	32.7	25.1	97.0	130.6	52.9	24.7	15.6	0.0	11.3	33.3	943.5	958.4	▲ 14.8	
令和6年5月	25.6	60.6	108.5	97.2	50.7	50.3	50.8	70.0	31.3	23.6	101.0	133.9	52.6	22.8	14.6	0.0	10.1	32.7	936.5	982.3	▲ 45.8	
令和6年6月	27.8	62.2	120.8	99.3	47.2	50.0	52.4	68.1	33.3	23.7	106.8	131.3	56.7	26.5	14.5	0.1	10.9	33.9	965.0	936.3	28.7	
令和6年7月	26.8	58.9	120.8	96.7	52.4	49.2	33.6	77.0	34.0	24.6	100.4	127.6	58.2	23.8	20.6	0.0	11.2	34.1	970.0	980.4	▲ 10.4	
令和6年8月	27.8	60.2	111.6	89.7	58.4	53.0	34.7	75.3	31.2	23.8	98.5	132.0	62.9	23.5	18.5	0.0	11.7	31.8	964.6	925.9	38.7	
令和6年9月	28.9	67.2	130.5	98.8	50.3	52.8	57.6	81.7	32.7	24.0	112.8	140.1	60.2	26.3	13.2	0.0	13.2	36.3	1,026.6	970.1	56.6	
令和6年10月	25.0	61.5	126.3	93.4	47.0	52.2	54.9	76.9	32.0	22.1	101.1	128.8	56.9	23.3	11.9	0.1	16.8	35.6	965.7	955.5	10.2	
令和6年11月	29.0	64.0	127.9	94.4	51.0	54.4	56.9	77.8	32.5	24.5	101.3	137.2	59.0	23.8	13.9	0.0	13.7	37.6	998.4	951.1	47.3	
令和6年12月	27.1	65.6	129.5	103.2	57.8	52.3	54.0	75.8	33.4	26.1	108.0	139.4	62.3	25.8	18.0	0.0	13.3	36.3	1,027.6	1,000.9	26.7	
令和7年1月	29.1	66.5	123.3	104.5	51.0	55.6	56.4	75.3	31.9	24.8	108.3	146.4	62.8	26.1	12.9	0.1	12.3	34.9	1,021.9	992.2	29.8	
令和7年2月	29.1	66.6	114.1	102.9	52.9	53.5	53.6	77.7	31.7	22.7	108.8	138.2	58.3	23.9	13.7	0.0	11.7	36.1	995.4	953.4	42.0	
令和7年3月	28.1	59.7	127.5	98.9	53.2	53.1	48.7	77.8	31.8	24.3	116.2	146.0	62.9	28.1	15.6	0.1	11.9	35.6	1,019.0	986.8	32.2	
計+	27.5	63.0	121.2	98.0	51.4	52.3	53.5	75.3	32.4	24.1	104.8	135.7	58.7	24.8	15.3	0.0	12.3	34.8	985.0	965.6	19.5	
前年度同期累計	7.2	109.9	109.1	52.7	51.9	58.0	76.4	34.5	29.2	109.1	120.3	57.9	25.8	15.4	0.1	0.1	28.2	965.6				
前年比	18.3	11.3	▲ 11.1	0.4	▲ 4.5	▲ 1.2	▲ 1.3	0.4	▲ 2.1	▲ 5.1	▲ 4.3	15.4	0.9	▲ 1.0	▲ 0.1	▲ 15.0	12.3	6.6	19.5			

11. 年度別外来紹介患者数・紹介率

<許可病床数が400床以上である病院>

患者数	年度						過去5年間 の合計	過去5年間 の平均
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
①初診患者の数	12,721	14,919	18,103	14,648	14,368	74,759	14,952	
②再診患者の数			217,376	224,737	226,295	668,408	217,376	
③救急、自動車での搬送患者の数			2,722	2,911	2,933	8,566	2,722	
④③のうち初診に限る患者数	1,135	1,289	1,386	1,494	1,434	6,738	1,348	
⑤休日・夜間受診の救急患者数			6,402	6,512	6,018	18,932	6,402	
⑥⑤のうち初診に限る患者数			2,809	2,894	2,869	8,572	2,809	
⑦文書により紹介された患者数	3,602	3,190	3,245	4,070	3,954	18,061	3,612	
紹介率	37.2%	30.0%	33.3%	54.2%	53.5%		41.7%	
参考:初診患者数 に占める 文書紹介の割合	28.3%	21.4%	17.9%	27.8%	27.5%		24.6%	
	救急搬送の割合	8.9%	8.6%	7.7%	10.2%	10.0%	9.1%	
⑧診療情報提供料	4,230	3,563	5,076	4,747	5,540	23,156	4,631	
逆紹介率	33.3%	23.9%	22.4%	20.6%	23.9%		24.8%	

* 令和3年度までは外来初診患者数により算出

$$\text{紹介率算出式} = \frac{\textcircled{4} + \textcircled{7}}{\textcircled{1} - (\textcircled{4} + \textcircled{6})} \times 100 \quad \text{逆紹介率算出式} = \frac{\textcircled{8}}{\textcircled{1} + \textcircled{2} - (\textcircled{3} + \textcircled{5})} \times 1000$$

12. 紹介率・逆紹介率

<許可病床数が400床以上である病院>

		月												計													
		患者数												平均													
		(外来)		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
①	初診患者の数	(外来)		1,031	1,078	1,070	1,281	1,059	1,262	1,172	1,006	988	900	910	13,038	1,087	(入院)		111		101		1,330		111		
	計	1,156		1,180	1,170	1,395	1,373	1,168	1,371	1,290	1,122	1,121	1,011	1,011	14,368	1,197											
	② 再診の患者の数	18,783		18,588	18,230	20,058	18,948	18,447	19,984	18,795	19,546	18,429	17,017	19,470	226,295	18,858											
③	救急自動車での搬送患者の数(全体)(初診に限る)	125		96	114	132	130	104	113	133	129	146	112	100	1,434	120											
	休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る)	210		239	248	250	287	249	212	219	270	285	202	198	2,869	239											
	救急自動車での搬送患者の数(全体)(再診に限る)	130		91	103	132	130	120	120	121	163	142	126	121	1,499	125											
⑥	休日又は夜間に受診した救急患者数(再診に限る)	302		262	261	253	282	249	275	224	280	295	232	234	3,149	262											
	文書により紹介(外来)	288		282	269	360	270	274	333	293	293	256	255	278	3,451	288											
	⑦ された患者の数(入院)	46		29	51	42	36	40	44	45	44	58	28	40	503	42											
⑧	計	334		311	320	402	306	314	377	338	337	314	283	318	3,954	330											
	紹介率	55.9%		48.2%	53.7%	52.7%	45.6%	51.3%	46.8%	50.2%	64.5%	66.7%	56.7%	58.6%	53.5%												
	逆紹介率	22.6%		25.7%	24.2%	23.2%	22.5%	22.5%	24.9%	23.6%	23.9%	26.6%	25.3%	22.1%	23.9%												
参考:	文書紹介の割合	28.9%		26.4%	27.4%	28.8%	22.3%	26.9%	27.5%	26.2%	30.0%	28.0%	28.0%	31.5%	27.5%												
	初診患者数に占める 救急搬送の割合	10.8%		8.1%	9.7%	9.5%	9.5%	8.9%	8.2%	10.3%	11.5%	13.0%	11.1%	9.9%	10.0%												
	⑨ 診療情報提供料(外来)	434		491	452	479	438	426	514	458	473	497	439	439	5,540	462											
⑩	情報提供数／紹介患者数	129.9%		157.9%	141.3%	119.2%	143.1%	135.7%	136.3%	135.5%	140.4%	158.3%	155.1%	138.1%	140.1%												
	紹介患者(⑦) + 救急患者(③)			初診の患者数(①-(③+④))		× 100		紹介率算出式(地域医療支援病院) =		$\frac{\text{紹介患者(⑦) + 救急患者(③)}}{\text{初診の患者数(①-(③+④))}} \times 100$																	
	逆紹介率算出式			$\frac{\text{紹介患者(⑦) + 救急患者(③)}}{\text{(①-(③+④))+(再来の患者数(②-(⑤+⑥)))}} \times 1000$																							

$$\text{紹介率} = \frac{\text{紹介患者(⑦) + 救急患者(③)}}{\text{初診の患者数(①-(③+④))}} \times 100$$

$$\text{逆紹介率} = \frac{\text{紹介患者(⑦) + 救急患者(③)}}{\text{(①-(③+④))+(再来の患者数(②-(⑤+⑥)))}} \times 1000$$

13. 病棟稼働状況及び病床利用率

稼働日数	有効病床数	5病棟	6病棟	7病棟	8病棟	9病棟	11病棟	地域包括 ケア病棟	結核	精神科	合計	一般病棟	感染症	
		52	54	53	55	56	48	59	6	60	443	316	2	
令和6年4月	患者延日数	777.0	1,170.0	1,420.0	1,156.0	1,350.0	1,031.0	1,319.0	117.0	596.0	8,936.0	6,904.0	0.0	
	病床利用率	49.8%	72.2%	89.3%	70.1%	80.4%	71.6%	74.5%	65.0%	33.1%	67.2%	72.8%	0.0%	
令和6年5月	患者延日数	803.0	1,060.0	1,158.0	1,152.0	1,289.0	1,009.0	1,204.0	14.0	590.0	8,259.0	6,451.0	0.0	
	病床利用率	49.8%	63.3%	70.5%	67.6%	73.1%	67.8%	65.8%	7.5%	31.7%	60.1%	65.9%	0.0%	
令和6年6月	患者延日数	600.0	950.0	1,168.0	1,005.0	1,205.0	941.0	1,020.0	11.0	519.0	7,419.0	5,869.0	0.0	
	病床利用率	38.5%	58.6%	73.5%	60.9%	71.7%	65.3%	57.6%	6.1%	28.8%	55.8%	61.9%	0.0%	
令和6年7月	患者延日数	874.0	785.0	1,164.0	1,003.0	1,336.0	929.0	1,259.0	5.0	648.0	8,093.0	6,181.0	0.0	
	病床利用率	54.2%	46.9%	70.8%	64.1%	77.0%	62.4%	68.8%	2.7%	34.8%	58.9%	63.1%	0.0%	
令和6年8月	患者延日数	706.0	889.0	1,185.0	999.0	1,230.0	984.0	939.0	73.0	923.0	8,018.0	6,083.0	0.0	
	病床利用率	49.4%	53.1%	72.1%	58.6%	70.9%	66.1%	51.3%	39.2%	49.6%	58.4%	62.1%	0.0%	
令和6年9月	患者延日数	794.0	886.0	1,242.0	1,118.0	1,416.0	931.0	1,146.0	49.0	669.0	8,251.0	6,387.0	0.0	
	病床利用率	50.9%	54.7%	78.1%	67.8%	84.3%	64.3%	64.7%	27.2%	37.2%	62.1%	67.4%	0.0%	
令和6年10月	患者延日数	893.0	1,015.0	1,289.0	1,279.0	1,479.0	986.0	1,274.0	40.0	828.0	9,083.0	6,941.0	0.0	
	病床利用率	55.4%	60.6%	78.5%	75.0%	85.2%	66.3%	69.7%	21.5%	44.5%	66.1%	70.9%	0.0%	
令和6年11月	患者延日数	787.0	1,118.0	1,288.0	1,228.0	1,339.0	1,077.0	1,269.0	57.0	612.0	8,775.0	6,837.0	0.0	
	病床利用率	50.4%	69.0%	81.0%	74.4%	79.7%	74.8%	71.7%	31.7%	34.0%	66.0%	72.1%	0.0%	
令和6年12月	患者延日数	959.0	1,115.0	1,472.0	1,455.0	1,466.0	1,223.0	1,420.0	79.0	723.0	9,972.0	7,750.0	0.0	
	病床利用率	59.5%	70.2%	89.6%	85.3%	84.4%	82.2%	77.6%	42.5%	38.9%	72.6%	79.1%	0.0%	
令和7年1月	患者延日数	888.0	1,142.0	1,483.0	1,343.0	1,512.0	1,221.0	1,332.0	86.0	705.0	9,712.0	7,589.0	0.0	
	病床利用率	55.1%	68.2%	90.3%	78.8%	87.1%	82.1%	72.8%	46.2%	37.9%	70.7%	77.5%	0.0%	
令和7年2月	患者延日数	909.0	1,149.0	1,385.0	1,258.0	1,372.0	1,179.0	1,334.0	55.0	788.0	9,429.0	7,252.0	0.0	
	病床利用率	0.6	76.0%	93.3%	81.7%	87.5%	87.7%	80.8%	32.7%	46.9%	76.0%	82.0%	0.0%	
令和7年3月	患者延日数	873.0	1,172.0	1,495.0	1,253.0	1,397.0	1,079.0	1,389.0	33.0	983.0	9,674.0	7,269.0	0.0	
	病床利用率	54.2%	70.0%	91.0%	73.5%	80.5%	72.5%	75.9%	17.7%	52.8%	70.4%	74.2%	0.0%	
合計	延べ 稼働日数	患者延日数	9,953.0	12,511.0	15,749.0	14,339.0	16,371.0	12,590.0	14,905.0	619.0	8,584.0	105,621.0	81,513.0	0.0
	365	病床利用率	52.4%	63.5%	81.4%	71.4%	80.1%	71.9%	69.2%	28.3%	39.2%	65.3%	70.7%	0.0%

14. 年度別科別平均在院日数

診療科名	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
呼吸器内科	13.0	12.9	13.2	13.0	15.3
循環器内科				16.2	15.3
消化器	12.8	12.3	14.3	13.9	13.4
内代神	13.8	14.6	17.8	19.7	19.2
小児科	5.8	7.1	5.0	5.6	4.9
神経精神科	50.7	44.9	49.9	49.4	47.2
外科	14.5	13.3	13.3	13.3	13.0
産婦人科	5.7	5.6	6.0	6.3	6.3
眼科	—	—	—	—	—
耳鼻咽喉科	7.8	8.9	6.7	6.3	7.6
整形外科	26.8	25.9	28.0	27.6	29.3
泌尿器科	10.3	11.0	10.5	8.5	10.0
皮膚科	—	—	—	—	—
脳神経外科	15.0	16.5	17.5	15.8	16.0
放射線科	—	—	—	—	—
麻酔科	—	—	—	—	—
呼吸器外科	7.3	7.6	7.5	6.5	7.1
歯科口腔外科	6.4	3.7	3.1	3.3	5.0

※地域包括ケア病棟を除いた一般病棟における診療科別の実績(眼科は除く)

15. 年齢別入院患者分析表

入院患者数(延べ患者数)

年齢	R6.4月	R6.5月	R6.6月	R6.7月	R6.8月	R6.9月	R6.10月	R6.11月	R6.12月	R7.1月	R7.2月	R7.3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	170	151	145	185	129	138	107	149	134	110	112	1,652	138	1.6%	
2歳～6歳未満	52	47	33	21	37	18	13	32	17	45	33	17	365	30	0.3%
6歳～10歳未満	27	31	32	19	12	31	36	22	28	26	7	6	277	23	0.3%
10歳代	44	10	20	11	41	64	84	57	70	60	46	31	538	45	0.5%
20歳代	178	224	122	190	199	154	178	112	180	155	57	100	1,849	154	1.7%
30歳代	299	231	167	365	299	223	277	258	288	246	308	431	3,392	283	3.2%
40歳代	194	193	199	231	160	151	198	260	291	370	296	277	2,820	235	2.7%
50歳代	589	662	561	513	328	304	393	423	534	528	636	557	6,028	502	5.7%
60歳代	1,235	1,071	1,028	1,229	1,099	1,237	1,305	1,221	1,482	1,231	1,389	1,405	14,932	1,244	14.1%
70歳代	2,447	2,232	1,966	2,106	2,224	1,986	2,137	2,328	2,743	2,438	2,346	2,391	27,344	2,279	25.9%
80歳代	2,372	2,316	2,206	2,226	2,211	2,573	2,894	2,587	2,646	2,996	2,876	2,812	30,715	2,560	29.1%
90歳代	1,262	1,015	817	953	1,250	1,378	1,405	1,313	1,538	1,467	1,325	1,501	15,224	1,269	14.4%
100歳以上	67	76	123	44	29	10	25	55	6	16	0	34	485	40	0.5%
合計	8,936	8,259	7,419	8,093	8,018	8,251	9,083	8,775	9,972	9,712	9,429	9,674	105,621	8,802	100.0%

入院患者数(実患者数)

年齢	R6.4月	R6.5月	R6.6月	R6.7月	R6.8月	R6.9月	R6.10月	R6.11月	R6.12月	R7.1月	R7.2月	R7.3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	28	29	26	34	22	25	29	18	25	23	24	23	306	26	2.9%
2歳～6歳未満	5	7	8	6	6	4	4	9	3	8	8	5	73	6	0.7%
6歳～10歳未満	4	6	6	3	3	5	4	5	6	5	2	3	52	4	0.5%
10歳代	7	3	5	4	10	8	9	4	11	10	8	8	87	7	0.8%
20歳代	22	29	19	30	23	26	27	16	23	20	14	16	265	22	2.6%
30歳代	42	27	29	49	46	34	40	34	38	32	40	51	462	39	4.4%
40歳代	78	98	82	94	88	73	100	106	95	75	31	111	1,088	86	10.5%
50歳代	50	51	57	62	43	47	46	49	55	51	62	61	634	53	6.1%
60歳代	126	121	116	123	99	119	128	134	126	121	137	134	1,484	124	14.3%
70歳代	219	187	198	191	184	209	224	245	216	215	207	207	2,486	207	23.9%
80歳代	189	181	172	192	178	204	228	200	223	224	206	202	2,420	202	23.2%
90歳代	91	68	53	71	83	93	95	90	105	92	83	99	1,023	85	9.8%
100歳以上	4	3	8	5	2	1	2	3	1	1	0	3	33	3	0.3%
合計	865	810	779	864	794	823	921	892	956	878	947	927	10,413	863	100.0%

16. 年齢別外来患者分析表

外来患者数(延べ患者数)

年齢	R6.4月	R6.5月	R6.6月	R6.7月	R6.8月	R6.9月	R6.10月	R6.11月	R6.12月	R7.1月	R7.2月	R7.3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	336	333	274	351	366	295	287	277	270	249	268	240	3,546	296	1.5%
2歳～6歳未満	276	304	271	326	360	310	318	332	337	254	286	315	3,689	307	1.5%
6歳～10歳未満	249	264	244	302	310	210	261	271	306	249	204	287	3,157	263	1.3%
10歳代	531	509	553	650	698	523	607	550	653	622	528	716	7,140	595	3.0%
20歳代	549	570	529	579	609	581	574	561	538	552	539	572	6,753	563	2.8%
30歳代	850	910	908	1,039	979	953	983	924	961	937	842	1,000	11,286	941	4.7%
40歳代	1,239	1,255	1,196	1,384	1,330	1,239	1,310	1,249	1,336	1,286	1,269	1,292	15,385	1,282	6.4%
50歳代	1,976	1,985	1,922	2,225	2,015	2,021	2,116	1,904	2,105	1,956	1,891	2,097	24,213	2,018	10.1%
60歳代	3,376	3,347	3,541	3,768	3,597	3,363	3,758	3,522	3,547	3,443	3,181	3,411	41,854	3,488	17.5%
70歳代	5,364	5,247	5,033	5,632	5,183	4,999	5,688	5,408	5,503	5,110	4,548	5,327	63,042	5,254	26.3%
80歳代	4,184	4,076	3,910	4,240	3,993	4,115	4,387	4,052	3,980	3,874	3,541	4,151	48,503	4,042	20.3%
90歳代	877	857	910	837	802	890	946	904	1,008	875	805	955	10,666	889	4.5%
100歳以上	7	9	9	6	14	7	11	13	8	10	15	17	126	11	0.1%
合計	19,814	19,666	19,300	21,339	20,256	19,506	21,246	19,967	20,552	19,417	17,917	20,380	239,360	19,947	100.0%

外来患者数(実患者数)

年齢	R6.4月	R6.5月	R6.6月	R6.7月	R6.8月	R6.9月	R6.10月	R6.11月	R6.12月	R7.1月	R7.2月	R7.3月	合計	月平均	比率
0～2歳未満	231	219	186	213	243	201	200	194	178	169	183	150	2,367	197	1.9%
2歳～6歳未満	199	215	188	211	253	199	211	230	249	184	198	228	2,565	214	2.0%
6歳～10歳未満	171	188	167	215	232	157	194	197	228	194	167	211	2,321	193	1.8%
10歳代	372	353	374	434	499	377	406	378	468	453	370	515	4,999	417	3.9%
20歳代	343	335	342	362	382	363	355	349	335	346	338	348	4,198	350	3.3%
30歳代	543	578	592	614	608	594	607	580	623	575	533	605	7,052	588	5.6%
40歳代	770	775	744	812	806	776	805	774	796	760	754	769	9,341	778	7.3%
50歳代	1,084	1,053	1,060	1,145	1,070	1,115	1,064	1,177	1,060	994	1,143	1,082	1,090	1,030	1.03%
60歳代	1,606	1,590	1,671	1,704	1,646	1,624	1,765	1,673	1,690	1,624	1,521	1,676	19,790	1,649	15.5%
70歳代	2,616	2,575	2,571	2,642	2,587	2,621	2,740	2,594	2,684	2,525	2,291	2,640	31,086	2,591	24.4%
80歳代	2,076	2,045	2,026	2,109	2,022	2,064	2,012	2,003	1,952	1,813	2,070	24,356	2,030	19.1%	
90歳代	525	480	528	502	488	528	550	513	546	483	452	554	6,149	512	4.8%
100歳以上	5	5	9	3	6	5	6	11	7	3	9	10	79	7	0.1%
合計	10,541	10,411	10,458	10,966	10,842	10,624	11,120	10,560	10,993	10,328	9,623	10,919	127,385	10,615	100.0%

17. 診療科別・病棟別平均在院日数

R6年度平均在院日数

[科別在院日数] 一般病床

科別	呼吸内	循環内	消血腫	内代神	小兒科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	呼吸器外科	歯科口腔外科	一般病床 +結核病床	精神
在院数	7,345	9,385	15,407	2,744	1,400	7,417	5,715	0	1,558	10,724	5,259	0	6,529	2,431	382	76,296	8,408
新入院	501	645	1,189	150	269	589	910	0	206	415	542	0	458	339	77	6,290	180
退院	458	578	1,113	136	298	550	892	0	203	318	515	0	356	344	75	5,836	176
平均在院日数	15.3	15.3	13.4	19.2	4.9	13.0	6.3		7.6	29.3	10.0		16.0	7.1	5.0	12.6	47.2

[科別在院日数] 地域包括ケア病床

科別	呼吸内	循環内	消血腫	内代神	小兒科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	呼吸器外科	歯科口腔外科	地域包括 ケア病床
在院数	467	1,282	1,697	119	0	2,377	0	0	91	5,110	283	0	2,173	19	12	13,630
新入院	2	21	480	0	0	182	0	0	8	94	12	0	13	0	3	815
退院	43	82	542	8	0	246	0	0	8	191	34	0	115	2	4	1,275
平均在院日数	20.8	24.9	3.3	29.8		11.1			11.4	35.9	12.3		34.0	19.0	3.4	13.0

[病棟別在院日数]

病棟別	第5病棟	第6病棟	第7病棟	第8病棟	第9病棟	第11病棟 一般	一般病棟 合計	地域包括 ケア病棟	結核 病棟	精神科 病棟	合計
在院数	8,629	11,660	15,115	13,299	15,270	11,735	75,708	13,630	588	8,408	98,334
新入院	1,286	952	764	1,177	1,178	880	6,237	815	53	180	7,285
退院	1,324	851	634	1,040	1,101	855	5,805	1,275	31	176	7,287
平均在院日数	6.6	12.9	21.6	12.0	13.4	13.5	12.6	13.0	14.0	47.2	13.5
											12.6

18. 分娩件数

年月	分娩件数				出生数	双子数	死産	
	自然分娩	吸引分娩 鉗子分娩	骨盤位分娩 (経脣)	帝王切開				
令和6年4月	30	25	2	0	3	30	0	0
令和6年5月	30	23	1	0	6	32	2	0
令和6年6月	16	13	1	0	2	16	0	0
令和6年7月	35	28	3	0	4	34	0	1
令和6年8月	33	25	1	0	7	32	0	0
令和6年9月	31	26	1	0	4	31	0	0
令和6年10月	30	18	1	0	11	30	1	1
令和6年11月	18	13	1	0	4	18	0	0
令和6年12月	32	25	1	0	6	32	0	0
令和7年1月	17	13	1	0	3	17	0	0
令和7年2月	28	20	3	0	5	28	0	0
令和7年3月	32	29	0	0	3	31	0	1
合計	332	258	16	0	58	331	3	3

19. 外来化学療法件数

区分 診療月	外来腫瘍化学療法 診療料1(抗悪性腫瘍剤を投与した場合)	外来腫瘍化学療法 診療料1(抗悪性腫瘍剤の投与その他必要な治療管理を行った場合)	外来腫瘍化学療法 診療料1(抗悪性腫瘍剤を投与した場合)(初回から3回目まで)	外来腫瘍化学療法 診療料1(抗悪性腫瘍剤を投与した場合)(4回目以降)	外来腫瘍化学療法 診療料1(抗悪性腫瘍剤の投与以外の必要な治療管理を行った場合)	外来化学療法加算1 (15歳以上の患者の場合)
令和6年4月	274	132				18
令和6年5月	294	141				22
令和6年6月			281	3	102	19
令和6年7月			296	1	115	18
令和6年8月			284	4	124	24
令和6年9月			252	2	108	24
令和6年10月			287	7	144	20
令和6年11月			269	5	126	20
令和6年12月			255	3	111	20
令和7年1月			293	1	110	17
令和7年2月			273	0	105	19
令和7年3月			292	2	120	17
合計	568	273	2,782	28	1,165	238
1月あたりの算定件数	284.0	136.5	278.2	2.8	116.5	19.8
1日あたりの算定件数 (診療日数243日)	13.5	6.5	13.8	0.1	5.8	1.0

※令和6年6月より診療報酬改定に伴い算定基準変更

20. 年度別麻酔件数

年度	全身麻酔	全身麻酔+硬膜外麻酔	硬膜外麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施件数	1日平均麻酔実施件数	診療日実日数
平成27年度	973	12	2	280	61	0	1,422	2	2,752	7.5	366
平成28年度	921	7	1	267	61	0	1,454	0	2,711	7.4	365
平成29年度	941	14	1	277	102	3	1,392	1	2,731	7.5	365
平成30年度	919	4	2	280	100	2	1,537	10	2,854	7.8	365
令和元年度	999	3	0	323	101	10	1,602	6	3,044	8.3	366
令和2年度	925	3	2	327	89	3	1,383	3	2,731	7.5	365
令和3年度	836	0	4	334	77	15	1,240	11	2,517	6.9	365
令和4年度	672	16	0	382	74	1	630	0	1,775	4.9	365
令和5年度	753	22	0	370	61	1	625	0	1,832	5.0	366
令和6年度	815	24	0	358	83	0	476	0	1,756	4.8	365

21. 月別麻酔件数

区分 診療月	全身麻酔	全身麻酔+ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数
令和6年4月	74	0	0	24	10	0	42	0	150
令和6年5月	72	0	0	25	6	0	38	0	141
令和6年6月	67	0	0	29	4	0	30	0	130
令和6年7月	63	2	0	25	6	0	44	0	140
令和6年8月	56	3	0	27	5	0	38	0	129
令和6年9月	67	4	0	25	5	0	42	0	143
令和6年10月	69	3	0	41	11	0	38	0	162
令和6年11月	79	2	0	29	5	0	40	0	155
令和6年12月	75	3	0	30	6	0	30	0	144
令和7年1月	68	2	0	45	12	0	44	0	171
令和7年2月	65	5	0	34	6	0	32	0	142
令和7年3月	60	0	0	24	7	0	58	0	149
合計	815	24	0	358	83	0	476	0	1,756
1月あたりの算定件数	67.9	2.0	0.0	29.8	6.9	0.0	39.7	0.0	146.3
1日あたりの算定件数 (診療日数365日)	2.2	0.1	0.0	1.0	0.2	0.0	1.3	0.0	4.8

22. 診療科別麻酔件数

区分 診療月	全身麻酔	全身麻酔+ 硬膜外麻酔	硬膜外 麻酔	脊椎麻酔	伝達麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	その他	麻酔実施 件数
外科	376	0	0	31	0	0	182	0	589
産婦人科	107	0	0	93	0	0	4	0	204
整形外科	99	0	0	135	75	0	63	0	372
脳神経外科	16	0	0	0	0	0	47	0	63
泌尿器科	21	0	0	99	8	0	82	0	210
耳鼻咽喉科	84	0	0	0	0	0	34	0	118
眼科	0	0	0	0	0	0	61	0	61
歯科口腔外科	58	0	0	0	0	0	2	0	60
呼吸器外科	54	24	0	0	0	0	1	0	79
合計	815	24	0	358	83	0	476	0	1,756

23. 救急患者来院数

診療月	救急患者数	救急患者取扱い時間帯							
		平日時間内		時間外		休日		深夜	
令和6年4月	636	105	16.5%	274	43.1%	127	20.0%	130	20.4%
令和6年5月	587	63	10.7%	214	36.5%	196	33.4%	114	19.4%
令和6年6月	612	80	13.1%	300	49.0%	118	19.3%	114	18.6%
令和6年7月	646	101	15.6%	302	46.7%	127	19.7%	116	18.0%
令和6年8月	674	94	13.9%	310	46.0%	156	23.1%	114	16.9%
令和6年9月	636	89	14.0%	263	41.4%	179	28.1%	105	16.5%
令和6年10月	592	99	16.7%	257	43.4%	126	21.3%	110	18.6%
令和6年11月	576	108	18.8%	237	41.1%	140	24.3%	91	15.8%
令和6年12月	683	108	15.8%	236	34.6%	207	30.3%	132	19.3%
令和7年1月	692	93	13.4%	213	30.8%	269	38.9%	117	16.9%
令和7年2月	535	88	16.4%	215	40.2%	146	27.3%	86	16.1%
令和7年3月	541	79	14.6%	229	42.3%	130	24.0%	103	19.0%
計	7,410	1,107	14.9%	3,050	41.2%	1,921	25.9%	1,332	18.0%
1月あたりの来院数	617.5	92.3		254.2		160.1		111.0	
1日あたりの来院数	20.3	3.0		8.4		5.3		3.7	

24. 救急車搬入件数及び転送件数

診療月	救急車搬入数	うち時間内 搬送数	うち時間外・ 休日搬送数	うち深夜搬送数 (再掲)	救急車転送数
令和6年4月	255	103	152	40	
令和6年5月	187	60	127	34	2
令和6年6月	217	77	140	49	5
令和6年7月	264	97	167	48	
令和6年8月	254	88	166	42	3
令和6年9月	224	87	137	33	3
令和6年10月	231	97	134	40	4
令和6年11月	254	104	150	31	6
令和6年12月	292	104	188	56	5
令和7年1月	288	90	198	51	4
令和7年2月	238	85	153	39	
令和7年3月	221	76	145	33	5
計	2,925	1,068	1,857	496	37
1月あたりの 来院数	243.8	89.0	154.8	41.3	3.1
1日あたりの 来院数	8.0	2.9	5.1	1.4	-

25. 来院方法別救急患者数

診療月	独歩・ 自家用車	救急車	ヘリコプター
令和6年4月	381	254	1
令和6年5月	400	185	2
令和6年6月	395	216	1
令和6年7月	382	264	0
令和6年8月	420	254	0
令和6年9月	412	224	0
令和6年10月	361	230	1
令和6年11月	322	254	0
令和6年12月	391	292	0
令和7年1月	404	288	0
令和7年2月	297	238	0
令和7年3月	320	221	0
計	4,485	2,920	5

26. 人間ドック受診者数

△	受入 可能数(人)	受入数(人)	稼働率	半日ドック(人) (しつかりコース)	半日ドック(人) (標準コース)	比率	
						しつかり	標準
R6.4月	28	26	92.9%	4	22	15.4%	84.6%
R6.5月	37	37	100.0%	6	31	16.2%	83.8%
R6.6月	36	35	97.2%	4	31	11.4%	88.6%
R6.7月	39	38	97.4%	11	27	28.9%	71.1%
R6.8月	36	36	100.0%	7	29	19.4%	80.6%
R6.9月	34	33	97.1%	6	27	18.2%	81.8%
R6.10月	39	39	100.0%	11	28	28.2%	71.8%
R6.11月	36	36	100.0%	5	31	13.9%	86.1%
R6.12月	36	36	100.0%	10	26	27.8%	72.2%
R7.1月	33	27	81.8%	9	18	33.3%	66.7%
R7.2月	32	23	71.9%	7	16	30.4%	69.6%
R7.3月	18	15	83.3%	4	11	26.7%	73.3%
計	404	381	94.3%	84	297	22.0%	78.0%

27. 診療情報開示請求件数

申請者別

診療月	申請者		使用目的					提供種類		
	本人	家族・親族	診療月	B型肝炎訴訟	保険金・年金請求	労災認定	訴訟準備	診断の確認	がん補装具申請	警察から
令和6年4月	6	0	令和6年4月	3	1	2	0	0	0	令和6年4月
令和6年5月	10	0	令和6年5月	5	0	3	1	0	0	令和6年5月
令和6年6月	4	0	令和6年6月	0	1	1	0	0	2	令和6年6月
令和6年7月	3	0	令和6年7月	2	1	0	0	0	0	令和6年7月
令和6年8月	10	0	令和6年8月	6	3	1	0	0	0	令和6年8月
令和6年9月	3	0	令和6年9月	2	0	0	1	0	0	令和6年9月
令和6年10月	7	0	令和6年10月	4	0	1	0	1	0	令和6年10月
令和6年11月	3	2	令和6年11月	2	1	1	0	0	0	令和6年11月
令和6年12月	5	0	令和6年12月	4	0	0	0	1	0	令和6年12月
令和7年1月	6	0	令和7年1月	4	1	0	0	1	0	令和7年1月
令和7年2月	1	0	令和7年2月	0	0	0	1	0	0	令和7年2月
令和7年3月	4	1	令和7年3月	1	0	1	2	0	0	令和7年3月
合計	62	3	合計	33	8	10	3	6	2	3
								合計	3	44
									11	7

提供種類

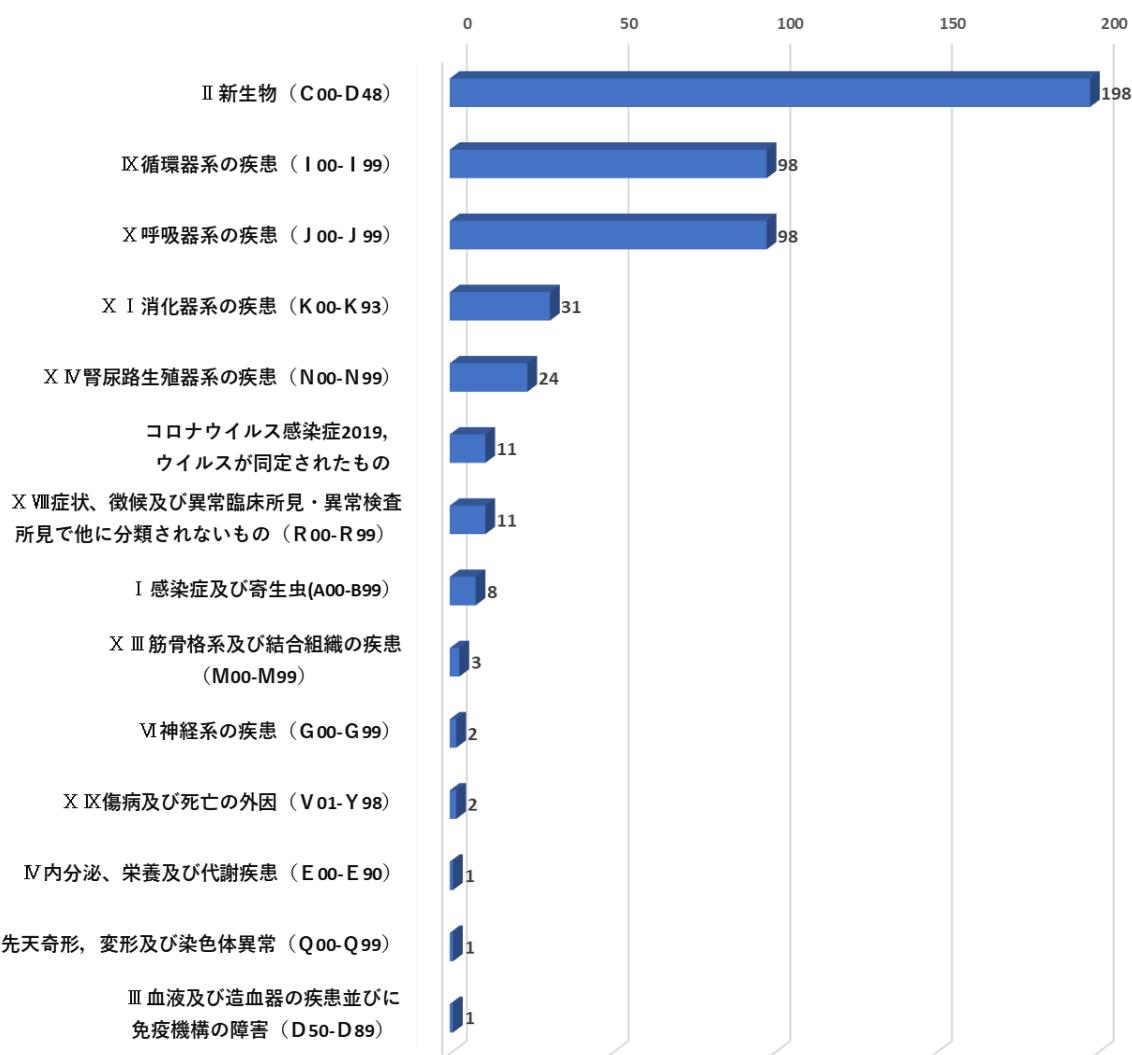
診療月	提供種類				
	検査記録	診療録	画像記録	画像記録	その他
令和6年4月	1	4	2	2	0
令和6年5月	0	8	2	2	0
令和6年6月	0	3	0	0	0
令和6年7月	0	2	1	0	0
令和6年8月	1	8	1	0	0
令和6年9月	0	3	0	0	0
令和6年10月	1	6	0	1	1
令和6年11月	0	1	2	4	
令和6年12月	0	1	0	2	
令和7年1月	0	4	1	0	
令和7年2月	0	1	0	0	
令和7年3月	0	3	2	0	
合計	3	44	11	7	

※診療録と画像や検査記録を同時に開示した場合は診療録に計上。その他は同意書や不存在証明書等。

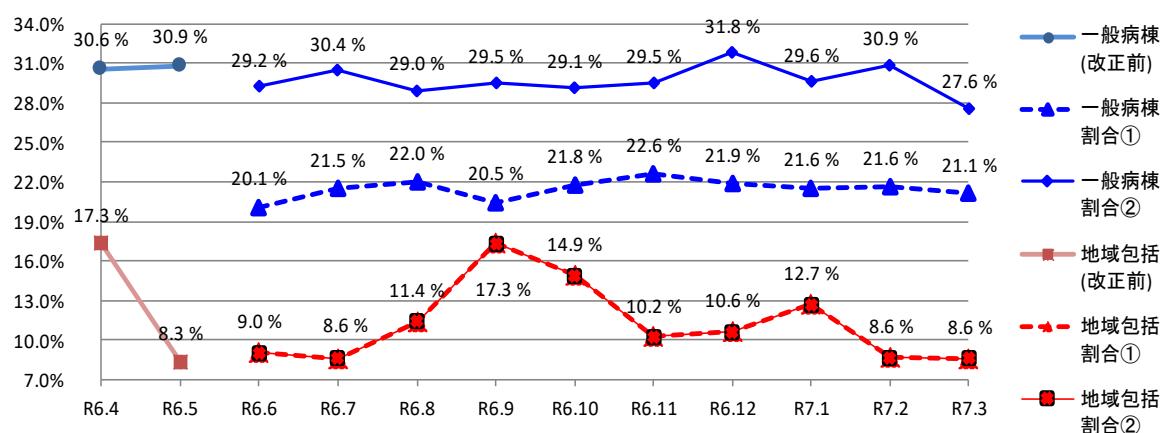
28. 診療科別疾病統計

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	その他	総数
	C34	J39	J18	J84	U07	C18	J44	J46	I50	A31		
呼 内	ICD10コード											
疾患名	気管支及び肺の悪性新生物	面形物及び液体物に よる肺器質	その他の間質性肺疾 患	肺炎、病原体不詳	2019.ウイルス感染症 されたいもの	呼吸器及び消化器の構 成器及び新生物	その他の慢性的肺疾 患	喘息発作重積状態	心不全	その他の非結核性抗 酸菌による感染症		
人數	190	36.4%	54	10.3%	45	8.6%	32	6.1%	31	5.8%	106	20.3%
割合	150	120	121	144	144	U07	T822	171	125	12	2.3%	522
内 部	ICD10コード											
疾患名	心不全	独立心	急性心筋梗塞	房室ブロック及び左 側ブロック	2019.ウイルス感染症 されたいもの	心臓及び血管の構造 及び機能不全	大動脈瘤及び解離	慢性血栓性心疾患	肺炎、病原体不詳	アテローム血管(粥 化)硬化(化生)		
人數	174	24.0%	90	12.6%	65	9.3%	29	4.1%	28	4.0%	200	28.5%
割合	D12	K30	C16	C18	C25	C24	C15	C22	K57	C20	701	
消 血	ICD10コード											
疾患名	結腸、直腸、肛門管の良性新生物	胆石症	胃の悪性新生物	結腸の悪性新生物	肺の悪性新生物	その他及び部位不明の 腸道の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪 性新生物	腸の憩室性疾患	直腸の悪性新生物			
人數	404	23.4%	124	7.2%	116	6.7%	84	4.8%	73	4.2%	66	3.8%
割合	P59	J78	J20	A08	F31	J06	M30	R56	G93	P22	681	38.5%
小 児	ICD10コード											
疾患名	その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	有害作用、他に分類 されないもの	急性気管支炎	急性咽頭炎	ワイルズ性及びその他の 明示されない腸管感染	多部位及び部位不明の急 性上気道感染症	結節多発性胸膜炎	けいれん(痙攣)、他に 分類されないもの	新生兒の呼吸管(喉) 及び腸道感染症	新生兒の呼吸管(喉) 及び腸道感染症		
人數	39	13.3%	39	13.1%	20	6.7%	14	4.7%	12	4.0%	11	3.7%
割合	G30	F20	E52	F43	F10	F49	F05	F03	G40	F60	298	
精 神	ICD10コード											
疾患名	アルツハイマー病 (Alzheimer病)	統合失調症	うつ病エピソード	双極性精神障害(躁 うつ病)	重度ストレスへの反 応及び適応障害	アルコール使用(飲酒) による精神及び行動的 障害	せん妄、アルコールそ の他の精神作用(飲酒) による精神及び行動的 障害	詳細不明の認知症	てんかん	特定の人格障害		
人數	46	26.5%	45	24.0%	28	15.5%	8	4.4%	5	2.0%	4	2.2%
割合	C50	C18	K56	K40	C16	C20	K55	K30	C78	K57	181	
外	ICD10コード											
疾患名	乳房の悪性新生物	結腸の悪性新生物	胃の悪性新生物	直腸の悪性新生物	卵巣の悪性新生物	卵巢中の腫瘍病	卵巣の良性新生物	急性虫垂炎	胆石症	呼吸器及び消化器の機 能の観察性疾患		
人數	84	10.1%	84	10.1%	64	6.0%	61	4.6%	55	6.0%	51	6.2%
割合	O80	P90	C56	C54	O24	D27	O68	P70	G3	D06	272	32.8%
産婦人	ICD10コード											
疾患名	単胎自然分娩	現在妊娠による難産(難 産を受ける妊娠)	卵巣の悪性新生物	子宮宮体部の悪性新 生物	妊娠中の腫瘍病	卵巣ストルバ氏管	胎児ストルバ氏管	胎児ストルバ氏管	胎児ストルバ氏管	子宮頸部の上皮内 癌		
人數	180	19.0%	83	9.0%	66	7.2%	60	6.5%	49	5.3%	30	3.3%
割合	G47	J32	H81	J35	J34	C04	D14	C11	J38	C12	356	38.7%
耳 鼻	ICD10コード											
疾患名	睡眠障害	慢性副鼻腔炎	前庭機能障害	扁桃及び adenoid の慢性疾患	鼻及び副鼻腔のその 他の障害	口(歯)底の悪性新 生物	中耳及び呼吸器系の 良性新生物	鼻(上)咽喉の悪性新 生物	鼻(上)咽喉の疾患	梨状隕凹洞(梨状窩) の悪性新生生物		
人數	30	13.0%	22	10.1%	21	9.6%	14	6.4%	7	3.2%	6	2.8%
割合	S72	S32	S22	S82	M48	S42	L03	N17	M17	S14	218	
整 形 外	ICD10コード											
疾患名	大腿骨骨折	腰椎及び骨盤の骨折	肋骨、胸骨及び胸椎 骨折	下腿の骨折、足首を 含む	その他の脊椎障害	肩及び上腕の骨折	蜂巢炎<蜂窩織炎>	膝関節炎<膝の関節 炎>	前腕の骨折	頭部の神経及び脊髓 の損傷		
人數	107	20.1%	52	9.8%	42	7.9%	42	7.3%	35	6.0%	29	5.4%
割合	C61	N18	C67	N10	C64	C66	N17	N20	N41	C65	533	
泌尿器	ICD10コード											
疾患名	前立腺の悪性新生物	慢性腎不全	膀胱の悪性新生物	急性尿細管間質性腎 炎	腎孟を除く腎の悪性新 生物	尿管の悪性新生物	急性腎不全	腎結石及び尿管結石	前立腺の炎症性疾患	腎盂の悪性新生物		
人數	151	26.7%	74	13.1%	62	11.0%	51	9.0%	24	4.2%	16	2.8%
割合	I63	I61	I62	S06	I60	G40	G45	I65	I69	C19	137	24.2%
脳 外	ICD10コード											
疾患名	脳梗塞	脳内出血	その他の非外傷性頭 蓋内出血	頭蓋内損傷	くも膜下出血	てんかん	一過性脳血管叢麻及 び間連症候群	脳膜外頭部の創傷及 び擦傷、頭部暴力全般 なかつての後遺症	その他の部位の感染 症	急性腎不全		
人數	199	4.0%	93	18.6%	42	8.5%	35	7.1%	24	4.9%	20	3.0%
割合	E11	J33	J18	J69	E87	J18	E10	E86	J15	N7	492	
内 代 神	ICD10コード											
疾患名	エンヌン・非伝代性 糖尿病(NIDDM)	コロナウイルス感染症 (さざな木の)	肺炎、病原体不詳	固形物及び液体物に よる肺器質	その他の肺器質、電解質 及び酸塩基平衡障害 尿尿<IDDM>	尿路系のその他の障 害	尿路系のその他の障 害	体液量減少症	細胞性肺炎、他に分 類されないもの	急性腎不全		
人數	57	35.6%	16	10.1%	12	7.5%	10	6.3%	5	3.1%	4	2.5%
割合	C34	K07	S27	G78	J86	S22	C37	J84	D14	D14	159	
呼 外	ICD10コード											
疾患名	気管及び肺の悪性 新生物	気胸	その他及び詳細不明 の呼吸器及び消化器の損 傷	発育、病原体不明の 新生生物	脳膜炎(症)	肺炎、病原体不詳	肋骨、胸骨及び胸椎 骨折	胸膜の悪性新生生物	その他の間質性肺疾 患	中耳及び呼吸器系の 良性新生生物		
人數	252	71.6%	23	6.5%	14	4.0%	11	3.1%	8	2.3%	6	1.7%
割合	K01	K09	G03	K10	J10	K04	F40	S01	J35	J32	352	
齒 口 外	ICD10コード											
疾患名	埋伏歯	歯頸面先天異常 [不分類合を含む]	歯肉の悪性新生物	頸骨のその他の疾患 組合の根尖部歯周 組織の疾患	恐怖症性不安障害	頭部の開放創	口蓋裂	慢性副鼻炎				
人數	22	27.8%	16	20.3%	9	11.4%	5	6.3%	4	5.1%	2	2.5%
割合											8	10.1%

29. 原死因統計



30. 看護必要度状況



※ R6.6より基準改正 割合①A得点3点以上、C得点1点以上のいずれか 割合②A得点2点以上、C得点1点以上のいずれか

V. 臨床指標

＜＜全国自治体病院協議会 臨床指標（一般）＞＞

※類似病院：病床数400以上の病院

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	類似病院 6年度平均値
入院患者満足度	97.5%	なし	96.6%	98.6%	98.0%
外来患者満足度	94.5%	96.4%	93.7%	90.2%	93.8%
紹介率【一般】	57.0%	61.7%	52.4%	51.3%	75.5%
逆紹介率【一般】	19.0%	22.2%	29.7%	36.0%	66.4%
新入院患者紹介率	26.8%	27.0%	29.1%	29.0%	37.5%
在宅復帰率	94.7%	92.6%	94.7%	92.1%	88.6%
地域医療機関サポート率	95.7%	92.3%	95.2%	92.3%	69.2%
地域分娩貢献率	113.8%	109.4%	109.1%	107.1%	35.3%
地域救急貢献率	58.9%	60.8%	67.3%	64.1%	34.9%
転倒・転落レベル2以上発生率	0.00125	0.00101	0.00118	0.00094	0.00125
褥瘡推定発生率	0.005	0.005	0.001	0.001	0.017
手術開始前1時間以内予防的抗菌薬投与率	92.1%	88.4%	89.7%	63.6%	86.0%
肺血栓塞栓症予防対策実施率	93.1%	93.9%	92.1%	93.3%	93.3%
クリニカルパス使用率【患者数】	47.9%	57.1%	53.8%	50.4%	52.6%
クリニカルパス使用率【日数】	25.7%	26.3%	26.7%	23.3%	32.8%
脳卒中連携パス使用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.6%
大腿骨地域連携パス使用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.6%
精神科病院入院からの身体疾患受入れ頻度	0.8	0.8	0.2	0.6	1.2
院内他科入院中の精神科診察依頼頻度	21.1	23.5	22.5	14.6	22.8
脳梗塞入院1週間以内リハビリ強度	9.7	9.3	9.5	10.7	12.8
脳梗塞ADL改善度	22.0	16.8	25.1	24.7	21.5
誤嚥性肺炎摂食指導実施率	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	16.3%
誤嚥性肺炎再入院率	1.9%	1.7%	1.8%	2.4%	4.0%
急性心筋梗塞アスピリン処方率	96.7%	89.6%	97.3%	94.9%	89.6%
急性心筋梗塞急性期PCI実施率	76.7%	79.2%	82.2%	86.4%	79.1%
急性心筋梗塞急性期PCI実施患者死亡率	8.7%	5.3%	1.7%	3.9%	1.8%
糖尿病入院栄養指導実施率	67.9%	41.5%	60.0%	78.0%	76.5%
脳梗塞急性期t-PA治療施行率【地域医療計画】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	93.4%
急性心筋梗塞PCI doortoballoon 90分施行率	95.5%	74.3%	85.5%	82.4%	62.0%
胃癌低侵襲手術率(内視鏡)	72.2%	66.7%	68.9%	82.9%	73.1%
胃癌低侵襲手術率(腹腔鏡)	6.7%	53.8%	35.7%	85.7%	82.3%
がん患者サポート率	13.0%	13.5%	17.1%	16.0%	11.5%
術中細胞診実施率(胃癌)	3.2%	0.0%	0.0%	54.5%	54.9%
放射線専門医診断寄与率	49.0%	54.1%	43.0%	42.1%	53.3%
安全管理薬剤指導率	47.1%	48.4%	48.5%	47.1%	43.7%
術後せん妄推定発生率	6.4%	6.6%	5.7%	5.3%	7.5%
HBV再活性化スクリーニング実施率	19.2%	21.5%	18.5%	17.3%	44.1%
警告薬剤定期検査実施率	94.4%	94.3%	93.7%	93.9%	85.6%

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	類似病院 6年度平均値
点滴抗生物質微生物検査実施率				79.5%	75.1%
せん妄ハイリスク患者ケア実施率				68.3%	69.2%

＜＜全国自治体病院協議会 臨床指標（精神）＞＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	総合病院精神科 有床 6年度平均値
入院患者満足度【精神科再掲】	92.9%	なし	55.6%	100.0%	89.6%
紹介率【一般精神科再掲】	82.4%	89.5%	73.7%	66.0%	68.5%
逆紹介率【一般精神科再掲】	74.4%	82.3%	81.1%	65.1%	134.0%
新入院頻度【精神科】	68.8	70.4	71.7	75.0	101.5
緊急措置件数【精神科】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
措置入院件数【精神科】	0.0	0.3	0.0	0.0	0.8
退院患者頻度【精神科】	77.1	73.8	76.3	73.3	107.4
在院3か月以内の退院率【精神科】	95.1%	87.6%	92.3%	92.0%	83.2%
退院後3か月以内の再入院率【精神科】	6.1%	10.1%	5.2%	10.0%	13.5%
在宅復帰率【精神科再掲】	80.8%	78.9%	81.9%	79.2%	73.8%
救急車来院件数【精神科】	21.5	29.0	27.8	32.8	12.4
警察関係車両来院件数【精神科】	0.3	1.0	1.0	0.0	1.6
転倒・転落レベル2以上発生率【精神科再掲】	0.00249	0.00182	0.00192	0.00326	0.00137
褥瘡推定発生率【精神科再掲】	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010
クリニックパス使用率【患者数精神科再掲】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.7%
クロザピン処方実人数【入院】	1.5	なし	なし	なし	2.5
クロザピン処方実人数【外来】	16.0	16.0	16.0	16.0	8.1
電気痙攣療法延べ人数【入院:全麻】	5.0	なし	なし	なし	25.4
作業療法延べ人数【入院】	749.3	628.8	362.3	414.8	852.5
作業療法延べ人数【外来】	なし	なし	なし	なし	119.3
訪問看護延べ人数【外来】	107.7	107.0	100.0	なし	184.7
アルコール依存患者数【外来】	2.0	0.5	0.8	0.5	4.4
アルコール依存患者数【入院】	3.3	0.8	0.0	0.5	1.6
薬物依存症患者数【外来】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
薬物依存症患者数【入院】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2

大館市立総合病院年報第14号編集にあたって

大館市立総合病院年報第14号（令和6年度）をお届けします。病院年報という形式としては14回目の刊行となりました。論文発表が主な内容であった業績集に、各診療科、各部門の臨床統計が加わったものを、現在、病院年報として発行しております。毎年、委員会で掲載内容を検討して内容の充実を図り、現在のページ数は200ほどとなっております。

今年度の病院年報では、昨年度に引き続き「全国自治体病院協議会 医療の質評価・公表等事業」における臨床指標を掲載しております。掲載内容は簡易的ではありますが、今後も、さらなる検討を重ね、内容を充実させていきたいと考えております。もちろん、臨床指標のみでなく、病院年報全体としても、内容の充実に加えて読みやすさも追求できるよう努めてまいりますのでよろしくお願ひします。

最後になりますが、第14号の発行にご協力いただいた原稿担当者の皆さんに感謝申し上げます。

院内年報編集委員会
令和8年1月23日 記

院内年報編集委員会

委 員 長	橋 本 浩	(副院長)
委 員 員	丹 代 諭	(副診療局長)
	畠 山 美嘉子	(看護部長)
	佐々木 藍	(臨床検査科)
	奥 村 渉	(放射線科)
	藤 島 哲 大	(薬剤科)
	関 本 葉 子	(栄養科)
	豊 口 卓	(リハビリテーション科)
	畠 山 隆 司	(経営企画課)
	中 村 太 陽	(経営企画課)
	鳥 潤 久 孝	(経営企画課)

大館市立総合病院年報

令和6年4月～令和7年3月 第14号
令和8年1月30日 発行

発行所 大館市立総合病院
〒017-8550 秋田県大館市豊町3-1
TEL (0186) 42-5370